

目次	ページ
第 1 章 ゲームの概要.....	1
第 2 章 カードの情報.....	2
第 3 章 オーナーとマスター.....	5
第 4 章 領域.....	6
第 5 章 情報と状態.....	9
第 6 章 ユニットと登場.....	9
第 7 章 特定行動.....	12
第 8 章 ゲームの準備.....	18
第 9 章 ゲームの進行.....	19
第 10 章 アタックとバトル.....	20
第 11 章 カードや能力のプレイと解決.....	24
第 12 章 効果の処理に関する用語.....	30
第 13 章 ルール処理.....	30
第 14 章 キーワードとキーワード能力.....	32
第 15 章 マーカーと疑似カード.....	37
第 16 章 イマジナリーギフトと処理.....	39
第 17 章 その他.....	41

総合ルール本文

第1章 ゲームの概要

1.1. ゲーム人数

- 1.1.1. このゲームは原則 2 名のファイターにより対戦を行うゲームです。それ以外のファイター数で行うゲームに関するルールは、現在の総合ルールでは対応していません。

1.2. ゲームの勝敗

- 1.2.1. いずれかのファイターが敗北した場合、ゲームはその時点で終了します。対戦相手が敗北し、自分が敗北していないファイターがゲームに勝利します。
- 1.2.2. いずれかのファイターが敗北条件を満たしている場合、チェックタイミング(11.5.1)で、そのファイターはルール処理(第 13 章)によりゲームに敗北します。
 - 1.2.2.1. いずれかのファイターのダメージゾーンにカードが 6 枚以上ある場合、そのファイターは敗北条件を満たしています。
 - 1.2.2.2. いずれかのファイターの山札にカードが 1 枚も存在しない場合、そのファイターはゲームの敗北条件を満たしています。
 - 1.2.2.3. いずれかのファイターのヴァンガードサークルにヴァンガードが 1 枚も存在せず、そのファイターのソウルにもカードが 1 枚も存在しない場合、そのファイターは敗北条件を満たしています。
- 1.2.3. すべてのファイターが同時に敗北する場合、そのゲームは引き分けになります。
- 1.2.4. すべてのファイターは、ゲーム中の任意の時点で投了を宣言することができます。投了を宣言したファイターはチェックタイミング(11.5.1)を待たずにただちに敗北し、ゲームは終了します。

- 1.2.4.1. 投了を行う行為は、いかなるカードの影響も受けません。また、カードの効果により投了を強制されることもなく、投了による敗北をなんらかの置換効果が置換することはありません。

- 1.2.5. なんらかのカードにより、いずれかのファイターが勝利したり敗北したりする効果が発生することがあります。この場合、チェックタイミング(11.5.1)を待たず、その効果の処理中にそのファイターは勝利または敗北し、ゲームは終了します。

1.3. ゲームの大原則

- 1.3.1. カードに書かれているテキストの内容が総合ルールの内容に矛盾する場合、テキストの内容を優先します。
- 1.3.2. なんらかの理由によりファイターが実行不可能なことを行うように求められた場合、それは単に行われません。同様に、効果により一定の量の行動を行うよう求められた場合、その一部のみ実行不可能な場合、可能な限りその行動を行います。
 - 1.3.2.1. すでにある状態にあるものを改めてその状態にするよう求められた場合、それは改めてその状態になるわけではなく、その行為自体が行われません。
 - 1.3.2.2. なんらかの理由で、ある行動が 0 単位、あるいはマイナス単位行われることを求める場合、その行動はまったく行われません。マイナスであっても逆の行動を求められることはありません。
 - 1.3.2.3. カードや能力や効果中のコストとして行う行動が、なんらかの理由で 0 回あるいはマイナス回行う事になった場合、その行動をコストとして行うことを選択でき、結果として何も実行せずにその分のコストは実行したことになります。
 - 1.3.2.4. ある行動を実行する際に、その行動の中で‘可能な限り’指定数の処理を実行する指示がある場合、その処理を実行するファイターは、その処理を行う回数が可能な限り指定数に近づくように、その指定数の事物を選択する義務があります。
 - 1.3.2.4.1. 効果により‘可能な限り’指定数の処理を実行する指示があり、それを指定数実行することがいずれかのプレイヤーに公開されていないカードの情報が理由で不可能である場合、そのカードの情報をすべてのプレイヤーに公開する必要があります。

例: ‘あなたの手札を 1 枚可能な限りリアガードサークルにコールする’という効果を実行する指示があり、あなたの手札にリアガードサークルにコールできるカードとコールできないカードがある場合、あなたはコールできるカードを選択する義務があります。一方で、手札のすべてのカードがコールできないカードである場合、それらを公開する義務があります。
- 1.3.3. あるカードの効果によりなんらかの行動を行うよう指示された場合に、同時にその行動を禁止する効果が発生している場合、常に禁止する効果が優先されます。
- 1.3.4. なんらかの理由で複数のファイターが同時になんらかの選択を行うよう求められた場合、ターンファイターから先に選択を行います。非ターンファイター

は、ターンファイターの選択の内容を知ってから自分の選択を行います。

1.3.4.1. 非公開領域のカードを同時に選択する場合、ターンファイターがカードの内容を公開しないまま必要な枚数を選択し、その後非ターンファイターが必要な枚数を選択します。選択したカードを公開する場合は、この後に行います。

1.3.5. カードやルールによりなんらかの数を選ぶ場合、特に指定がない限り、0以上の整数を選ぶ必要があります。1未満の端数を含む数やマイナスの数は選べません。

1.3.5.1. カードやルールにより「～まで」のように上限の数が定められている場合、特に下限の数の指定がないかぎり0を選ぶことができます。

1.3.6. ルールや効果により、ある数値が現在の数値よりも上の値に変更された場合、その値は増加したものとみなされます。同様に、ある数値が現在の数値よりも下の値に変更された場合、その値は減少したものとみなされます。

1.3.6.1. 値を「増加」する指示があり、その指示を適用した結果その数値が効果適用前よりも小さくなった場合、その値は増加ではなく減少したものとみなされ、逆も同様です。

1.3.7. プレイヤーやカード等のある事物がある行動を開始した場合、その内容に従い以下の事象が発生します。

1.3.7.1. ある事物 A が単発である行動 X を実行した場合、それにより「A が X した」事象が発生します。

1.3.7.2. ある事物 A が継続的に実行される行動 X を開始した場合、それにより「A が X した」事象が発生し、その X が行われている間、「A は X している」状態になります。

例：リアガードがアタックを行った場合、「リアガードがアタックした」事象が発生し、そのバトル中、「リアガードがアタックしている」状態になります。

1.3.7.3. ある事物 A がある事物 B に継続的に実行される行動 X を開始した場合、それにより「A が B に X した」事象と「B が A に X された」事象が発生し、その X が行われている間、「A は B に X している」状態であり「B は A に X されている」状態になります。

例：ヴァンガードがリアガードにアタックを行った場合、「ヴァンガードがリアガードにアタックした」事象と「リアガードがヴァンガードにアタックされた」事象が発生し、そのバトル中、「ヴァンガードがリアガードにアタックしている」状態であり「リアガードがヴァンガードにアタックされている」状態になります。

1.3.7.4. 1.3.7.2 や 1.3.7.3 において、その継続的に実行される行動が終了した場合でも、開始時点で発生した「～した」事象は取り消されません。

例：後列のリアガードが前列のヴァンガードをブーストし、その後そのバトル中にそのリアガードがサークルを移動することでブーストしていない状態になったとしても、このユニットがブーストした事象は取り消されません。

第2章 カードの情報



① カード名

② クラン

③ 種族

④ グレード

⑤ パワー

⑥ シールド

⑦ クリティカル

⑧ トリガーアイコン

⑨ タイプ

⑩ スキルアイコン

⑪ テキスト

⑫ フレーバー

⑬ イラスト

⑭ 下端情報

⑮ 国家

⑯ イマジナリーギフトアイコン

2.1. カード名

2.1.1. このカードの持つ固有名称を表す情報です。

2.1.1.1. カード名に、そのカードの読み方を示す振り仮名が振られることがあります。これはカード名の一部ではなく、ルール上は無視されます。

2.1.1.2. テキストの中で「」(鉤括弧)に囲まれている文章は、その文脈に応じてカード名またはカード名の一部を意味します。

2.2. クラン

2.2.1. このカードが属するクランを表す情報です。

2.2.1.1. クランはドライブチェック(10.6.1.2)や13.6.4の際に参照されます。

2.2.2. クランは、他の能力や効果により参照されることがあります。

2.2.3. テキストの中で《》(二重山括弧)に囲まれている文章はクランです。

2.2.3.1. ‘～は《(クラン)》にも属する’というテキストは、該当するカードに対して《》に囲まれているクランを追加する効果です。

2.2.4. クランが《クレイエレメンタル》であるカードは、すべてのクランと国家に属します。

2.2.5. クランの表記がないオーダーカードは、すべてのクランと国家に属します。

2.3. 種族

2.3.1. このカードの種族を表す情報です。

2.3.2. 種族は他の能力や効果により参照されることがあります。

2.3.3. テキストの中で〈〉(山括弧)に囲まれている文章は種族です。

2.4. グレード

2.4.1. カードのライド時やコール時に参照する数値です。

2.4.2. グレードはこのカードをプレイするための制限となることがあります。

2.5. パワー

2.5.1. このカードの戦闘力を表す数値です。高いほどバトルで有利になります。

2.5.2. ‘パワー’という語句は、テキストにおいてのアイコンで示される場合があります。

2.5.3. この欄にあるパワー数値の直後に‘+’が書かれている場合があります。これはルール上の意味を持ちません。

2.6. シールド

2.6.1. このカードのガーディアン(10.5.1.2.2)としての戦闘力を表す数値です。高いほど相手のアタックから味方のユニットを守る効率が高くなります。

2.6.2. シールドはカード内でのアイコンで示される場合があります。

2.6.3. ユニットの中にはシールドを持たないものも存在します。

2.7. クリティカル

2.7.1. このカードがバトルにおいて相手ヴァンガードに与えるダメージの基準値を表す数値です。

2.7.2. クリティカルはカード内でのアイコンで示される場合があります。

2.8. トリガーアイコン

2.8.1. ゲーム中、ルールの指示によりトリガーゾーンに置かれた場合に発生する処理を示すアイコンです。

2.8.2. トリガーアイコンには以下の種類が存在し、それぞれに対応する行動があります。

2.8.2.1. アイコンなし: 何も発生しません。

2.8.2.2.  (クリティカルトリガー): ‘自分のユニットを1枚選び、そのターン中、クリティカルを+1する’ ‘自分のユニットを1枚選び、そのターン中、トリガーアイコンによるパワー修正(2.8.4)を行う’の2つの処理を実行します。

2.8.2.2.1. この2つの処理では、同一のユニットを選ぶことも別々のユニットを選ぶことができます。

2.8.2.2.2. クリティカルトリガーはテキスト中ではまたはで表されます。

2.8.2.3.  (ドロートリガー): ‘カードを1枚引く’ ‘自分のユニットを1枚選び、そのターン中、トリガーアイコンによるパワー修正(2.8.4)を行う’の2つの処理を実行します。

2.8.2.3.1. ドロートリガーはテキスト中ではまたはで表されます。

2.8.2.4.  (スタンドトリガー): ‘自分のユニットを1枚選び、それがリアガードならスタンドする’ ‘自分のユニットを1枚選び、そのターン中、トリガーアイコンによるパワー修正(2.8.4)を行う’の2つの処理を実行します。

2.8.2.4.1. この2つの処理では、同一のユニットを選ぶことも別々のユニットを選ぶことができます。

2.8.2.4.2. スタンドトリガーはテキスト中ではで表されます。

2.8.2.5.  (ヒールトリガー): ‘あなたのダメージゾーンのカードの枚数が相手のダメージゾーンのカードの枚数以上なら、あなたは自分のダメージゾーンのカードを1枚選び、回復する’ ‘自分のユニットを1枚選び、そのターン中、トリガーアイコンによるパワー修正(2.8.4)を行う’の2つの処理を実行します。

2.8.2.5.1. ヒールトリガーはテキスト中ではまたはで表されます。

2.8.2.6.  (フロントトリガー): ‘そのターン中、トリガーアイコンによるパワー修正(2.8.4)を、あなたの前列にあるサークルにいるすべてのユニットに行う’処理を実行します。

2.8.2.6.1. フロントトリガーはテキスト中ではで表わされます。

2.8.3. 2.8.2の各アイコンによる処理やそれにより発生する継続効果を‘トリガー効果’と呼びます。

2.8.3.1. 何らかの効果により、あるユニットに与えられるトリガー効果が他のユニットに与えられた場合、その効果もトリガー効果です。

2.8.3.2. トリガーアイコンに複数の行動が書かれている場合、それは任意の順番で実行することができます。

2.8.3.3. ‘トリガーの効果は無効にする’能力が有効である場合、ドライブチェックやダメージチェック

によってトリガーゾーンに置かれたカードのアイコンによる効果は発生しません。

- 2.8.3.3.1. ‘トリガーの効果が無効にする’能力が有効であっても、その効果が有効になるまでに処理された、トリガーゾーンに置かれたカードのアイコンによる効果の適用が取り消されることはありません。

- 2.8.4. トリガーアイコンによるパワー修正を行う場合、指定されたユニットは、トリガーアイコンの下部に表記されている値だけパワーが増えます。

例：トリガーアイコンがである場合、アイコン下部の表記は‘+10000’なので、指定のユニットのパワーは+10000 されます。

- 2.8.5. なんらかの理由で複数のトリガーアイコンを基準とする処理を同時に実行することが求められる場合、各トリガーアイコンを基準とする処理を1回ずつ、任意の順番で実行します。

2.9. タイプ

- 2.9.1. カードの種類を表わす情報です。

- 2.9.2. カードのタイプは、メインタイプ、サブタイプ、特殊タイプの3つからなります。

- 2.9.2.1. すべてのカードは原則としてメインタイプとサブタイプを持ちます。

- 2.9.2.2. 一部の疑似カード(15.1.2.4)は特殊タイプを持つことがあります。

- 2.9.3. カードは‘ユニット’か‘オーダー’か‘ハーツ’のいずれか1つのメインタイプを持ちます。

- 2.9.3.1. ‘ユニット’はフィールドに登場し、相手とのバトルを行ったりその補助をしたりするカードの総称です。

- 2.9.3.1.1. ルールや能力や効果が特に領域を指定せずに‘ユニット’を参照する場合、それはフィールド(4.8)にある、メインタイプが‘ユニット’のカードを指します。

- 2.9.3.2. ‘オーダー’はユニットやファイターを補助する能力のみを持つ使い捨てのカードの総称です。

- 2.9.3.3. ‘ハーツ’はハーツ状態のカード(6.5.2.2)が持つメインタイプです。

- 2.9.4. カードはそのメインタイプに応じたサブタイプを持つ場合があります。

- 2.9.4.1. メインタイプが‘ユニット’のカードは、サブタイプとして‘ノーマル’‘トリガー’‘G’‘トークン’のいずれかを持ちます。

- 2.9.4.2. メインタイプが‘オーダー’のカードは、サブタイプとして‘ノーマル’‘ブリッツ’のいずれかを持ちます。

- 2.9.4.3. メインタイプが‘ハーツ’のカードは、そのカードの元々のサブタイプを維持します。

- 2.9.5. 一部のカードや疑似カード(15.1.2.4)は特殊タイプを持つことがあります。

- 2.9.5.1. 特殊タイプはタイプとは異なり、独立しています。タイプを追加する、失う、変更する効果は特殊タイプに影響せず、逆も同様です。

- 2.9.5.2. 一部の特殊タイプは、その特殊タイプに付随するルールを持ちます。

- 2.9.6. カードのタイプは、サブタイプとメインタイプを併記する形で表記します。

例：メインタイプが‘ユニット’、サブタイプが‘トリガー’のカードのタイプは‘トリガーユニット’と表記します。

2.10. スキルアイコン

- 2.10.1. そのカードが持つ能力のうち1つをアイコンで表記したものです。

- 2.10.1.1. のアイコンがあるカードは‘ブースト’(14.4)を持ちます。

- 2.10.1.2. のアイコンがあるカードは‘インターセプト’(14.3)を持ちます。

- 2.10.1.3. のアイコンがあるカードは‘ツインドライブ!!!’(14.2.3)を持ちます。

- 2.10.1.4. のアイコンがあるカードは‘トリプルドライブ!!!’(14.2.4)を持ちます。

2.11. カードテキスト

- 2.11.1. このカードが持つ固有の能力を示す情報です。

- 2.11.1.1. この部分に書かれた文章またはその一部を‘テキスト’と呼びます。

- 2.11.2. カードテキスト枠内で特定の文字列を強調するため、テキストが黒でない色で表記されることがあります。テキストの色はルール上の意味を持ちません。

- 2.11.3. テキストの中に、() (丸括弧)で囲まれた、能力を詳しく説明したものが存在することがあります。これは注釈文と呼ばれるものです。注釈分はテキストの一部ですが、あくまで能力の解説を目的とした意味を持つだけで、ゲームには影響しません。

2.12. フレーバー

- 2.12.1. カードの内容をイメージした文章です

- 2.12.2. フレーバーは、ゲーム上は特に意味を持ちません。

2.13. イラスト

- 2.13.1. カードの内容をイメージしたイラストです。

- 2.13.2. イラストは、ゲーム上は特に意味を持ちません。

2.14. 付帯条項

- 2.14.1. カードのコレクター番号、イラストレーター表記、カードの著作権表記等、これまでに示された内容以外のゲームに直接無関係な表記をまとめて‘付帯条項’と呼びます。

- 2.14.2. 付帯条項は情報ではなく、原則としてゲーム上は特に意味を持ちません。

- 2.14.2.1. コレクション番号は、デッキ構築の際に一部の効果が参照することがあります(8.1.9)。

2.15. 国家

- 2.15.1. このカードが属する国家を表す情報です。

- 2.15.2. 国家は、他の能力や効果により参照されることがあります。

- 2.15.3. 国家は以下の6つがあり、それぞれに対応した国家アイコンで示されます。

ユナイテッドサンクチュアリ



ドラゴンエンパイア



スターゲート



ダークゾーン



メガラニカ



ズー



2.15.4. 国家アイコンを持ち、カードの情報に特定のクランに属していることが書かれていないカードは、以下の表でそのカードが持つ国家アイコンに対応したクランすべてに属しています。

ロイヤルパラディン	ユナイテッドサンクチュアリ
オラクルシンクタンク	
エンジェルフェザー	
シャドウパラディン	
ゴールドパラディン	
ジェネシス	
かげろう	ドラゴンエンパイア
ぬばたま	
たちかぜ	
むらくも	
なるかみ	
ノヴァグラップラー	スターゲート
ディメンジョンポリス	
エトランジェ	
リンクジョーカー	
スパイクブラザーズ	ダークゾーン
ダークイレギュラーズ	
ペイルムーン	
ギアクロニクル	
グランブルー	メガラニカ
バミューダ△	
アクアフォース	
メガコロニー	ズー
グレートネイチャー	
ネオネクタール	

2.16. イマジナリーギフトアイコン

2.16.1. カードがこのアイコンを持つ場合、このカードはイマジナリーギフト(16.1)を持ちます。

2.16.1.1. アイコンに応じて、このカードは以下のクランタイプ(16.2.1.1)のイマジナリーギフトを持ちます。

2.16.1.2. アイコンがであるカードはクランタイプ‘フォース’のイマジナリーギフトを持ちます。

2.16.1.3. アイコンがであるカードはクランタイプ‘アクセル’のイマジナリーギフトを持ちます。

2.16.1.4. アイコンがであるカードはクランタイプ‘プロテクト’のイマジナリーギフトを持ちます。

2.17. ドライブ

2.17.1. このカードがアタックしているバトルでドライブチェックを行う回数の基準値を表す数値です。

2.17.2. この情報はカードに記載されておらず、すべてのカードの元々の値として1を持ちます。

2.17.2.1. ‘ツインドライブ!!’や‘トリブルドライブ!!!’のスキルアイコンを持つカードは、その能力に応じてドライブの値が変わります。

第3章 オーナーとマスター

3.1. ファイター

3.1.1. ファイターとは、このゲームを実際に進行しているプレイヤーのことを指します。

3.2. オーナーとマスター

3.2.1. オーナーとは、カードの物理的な所有者を指します。あるカードのオーナーとは、そのカードをデッキに入れてゲームを開始したファイターを指します。ゲームが終了した段階で、各ファイターは自分がオーナーであるカードをすべて取り戻します。

3.2.2. マスターとは、カードや能力や効果などを現在使用しているファイターを意味します。いずれかの領域に置かれているカードのマスターとは、その領域が属しているファイターを指します。

3.2.2.1. 永続能力のマスターとは、その能力を有するカードやその能力を発生した効果のマスターを指します。

3.2.2.2. 起動能力のマスターとは、それをプレイしたファイターを指します。

3.2.2.3. 自動能力のマスターとは、その能力を有するカードやその能力を発生した効果のマスターを指します。

3.2.2.4. オーダー能力のマスターとは、その能力を有するオーダーカードのマスターを指します。

3.2.2.5. 効果のマスターとは、その効果を発生した能力のマスターを指します。

3.2.2.5.1. ある効果により特にファイターが指定されずになんらかの行動を行うよう指示されている場合、その効果のマスターがその指示を実行します。

第4章 領域



4.1. 領域の基本

- 4.1.1. 領域は、特に指定がない限り、各ファイターがそれぞれ1つずつ異なるものを有します。
- 4.1.2. 領域によっては、そこに置かれているカードの内容や情報をすべてのファイターが見ることのできる領域とできない領域が存在します。カードの内容を見ることができる領域を‘公開領域’、できない領域を‘非公開領域’と呼びます。
- 4.1.3. 公開領域にカードが置かれる場合、そのカードは公開状態(4.2.2)で置かれます。非公開領域にカードが置かれる場合、そのカードは非公開状態(4.2.3)で置かれます。
- 4.1.4. 領域が公開であるか非公開であるかにかかわらず、それぞれの領域にあるカードの枚数は、すべてのファイターがいつでも確認することができます。
- 4.1.5. 公開領域のカードがルールやカードの効果により裏向きになっている場合でも原則としてそのカードの内容をすべてのファイターが見ることができます。非公開領域のカードがルールやカードの効果により表向きになっている場合、原則としてそのカードの内容はすべてのファイターが見ることができます。
- 4.1.6. 非公開領域のカードを他の領域に移動しようとした、またはその領域内で別な状態にしようとした際に、何らかの効果により、そのカード自身が持つ情報のためにそのカードの移動や状態の変更が禁止される場合、そのカードを明示します。
- 4.1.7. 領域によっては、そこに置かれるカードの順番が管理されます。順番が管理される場合、カードの順番はカードを重ねることによる上下関係により管理します。順番が管理される領域においては、ファイターは特に指示がないかぎり、その順番を変更できません。
 - 4.1.7.1. 順番が管理されない領域にカードを移動する場合、そのカードをその領域に移動することを明示した後、その領域の任意の位置にそのカードを移動することができます。

4.1.8. カードがサークルから他のサークルへの移動を行う場合、それは元のカードと同一のカードであるとみなされ、元のカードに適用されていた効果が適用され続けます。一方、サークルからサークルへの移動でない領域間の移動を行う場合、特に指示がないかぎり、それは新しい領域における新しいカードであるとみなされます。前の領域で適用されていた効果がそのまま適用されることはありません。

4.1.8.1. ひとつのカードの効果によってカードの領域移動を行い、移動させた先のカードに対して何らかの処理を行う場合、その効果は移動させたカードを追跡し、処理を行います。

- 4.1.9. 複数のカードがある領域に同時に置かれる場合、特に指定が無い限り、新しい領域に置く順番は、その領域が属するファイターが決定します。
- 4.1.10. 公開領域から非公開領域に複数のカードが同時に置かれる段階で、それらのカードを置く順番をカードのマスターが決定できる場合、マスター以外のファイターはそれらのカードが置かれる順番を知ることができません。
- 4.1.11. 非公開領域の特定の位置にカードが置かれる場合、その位置に置かれたカードの枚数は、すべてのファイターが知ることができます。
- 4.1.12. あるカードが、属するファイターが指定されていない領域に移動することを指示されている場合、特に指定が無い限り、そのカードのオーナーに属する指定領域に移動します。
- 4.1.13. あるカードがそのカードのオーナーと異なるファイターに属する領域に移動しようとする場合、その移動は行われません。

4.2. 領域の可視状態

- 4.2.1. 領域内にあるカードは、公開状態か非公開状態かのいずれかの状態を持ちます。
- 4.2.2. 公開状態とは、カードの内容や情報をすべてのファイターが見ることのできる状態です。
- 4.2.3. 非公開状態とは、一部または全部のファイターがカードの内容や情報を見ることができない状態です。

4.3. カードの配置状態

- 4.3.1. 一部の領域において、カードの配置状態が指定される場合があります。配置状態には、向きを示す状態と、表示面を表す状態があります。
- 4.3.2. 向きを表す状態は、‘スタンド状態’か‘レスト状態’、のいずれかです。あるカードの向きを表す状態はこのうち1つのみを持ち、同時に複数の状態を持ったり、どの状態も持たなかったりすることはありません。
 - 4.3.2.1. スタンド状態のカードは、そのカードのマスターから見て縦向き正位置になるように置きます。テキストにおいて、‘スタンド’という単語は  のアイコンで表記されることがあります。
 - 4.3.2.2. レスト状態のカードは、そのカードのマスターから見て横向きになるように置きます。‘レスト’という単語は  のアイコンで表記されることがあります。
 - 4.3.2.3. 配置状態が指定される領域にカードが置かれる場合、特に指定がないかぎりスタンド状態で置かれます。

- 4.3.3. 表示面を表す状態は、‘表向き’か‘裏向き’のいずれかです。あるカードの表示面はこのうち1つのみを持ち、同時に複数の状態を持ったり、どの状態も持たなかったりすることはありません。
- 4.3.4. 表向き状態のカードは、カードの情報が書かれている面が見えるように置きます。原則として、表向きのカードの情報はすべてのファイターが見ることができます。
- 4.3.5. 裏向き状態のカードは、カードの情報が書かれている面が見えないように置きます。原則として、裏向きのカードの情報はどのファイターも見ることができません。
- 4.3.6. 原則として、表向きに置かれたカードは公開状態であり、公開状態で置かれるカードは表向きに置かれます。同様に、裏向きに置かれたカードは非公開状態であり、非公開状態で置かれるカードは裏向きに置かれます。
- 4.4. カードタイプと領域の移動
- 4.4.1. 特定のメインタイプやサブタイプを持つカードは、特定の領域への移動に対し、固有のルールを持ちます。
- 4.4.2. Gゾーン以外にあるサブタイプが‘G’であるカードが、超越(6.5.1)による移動、またはリアガードサークルやヴァンガードサークルからリアガードサークルへの移動のどちらでもない領域間の移動を行う場合、そのカードは以下に従ってGゾーンに移動します。
- 4.4.2.1. そのカードがヴァンガードである場合、他の領域に移動しようとする際、その移動を行うのではなくGゾーンに表向きで置かれます。
- 4.4.2.2. そのカードがリアガードである場合、その移動を実行した後、チェックタイミングを待たずにただちにその移動先の領域からGゾーンに表向きで置かれます。
- 4.4.3. メインタイプが‘オーダー’であるカードがいずれかのサークルに移動しようとする場合、それはその移動を行うのではなくドロップゾーンに置かれます。
- 4.5. 山札
- 4.5.1. ゲーム開始時に自分のデッキを置く領域です。
- 4.5.2. 山札は非公開領域で、カードの順番が管理されます。ファイターは効果やルールによる指示がある場合にのみ、山札のカードの順番を変更したり、そのカードの情報を知ったりすることができます。
- 4.5.3. 山札のカードが複数枚同時に移動する場合、1枚ずつ移動を実行します。
- 4.6. 手札
- 4.6.1. 各ファイターが未使用のカードを相手に見せずに置く領域です。
- 4.6.2. 手札は非公開領域ですが、自身の手札のカードの内容は自由に見ることができます。他のファイターの手札のカードの内容を見ることはできません。自身の手札のカードの順番は管理されません。
- 4.6.3. ‘手札にあるカードを(数値)枚’は、カードテキストにおいて単に‘手札を(数値)枚’と表記されます。
- 4.7. ドロップゾーン
- 4.7.1. 各ファイターの使用済みのカード等が置かれる領域です。
- 4.7.2. ドロップゾーンは公開領域です。この領域のカードは表向きに置かれ、いずれのファイターも自由に内容を見ることができます。ドロップゾーンのカードの順番は管理されません。
- 4.8. フィールド
- 4.8.1. 自身のユニットを配置する領域です。
- 4.8.2. この領域内には原則として7つのサークルが存在します。各サークルに置かれているカードは、同時に属するフィールドに置かれています。
- 4.8.3. フィールドは公開領域です。
- 4.9. サークル
- 4.9.1. 自身のカードを実際に配置する領域です。ファイター1人につき前列左、前列中央、前列右、後列左、後列中央、後列右、最前列中央の7つのサークルがあります。
- 4.9.1.1. 前列左と後列左、前列中央と後列中央、前列右と後列右それぞれをまとめて縦列と呼びます。
- 4.9.1.2. 自分の縦列と向かい合う相手の縦列は同じ縦列です。具体的には、自身の左と相手の右、自身の中央と相手の中央、自身の右と相手の左の各サークルは、それぞれ同じ縦列になります。
- 4.9.1.3. 1人のファイターの前列のすべてのサークル、または1人のファイターの後列のすべてのサークルそれぞれをまとめて横列と呼びます。
- 4.9.2. フィールドのサークルは‘ヴァンガード’‘リアガード’‘ガーディアン’‘呪縛’‘星域’‘ステージ’のいずれか1つまたは複数の属性を有します。
- 4.9.2.1. ある属性を持つサークルは、‘(その属性名)サークル’の名称を持ちます。
例:ヴァンガードの属性を持つサークルは、‘ヴァンガードサークル’の名称を持ちます。
- 4.9.2.2. 前列中央のサークルのゲーム開始時の属性はヴァンガード属性です。
- 4.9.2.2.1. リアガードサークルを含む他の領域からヴァンガードサークルに超越(6.5.1)以外でカードが置かれる場合、それはスタンド状態で置かれます。
- 4.9.2.3. 最前列中央のサークルのゲーム開始時の属性はガーディアン属性です。
- 4.9.2.3.1. 特に指示がないかぎり、この領域にカードが置かれる場合、それはレスト状態で置かれます。
- 4.9.2.4. 前列中央と最前列中央以外のサークルのゲーム開始時の属性はリアガード属性です。以降、カードが置かれていないサークル、または表向きのカードが置かれているサークルはリアガード属性です。
- 4.9.2.4.1. ヴァンガードサークルを含む他の領域からリアガードサークルにカードが置かれる場合、それはスタンド状態で置かれます。

- 4.9.2.4.2. リアガードサークルからリアガードサークルにカードが置かれる場合は、元の配置状態で置かれます。
- 4.9.2.5. 呪縛カード(7.30.1)が置かれているサークルの属性は呪縛属性です。
- 4.9.3. サークルは公開領域です。サークルのカードは表向きに置かれ、いずれのファイターも自由に内容を見ることができます。
- 4.9.3.1. なんらかの効果やコストによって、サークルにカードを裏向きに置かれていても、そのカードは公開領域にあります。双方のファイターはその内容を確認することができます。
- 4.9.4. 原則として、ヴァンガードサークルとリアガードサークルと呪縛サークルにはカードは1枚しか置かれませんが、ガーディアンサークルには複数枚のカードが置かれることがあります。
- 4.9.5. Gゾーン以外にあるGユニットが、リアガードサークルからリアガードサークルへの移動以外で他の領域に移動する場合、移動した直後、または一連の移動を完了した直後にそのGユニットのオーナーのGゾーンに表向きに置かれます。
- 4.9.6. サークルは、他の属性に加えて星域属性(17.6)を持つことがあります。
- 4.10. ソウル
 - 4.10.1. ゲーム中において一部のカードが置かれる場所です。ソウルはフィールドには含まれません。
 - 4.10.1.1. ソウルに置かれているカードは、ヴァンガードの下に重ねることでソウルにあることを示します。
 - 4.10.2. ソウルは公開領域です。この領域のカードは表向きに重ねて置かれ、いずれのファイターも自由に内容を見ることができます。自身のソウルのカードの順番は管理されません。
- 4.11. ダメージゾーン
 - 4.11.1. ゲームの進行中、ヴァンガードが実際に受けたダメージを表わすカードが置かれていく領域です。
 - 4.11.2. ダメージゾーンは公開領域です。この領域のカードは表向きに重ねて置かれ、いずれのファイターもその内容や順番を見ることができます。ダメージゾーンのカードの順番は管理されません。
 - 4.11.2.1. なんらかの効果やコストによって、ダメージゾーンにカードを裏向きに置くよう指示された場合でもそのカードは公開領域にあります。双方のファイターはその内容を確認することができます。
 - 4.11.3. ダメージゾーンに裏向きで置かれているカードはカードの情報を持たず、追加することができません。
 - 4.11.4. 自身のこの領域に置かれているカードが6枚以上である場合、ルール処理により、そのファイターは敗北します(13.2.2)。
- 4.12. バインドゾーン
 - 4.12.1. ゲームの進行中に、バインドされたカードがある場合にカードが置かれる領域です。
 - 4.12.2. バインドゾーンは公開領域です。表向きで置かれているカードはいずれのファイターもその内容や順番を見ることができます。
 - 4.12.3. バインドゾーンのカードが表向きから裏向きに変化したり、別の領域から裏向きで置かれたりする場合があります。バインドゾーンの裏向きのカードはそのカードのオーナーは表を見ることができます。オーナー以外のファイターはそのカードの表を見ることができません。
 - 4.12.4. バインドゾーンに裏向きで置かれているカードはカードの情報を持たず、追加することができません。
 - 4.12.5. バインドされたカードや、それを参照するカードがゲームに影響をおよぼすことがあります。そのため、バインドゾーンのカードは、どの効果によってバインドゾーンに置かれたのか区別できるよう、バインドさせたカードごとに一つの束にして置きます。自身のバインドゾーンのカードは、束内で順番を自由に変更することができます。
- 4.13. トリガーゾーン
 - 4.13.1. ゲームの進行中に、カードが一時的に置かれる領域です。
 - 4.13.1.1. ドライブチェック(10.6.1.2)によって山札から公開されたカードはトリガーゾーンに置かれ、アイコンによる効果を発生した後にオーナーの手札に入ります。
 - 4.13.1.2. ダメージチェック(13.6.4)によって山札から公開されたカードはトリガーゾーンに置かれ、アイコンによる効果を発生した後にオーナーのダメージゾーンに置かれます。
 - 4.13.2. トリガーゾーンは公開領域です。この領域のカードは表向きに重ねて置かれ、いずれのファイターもその内容や順番を見ることができます。トリガーゾーンのカードの順番は管理されます。この領域にカードを置く場合、それまでにあったカードの上に置きます。
- 4.14. Gゾーン
 - 4.14.1. ゲーム開始時に自身のGデッキを置く領域です。
 - 4.14.2. Gゾーンは非公開領域ですが、自身のGゾーンのカードの内容は自由に見ることができます。この領域の裏向きのカードは重ねて置かれ、他のファイターのGゾーンの裏向きのカードの内容を見ることができません。Gゾーンのカードの順番は管理されません。
 - 4.14.3. ゲーム開始時に、Gゾーンに置くGデッキのカードはすべて裏向きにし、非公開状態で置かれます。
 - 4.14.4. この領域のカードが表向きになった場合、裏向きのカードとは分け、表向きのカードだけで重ねて置きます。いずれかのファイターはGゾーンの表向きのカードの内容と順番を自由に見たり変更したりすることができます。
 - 4.14.5. ゲーム中、なんらかの処理によりGゾーン以外からGゾーンにカードを置く場合、特に指示がない限り、そのカードは表向きに置かれます。
- 4.15. ゲージゾーン
 - 4.15.1. ゲーム中、ゲージとして置くという指示があったカードを置く領域です。
 - 4.15.2. ゲージゾーンは非公開領域ですが、自身のゲージゾーンのカードの内容は自由に見ることができます。他のファイターのゲージゾーンのカードの内容を

見ることはできません。自身のゲージゾーンのカードの順番は、関連しているカードとの対応が明確である限り、順番を自由に変更することができます。

4.15.2.1. 非公開領域のカードをゲージゾーンに置く場合、そのゲージゾーンが属するファイターは、ゲージゾーンに一連のカードを移動した後、その内容を見ることができます。

4.15.3. ゲージゾーンに置かれているカードの中には、いずれかのカードに関連付けられているものがあります。

4.15.3.1. あるカードの「ゲージ」を参照する場合、それはそのカードに関連付けられている、ゲージゾーンに置かれているカードを参照します。

4.15.3.2. あるユニットがサークルから他のサークルに移動した場合、そのユニットに関連付けられているゲージゾーンのカードはその関連付けを維持します。

4.15.3.3. あるユニットがサークルからサークルでない領域に移動した場合、またはあるユニットが呪縛された(7.30)場合、そのユニットに関連付けられているゲージゾーンのカードはルール処理によりドロップゾーンに置かれます(13.9.1)。

4.15.3.4. あるユニットに関連付けられていたゲージゾーンのカードは、それがゲージゾーンにある間、そのユニットに関連付けられていた事実を最終情報(11.10)として参照することができます。

4.15.3.5. すでにあるユニット A に関連付けられているゲージゾーンのカードが別なユニット B に関連付けられる場合、ユニット A との関連付けは取り消されます。

4.15.4. ゲージゾーンのカードは名称を持つことがあります。

4.15.4.1. 「(名称)ゲージ」を参照する場合、それは名称として(名称)をもつ、ゲージゾーンのカードを参照します。

4.15.4.2. 特に名称をもつことが明示されていないゲージゾーンのカードは名称を持ちません。

4.16. オーダー領域

4.16.1. プレイ中のオーダーカードを置く領域です(11.7.2.1.1)。

4.16.2. オーダー領域は公開領域です。この領域のカードは表向きに置かれ、いずれのファイターもその内容や順番を見ることができます。

第5章 情報と状態

5.1. 情報

5.1.1. カードが所有し、ゲーム上意味を持つか参照される可能性のある各種の値や文字列やアイコンを情報と呼びます。情報は効果により修正されることがあります。

5.1.2. 情報は効果によって修正されることがあります。カードの持つ能力以外の情報は、同一のものを複数持っていても無視されます。

例: クランがロイヤルパラディンであるユニットに対して、「このカードは《ロイヤルパラディン》にも属する」という効果による情報の修正をした場合、同一のものを2つ持つので1つを除いては無視されます。

5.1.3. 「元々の」情報を参照する場合、カードに書かれている情報そのものを参照します。

5.1.4. 「元々の」情報を参照する物が疑似カード(15.1.2.4)である場合、その疑似カードを作成した効果またはルールに規定されている情報がその情報となります。

5.2. 状態

5.2.1. 情報以外に、カードに対してゲーム中に参照される内容を状態と呼びます。

第6章 ユニットと登場

6.1. 概要

6.1.1. ゲーム中、様々な方法によってサークルにユニットが登場します。この項目では、ユニットの登場に関する特定行動(第7章)用語と、各状態のユニットに関するルールの定義を行います。

6.2. コール

6.2.1. ユニットがコールによって登場する場合、そのユニットは指定されたリアガードサークルまたはガーディアンサークルに登場します。

6.2.1.1. ユニートを「コールする」とは、そのユニットをコールによって指定のリアガードサークルまたはガーディアンサークルに置くことを示す特定行動です。

6.2.1.2. 原則として、ユニットがリアガードサークルまたはガーディアンサークルに置かれた場合、そのユニットは「コールされた」ものとして扱います。

6.2.2. コールは「ノーマルコール」と「スペリオルコール」に分かれます。

6.2.2.1. ノーマルコールとは、ターンファイターが効果によらずにルールによって指定された手段で、効果によるコストの修正を受けずに手札のユニットをプレイしていずれかのリアガードサークルまたはガーディアンサークルに置くことを意味します。

6.2.2.2. スペリオルコールとは、ノーマルコールのいずれかの条件を満たさずにユニットをリアガードサークルまたはガーディアンサークルに置くことを意味します。

6.2.3. カードをコールする場合、以下の手順に従います。

6.2.3.1. コールするカードを指定されている枚数選択します。

6.2.3.1.1. コールするカードが非公開領域のカードである場合、そのカードの情報を明示します。

6.2.3.2. コールするカードそれぞれに対して、そのカードを置くサークルを選びます。

6.2.3.2.1. 何らかの効果により複数のカードを同時にコールする場合、その効果やコールされるカードの持つ条件に矛盾しないように、カードと置くサークルを選びます。その際、複数のカードのコール先として同一のリアガードサークルを選ぶことはできません。それぞれ別々のサークルにコールする必要があります。

6.2.3.2.1.1. なんらかの理由でコールする

サークルが不足する場合、可能な限り多くのカードがコールできるようにユニットとサークルの組み合わせを決定します。これによりその組み合わせに含めることのできないカードはコールされず、元の領域に残ります。

6.2.3.3. コールするカードをすべて同時にサークルに置きます。

6.2.3.3.1. 特に指示がないかぎり、コールしたカードは、リアガードサークルであればスタンド状態で、ガーディアンサークルであればレスト状態で置かれます。

6.2.3.4. コールしたユニットのいるサークルがリアガードサークルで、そのサークルにコールしたカード以外にユニットがいる場合、コールしたユニット以外のそのサークルのユニットを退却させます。

6.2.4. ガーディアンサークルにユニットをコールする場合、そのユニットのマスターのいずれかのユニットがアタックされているなら、そのファイターはそのコールしたガーディアンサークルの各ユニットに対し、アタックされているユニット 1 体を対応させます。

6.2.4.1. ガーディアンのユニットがガーディアンサークルに置かれている間、そのガーディアンに対応するアタックされているユニットは、そのガーディアンのシールドの値だけパワーが増えます。

6.2.5. コールされたカードは、その領域における新しいカードであるとみなされます。これには他のサークルからコールされた場合が含まれ、4.1.8 の例外となります。

6.3. ライド

6.3.1. ユニットがライドによって登場する場合、そのユニットを指定のヴァンガードサークルに置きます。

6.3.2. ライドは‘ノーマルライド’と‘スペリオルライド’に分かれます。

6.3.2.1. ノーマルライドとは、ターンファイターが効果によらずにルールによって指定された手段で、効果によるコストの修正を受けずに手札のユニットをプレイしてヴァンガードサークルに置くことを意味します。

6.3.2.2. スペリオルライドとは、ノーマルライドのいずれかの条件を満たさずにユニットをライドによりヴァンガードサークルに置くことを意味します。

6.3.3. カードをライドする場合、以下の手順に従います。

6.3.3.1. ライドするカードがフィールドか G ゾーンにある場合、そのライドは実行されず、ライドの処理は終了します。

6.3.3.2. ライドするカードを指定されている枚数選択します。

6.3.3.2.1. ライドするカードが非公開領域のカードである場合、そのカードの情報を明示します。

6.3.3.3. ライドするヴァンガードサークルを指定します。

6.3.3.3.1. 特に指定がないかぎり、このサークルはライドするカードのオーナーのヴァンガードサークルです。

6.3.3.4. ライドするカードを指定のヴァンガードサークルに置きます。

6.3.3.4.1. 特に指示がないかぎり、ライドするユニットは表向きで置かれます。

6.3.3.5. ヴァンガードサークルにライドしたユニット以外にユニットがいる場合、ライドしたユニット以外のそのサークルのユニットをソウルに置きます。

6.3.3.5.1. これによりソウルに置かれるカードには、ハーツ状態のカード(6.5.2.2)や双闘状態(6.4)のレギオンリーダーやレギオンメイトのカードが含まれます。

6.3.4. ライドしたカードは、その領域における新しいカードであるとみなされます。これには他のサークルからライドした場合が含まれ、4.1.8 の例外となります。

6.3.5. ‘ライドされた時’を誘発条件とする自動能力は、そのユニットがヴァンガードの状況で他のカードがライドによりそのヴァンガードサークルに登場した場合に条件を満たします。

6.3.5.1. ‘ライドされた時’の自動能力を持つユニットが、ライドされた直後に他の公開領域に移動するか移動した領域で公開状態になっている場合、その移動先でのみそのユニットを参照します。

例:ヴァンガードが‘ライドされた時、このユニットをリアガードサークルにコールする’という自動能力を持っている。このユニットがライドされ、この自動能力を解決する前に、このカードがソウルからドロップゾーンに置かれた場合、ドロップゾーンはライド直後の領域ではないため、このユニットをドロップゾーンからコールすることはできない。

6.3.6. マスターが同一である複数のカードを同時にライドする場合、そのマスターはそれらのカードの順番を指定し、その順に従って 1 枚ずつライドを実行します。

6.3.7. あるカードがライドする際、そのライドするカードがイマジナリーギフトアイコン(2.16)を持つ場合、次のチェックタイミングでそのアイコンで指定されるクランタイプのイマジナリーギフト処理(16.3)を実行します。

6.4. 双闘

6.4.1. あるカードと他のカードを‘双闘する’指示がある場合、以下の手順に従います。

6.4.1.1. そのカードがすでに双闘状態である場合、その‘双闘する’指示は実行されず、終了します。

6.4.1.2. 指定された領域の指定されたカードを、双闘するカードとして明示します。

6.4.1.3. そのカードを、現在のカードと同じ配置状態で同じ領域に置きます。

6.4.1.3.1. この段階で、元からいたカードと新たに置かれたカードは、互いのカードに関連付けられた‘双闘状態’という状態が与えられます。

6.4.1.3.1.1. 関連付けられた双闘状態である 2 体のユニットのうちいずれか一方のみが他の領域に移動したりハーツ状態

- (6.5.2.2)になったりした場合、その2体の双闘状態は終了します。
- 6.4.1.3.1.2. 双闘の処理により新たにヴァンガードサークルにカードが置かれることはライド(6.3)ではありません。
- 6.4.2. 双闘に関する条件は以下のように定義します。
- 6.4.2.1. ‘双闘した時’とは、双闘状態でない状況から双闘状態になった時を意味します。
- 6.4.2.2. ‘双闘しているなら’とは、現在双闘状態である場合を意味します。
- 6.4.2.3. ‘そのターン中に双闘したなら’とは、そのターン中に双闘状態でないユニットが双闘状態になったことを意味します。
- 6.4.3. 2枚のカードが双闘状態のヴァンガードである間、いずれか一方を‘レギオンリーダー’、もう一方を新たに置いたユニットを‘レギオンメイト’と呼びます。
- 6.4.3.1. どちらがレギオンリーダーでどちらがレギオンメイトであるかは、双闘を実行した処理により決定されます。
- 6.4.3.1.1. 特にどちらがレギオンリーダーであるかが明示されていない場合、自身のシークメイト能力(14.10)にもう一方のカード名のカードを持つカードがレギオンリーダー、もう一方がレギオンメイトです。
- 6.4.3.2. レギオンリーダーとレギオンメイトはどちらもヴァンガードです。
- 6.4.3.2.1. ライドステップのノーマルライドの条件としてヴァンガードのグレードを参照する場合、レギオンリーダーのグレードを参照します。
- 6.4.3.2.2. 双闘状態のヴァンガードにアタックする場合、レギオンリーダーにのみアタックします。レギオンメイトにはアタックできず、レギオンメイトへのアタックを指示したり強制したりする効果は実行されません。
- 6.4.4. 双闘状態の一方のユニットがスタンドかレストする場合、その両方のユニットが同じ配置状態に変更されます。
- 6.4.4.1. 双闘状態の一方のユニットが配置状態の変更を禁止された場合、その両方のユニットが、指定の配置状態への変更が禁止されます。
- 6.5. 超越とハーツ化
- 6.5.1. Gユニットを‘超越する’指示がある場合、以下の手順に従います。
- 6.5.1.1. 指定されたGユニットのカードを、前列中央のヴァンガードサークルに、現在のヴァンガードと同一の向きを表わす状態(4.3.2)で置きます。
- 6.5.1.1.1. 超越の処理により新たにヴァンガードサークルにGユニットが置かれることはライド(6.3)ではありません。
- 6.5.1.2. それまで前列中央に置かれていたヴァンガードをすべてハーツ化し(6.5.2)、そのGユニットに関連付けます。
- 6.5.1.2.1. これによりハーツ化したユニットがGユニットで、それに関連付けられているハーツカードがある場合、その関連付けは維持され、さらにその関連付けられていたハーツカードは新たにヴァンガードサークルに置かれたユニットにも関連付けられます。同様に、ハーツ状態のカードに関連付けられている他のハーツ状態のカードがそのサークルでGユニットになった場合、そのカードに関連付けられていたハーツ状態のカードは引き続きそのGユニットに関連付けられます。
- 6.5.1.3. そのGユニットに関連付けられているハーツ状態のカードのうち、サブタイプが‘G’でないものを1枚指定します。そのGユニットがヴァンガードであり、かつその指定したカードがこのサークルでハーツ状態である間、そのGユニットはその指定したカードのカード名を追加で持ち、自身のパワーにその指定したカードのパワーを加算します。
- 6.5.1.4. 超越の処理のうち、究極超越でない超越スキルによる超越を‘ノーマル超越’と呼びます。
- 6.5.2. ユニートを‘ハーツ化’する指示がある場合、以下の手順に従います。
- 6.5.2.1. 指定されたユニットを表向きスタンド状態にします。
- 6.5.2.2. そのユニットには‘ハーツ状態’という状態が与えられます。
- 6.5.2.2.1. ユニ트가‘ハーツ状態’である間、そのカードは‘ハーツカード’であるとして扱われます。
- 6.5.2.2.2. ハーツ状態であるカードは、メインタイプ‘ユニット’を失い、メインタイプ‘ハーツ’を得ます。
- 6.5.2.2.2.1. ユニ트에与えられる効果は、特にハーツ状態のカードに適用されることが明示されている物を除き、適用されません。
- 6.5.2.2.3. ハーツ状態のカードは引き続きそのサークルに置かれ、パワーとカード名のみを保持します。その他の情報は、他のカードによりその情報の内容を参照する場合のみ参照されます。
- 6.5.2.2.4. 双闘状態(6.4.1.3.1)のユニットがハーツ化した場合、それらは双闘状態を維持したままハーツ化します。同様に、互いに関連した双闘状態である2枚のハーツ状態のカードが同時にハーツ状態を終了する場合、それらは双闘状態を維持したままハーツ状態を終了し、ユニットに戻ります。
- 6.5.2.2.4.1. この際、いずれかのカードのシークメイト能力(14.10)の指定ユニット情報をもう一方のカードが満たしている場合、そのシークメイト能力を持つカードがレギオンリーダー、もう一方のカードがレギオンメイトとなります。
- 6.5.2.2.4.1.1. 両方のカードのシークメイト能力の指定ユニット情報をもう一方のカードが満たしている場合、それらのうち一方を指定し、そのカードをレギオンリーダー、もう一方をレギオン

メイトとします。

6.5.2.2.4.1.2 両方のカードが、シークメイト能力を持たないまたはもう一方のカードがシークメイト能力の指定ユニット情報を満たさない場合、その2枚の互いに関連する双闘状態は終了します。

6.5.3. ハーツ状態のカードがあるサークルのヴァンガードがライド(6.3)された場合、すべてのハーツ状態のカードはソウルに置かれます。

6.5.4. ハーツ状態のカード A と、そのカードがハーツ化した際にそのカードに関連付けられたカード B が存在する状況で、それぞれのカードが領域移動を行った場合、その内容に応じて以下の処理を実行します。

6.5.4.1. カード B が他の領域に移動する場合、カード A が他のユニットやカードに関連付けられていないなら、カード A のハーツ状態を終了してカード B と同じ配置状態にし、カード B との関連付けを終了した後、カード B の領域移動を実行します。

6.5.4.1.1. カード B に関連付けられたハーツ状態のカードが複数ある場合、その中にサブタイプが G であるカードがあるならそのうち1枚を、ないならそのうちの任意の1枚を選び、そのカードを6.5.4.1におけるカード A として処理を行います。

6.5.4.2. カード A が他の領域に移動した場合、そのカードがカード B が超越した際に6.5.1.3で指定したカードであるなら、ただちにそのサークルのサブタイプが「G」でないいずれかのハーツ状態のカードの中から1枚を指定し、6.5.1.3で指定したカードとして扱います。その際、そのハーツ状態のカードがカード B に関連付けられていない場合、そのハーツ状態のカードをカード B に関連付けます。

6.6. 超越スキルのプレイと解決

6.6.1. サブタイプが G であるカードは、超越スキルを持つことがあります(14.11)。

6.6.2. 究極超越でない超越スキルを持つ裏向きの G ゾーンのカードは、現在がその超越スキルに指定されたタイミングであり、両プレイヤーにグレード3以上のヴァンガードがいるか自分のターンの開始時点で自分のヴァンガードがグレード3以上である場合、以下の手順でプレイし解決する事ができます。

6.6.2.1. その G ゾーンのカードの情報を明示します。

6.6.2.2. その超越スキルで指定されたコストを払います。

6.6.2.3. そのカードを、自身の前列中央のヴァンガードに超越します(6.5.1)。

6.6.3. G ゾーンの究極超越スキル(14.12)を持つ、裏向きのカードまたはギーゼカード(17.3)は、現在がその究極超越スキルに指定されたタイミングであり、前列中央のヴァンガードの国家(2.15)と共通する国家をその G ゾーンのカードが持つ場合、以下の例外を除き、超越スキルのプレイと同様にプレイし解決する事ができます。

6.6.3.1. 前列中央のヴァンガードが国家情報を持っていない場合、種族が〈クレイエレメンタル〉であるユニットのみが究極超越によりプレイ可能です。

6.6.3.2. プレイするのがギーゼカード(17.3)でない場合、プレイするためには自身の G ゾーンに表向きのカードが3枚以上ある必要があります。

6.6.3.3. プレイするのがギーゼカード(17.3)である場合、プレイするためには、自身のいずれかのヴァンガードがグレード3以上であり、自身のバインドゾーンに〈ゼロスドラゴン〉が5種類以上ある必要があります。

6.6.3.4. 究極超越スキルは超越スキル(14.11)であるときみなされますが、超越のためのコストを修正する効果は、究極超越のコストには適用されません。

6.6.3.5. 究極超越による超越でヴァンガードサークルに置かれた G ユニットが G ゾーンに戻る場合、G ゾーンに戻した上で、G ゾーンにあるすべてのカードを除外します。

第7章 特定行動

7.1. 概要

7.1.1. 特定行動とは、このゲームを行う際に特別な意味を持つ行動の指示または状態を意味します。

7.2. スタンドする/レストする

7.2.1. カードを「スタンドする」または「レストする」指示がある場合、指定されたカードの向きをその指示に応じて、スタンド状態かレスト状態にします。

7.3. 表にする/裏にする

7.3.1. カードを「表にする」または「裏にする」指示がある場合、指定されたカードの表示面をその指示に応じて、表向きか裏向きにします。

7.4. 置く

7.4.1. カードを指定領域に「置く」指示がある場合、そのカードをその領域に移動します。

7.4.2. あるサークルに「(名称)マーカーを置く」指示がある場合、そのサークルに名称として(名称)を持つマーカーを作成します。

7.5. シャッフルする

7.5.1. 山札を「シャッフルする」指示がある場合、その山札が属するファイターは、その山札にあるカードの順番を無作為に変更します。

7.5.1.1. 山札が0枚または1枚の状態のときにその山札をシャッフルする指示がある場合、そこにあるカードの順番は変更されませんが、シャッフルは行われたものとして扱います。

7.6. 山札のカードを移動する/引く

7.6.1. 山札のカードを1枚移動する指示がある場合、指定ファイターは山札の一番上のカードを指定領域に移動します。

7.6.2. 山札のカードを「(数値)枚移動する」指示がある場合、指定ファイターはカードを1枚移動する行動をその数値回繰り返します。

- 7.6.3. カードを「(数値)枚まで移動する」指示がある場合、指定ファイターは以下を実行します。
 - 7.6.3.1. 数値が 0 以下の場合は何もせず、この指示を終了します。
 - 7.6.3.2. 指定ファイターはこの指示を終了することができます。
 - 7.6.3.3. 指定ファイターはカードを 1 枚移動します。
 - 7.6.3.4. この指示により 7.6.3.3 を実行した回数が数値回に達していた場合、この指示を終了します。そうでない場合、7.6.3.2 に戻ります。
- 7.6.4. カードを「引く」指示がある場合、それは山札から手札への移動として上記の処理を行います。
 - 7.6.4.1. 「カードの能力でカードを引く」とは、通常のドロフェイズ中にカードを引く処理(9.4.2)以外でカードを引く行動すべてを指します。
 - 7.6.4.1.1. ドロートリガー(2.8.2.3)やアクセルⅡ(16.3.1.5.4)によるカードを引く処理は「カードの能力でカードを引く」に含まれます。
- 7.7. 山札を見る
 - 7.7.1. 「山札を上から(数値)枚見る」指示がある場合、指定ファイターはその山札の一番上から数値枚の情報を知ることができます。
 - 7.7.2. 「山札を上から(数値)枚まで見る」指示がある場合、以下を実行します。
 - 7.7.2.1. 数値が 0 以下の場合は何もせず、この指示を終了します。
 - 7.7.2.2. 枚数として 1 を指定します。
 - 7.7.2.3. 指定ファイターはこの指示を終了することができます。
 - 7.7.2.4. 指定ファイターは、山札の一番上から指定枚数枚目のカードの情報を知ることができます。
 - 7.7.2.5. この指示により 7.7.2.4 を実行した回数数値回に達していた場合、この指示を終了します。そうでない場合、7.7.2.3 に戻ります。
 - 7.7.2.6. 永続能力により特定の時点指定せずに山札の一部のカードを見ることが認められている場合、そのカードの情報は任意の時点で確認が行えます。
 - 7.7.2.6.1. これに該当する能力でカードの情報を確認した場合、そのカードの山札内での位置が変更されていない間、その情報を確認した回数に関係なく、「見る」行動は 1 回のみ行われたことになります。
 - 7.7.2.7. 山札のカードを見ることを誘発条件とする自動能力は、1 つの効果の中で複数回山札のカードを見た場合、最初に山札を見た行為のみ待機状態になり、その同一効果内で 2 回目以降の山札のカードを見る行為では待機状態になりません。
- 7.8. 入れ替える
 - 7.8.1. あるカードと別なカードを「入れ替える」指示がある場合、その前者のカードを後者のカードのある領域へ、後者のカードを前者のカードのある領域へ同時に移動します。
 - 7.8.2. 何らかの理由で、入れ替える指示の実行時にいずれかのカードがもう一方の領域へ移動できない場合、その指示は実行されません。
 - 7.8.3. テキストにより領域 A と領域 B を「入れ替える」とある場合、領域 A にあるカードと領域 B にあるカードの領域を、それぞれ同時に互いの領域へ移動させます。
- 7.9. 捨てる
 - 7.9.1. 「捨てる」とはオーナーの手札かゲージゾーンからそのファイターのドロップゾーンにカードを移動させるという特定行動です。
 - 7.9.2. カードが手札からドロップゾーンに置かれた場合、そのカードは捨てられたものとして扱います。
- 7.10. 公開する/見せる
 - 7.10.1. 「公開する」とは、一時的にすべてのファイターにカードを開示するという特定行動です。
 - 7.10.1.1. 効果により「見せる」という処理が指示されている場合、それは「公開する」を意味します。
 - 7.10.2. コストとして公開する場合には、コストを決定し、すべてのコストを同時に支払う段階(11.6.1)で該当するカードを開示します。
 - 7.10.3. 効果として「公開する」場合には、該当する効果の該当するカードに関する部分が終わるまで開示します。
 - 7.10.3.1. 開示する期間が終わったカードは元に戻します。
 - 7.10.4. カードを公開することは、そのカードの領域を変更しません。
- 7.11. 探す
 - 7.11.1. 「探す」とは該当する領域や指定範囲内にあるカードをすべて見て、該当するカードを見つけ出すという特定行動です。
 - 7.11.2. 「探す」領域が非公開領域である場合、該当するカードがたとえ存在していたとしても見つけ出さないことを選択してもかまいません。
 - 7.11.3. 「探す」領域が公開領域である場合、該当するカードが存在していた場合には見つける義務があります。
 - 7.11.4. 「(領域 A)か(領域 B)から探す」指示がある場合、その両方の領域から探すことができます。
- 7.12. シャッフルする
 - 7.12.1. 「シャッフルする」とは該当する非公開領域のカードをどのファイターにも分からないように無作為化するという特定行動です。
 - 7.12.2. 「シャッフルする」が「探す」に続く場合、特に指示が無い限り探したカードは無作為化せず、他のカードのみを無作為化します。
 - 7.12.3. シャッフルを行なう際、なんらかの効果によって該当する非公開領域のカードが公開状態であったり、いずれかのファイターが見ることができる状態であったりしても、シャッフル中はそのすべてのカードが非公開状態にあり、どのプレイヤーも見ることはいけません。
- 7.13. 宣言する
 - 7.13.1. 「宣言する」とは、カードの持つ特定の情報を指定するという特定行動です。

7.13.2. 情報を宣言する場合には、情報として適正なものを指定しなければなりません。

例:カード名を‘宣言する’場合には、現存するカードを指定しなければならず、どのカードを指定しているのかが一意に特定できるようにしなければなりません。

7.14. 与える/失う/得る

7.14.1. 能力を‘与える’または‘得る’とは、指定された期間、該当する能力を示すスキルアイコンやテキストが該当するカードにあるかのように扱うという特定行動です。

7.14.2. 能力を‘失う’とは、指定された期間、該当する能力を示すスキルアイコンやテキストが該当するカードにないかのように扱うという特定行動です。

7.14.3. ファイターが‘(特定のクランタイプのイマジナリーギフト)を得る’場合、指定のクランタイプのイマジナリーギフトのイマジナリーギフト処理を行います(16.3)。

7.14.3.1. この処理はチェックタイミングを待たず、ただちに実行されます。

7.14.3.2. イマジナリーギフトを得る処理において、何かがそのイマジナリーギフトを得るかが明示されていない場合、その効果のマスターであるファイターが得ます。

7.14.4. ある数値情報を持つカード A が同種の数値情報を持つカード B のその数値情報を‘得る’場合、カード A のその数値情報にカード B のその数値情報の値が加えられます。

7.15. 発動する

7.15.1. カードテキストに能力が発動すると書かれている場合、それは能力の種別により意味が異なります。

7.15.1.1. 永続能力が発動するとは、その永続能力が有効であることを意味します。

7.15.1.2. 起動能力を発動するとは、その起動能力をプレイすることを意味します。

7.15.1.3. 自動能力が発動するとは、その自動能力が誘発条件を満たして待機状態になることを意味します。

7.15.1.3.1. ‘(特定の)自動能力は(数値)回発動する’とは、その自動能力をプレイする時点で、その自動能力をその待機状態によりプレイする回数が(数値)回未満である場合、その待機状態を取り消さないことを意味します(11.7.10)。

7.15.1.3.2. 特定の状況に対して‘(自動)能力が発動しない’とは、その特定の状況を誘発条件とする自動能力は、その状況を理由として待機状態にならないことを意味します。

7.15.1.4. 能力ではない何らかの処理を発動するとは、その処理を実行することを意味します。

7.16. (トリガーユニットが)出る

7.16.1. ‘(トリガーユニットが)出る’とは、そのトリガーユニットのカードがドライブチェック(10.6.1.2)やダメージチェック(13.6.4)でトリガーゾーンに置かれることを意味します。

7.17. 登場する

7.17.1. ‘登場する’とはユニットをサークル以外からサークルに置くという特定行動です。

7.17.2. ユニットはプレイされたかを問わず、サークル以外からサークルに置かれた時、またはコールかライドによりサークルに置かれた場合に‘登場した’ものとみなされます。

7.18. 退却する

7.18.1. ‘退却する’とはフィールドからオーナーのドロップゾーンにカードを移動させるという特定行動です。

7.18.2. ユニットがフィールドからドロップゾーンに置かれた場合、そのユニットは退却したものと扱います。

7.19. 除外する

7.19.1. テキストにより、あるカードを‘除外する’とある場合、そのカードをゲーム外に取り除き、ゲーム内に存在しない状態にします。

7.19.2. 除外されたカードの情報は公開情報です。

7.20. 回復する

7.20.1. ‘回復する’とはダメージゾーンからドロップゾーンにカードを移動するという特定行動です。

7.21. コストをなくす

7.21.1. コストを‘なくす’とは、指定された期間、該当する能力のコストを支払うにあたって、そのコストで示される行動を行わないという特定行動です。

7.22. ドライブチェック(を行う)

7.22.1. ドライブチェックとは、ドライブステップ(10.6)における一連の作業を示す特定行動です(10.6.1.2.3)。

7.23. ダメージチェック(を行う)

7.23.1. ダメージチェックとは、ヴァンガードダメージが1以上である場合に実行される一連の作業を示す特定行動です(13.6.3)。

7.24. カウンターブラスト

7.24.1. ダメージゾーンの表向きのカードを指定された枚数選んで裏向きにするという特定行動です。これは  や  のアイコンで表されます。

7.24.2. [(カウンターブラストアイコン)(○付き数字)]という表記がされている場合、ダメージゾーンの表のカードを指定された枚数選んで裏向きにします。

7.24.2.1. [(カウンターブラストアイコン)(○付き数字)-(条件)]という表記がされている場合、ダメージゾーンの表のカードのうち‘-’以降の文章で書かれている条件を満たしたカードを指定された枚数選んで裏向きにします

7.24.3. コストではなく効果の一部で‘(カウンターブラストアイコン)(○付き数字)を払う’指示がある場合、その効果で指定されたファイターまたは指定されたカードのマスターは、自分のダメージゾーンにある表向きのカードを数字に等しい枚数選び、それらを裏向きにします。表向きのカードを指定枚数選べない場合、その指示は実行できません。

7.24.4. ‘カウンターブラストする’とは、カウンターブラストによりダメージゾーンの表向きのカードを裏向きにすることを意味します。

7.24.4.1. ‘(数値)枚カウンターブラストする’とは、カウンターブラストによりダメージゾーンの表向きのカードをその数値の枚数裏向きにすることを意味します。

7.25. ソウルブラスト

- 7.25.1. ソウルのカードを指定された枚数選んでドロップゾーンに置くという特定行動です。これはやのアイコンで表されます。
- 7.25.2. [(ソウルブラストアイコン)(○付き数字)]という表記がされている場合、ソウルのカードを指定された枚数選んでドロップゾーンに置きます。
 - 7.25.2.1. [(ソウルブラストアイコン)(○付き数字)-(条件)]という表記がされている場合、ソウルのカードのうち「-」以降の文章で書かれている条件を満たしたカードを指定された枚数選んでドロップゾーンに置きます
- 7.25.3. コストではなく効果の一部で「(ソウルブラストアイコン)(○付き数字)を払う」指示がある場合、その効果で指定されたファイターまたは指定されたカードのマスターは、自分のソウルにあるカードを数字に等しい枚数選び、それらをドロップゾーンに置きます。表向きのカードを指定枚数選べない場合、その指示は実行できません。
- 7.25.4. 「ソウルブラストする」とは、ソウルブラストによりソウルのカードをドロップゾーンに置くことを意味します。
 - 7.25.4.1. 「(数値)枚ソウルブラストする」とは、ソウルブラストによりソウルのカードをその数値の枚数ドロップゾーンに置くことを意味します。

7.26. カウンターチャージ

- 7.26.1. カウンターチャージは①や①などの形で表されます。ダメージゾーンの裏向きの好きなカードを○付き数字の枚数選んで、表向きにするとする特定行動です。
- 7.26.2. 「カウンターチャージする」とは、カウンターチャージによりダメージゾーンの裏向きのカードを表向きにすることを意味します。
 - 7.26.2.1. 「(数値)枚カウンターチャージする」とは、カウンターチャージによりダメージゾーンの裏向きのカードをその数値の枚数表向きにすることを意味します。

7.27. ソウルチャージ

- 7.27.1. ソウルチャージは①や①などの形で表され、山札の上から○付き数字の枚数のカードをソウルに置くという特定行動を表します。
- 7.27.2. 「ソウルチャージする」とは、ソウルチャージにより山札の上のカードをソウルに置くことを意味します。
 - 7.27.2.1. 「(数値)枚ソウルチャージする」とは、ソウルチャージによりその数値の枚数のカードを山札の上からソウルに置くことを意味します。

7.28. 増える/減る

- 7.28.1. カウンターブラスト等の、アイコンで規定されるものの数値が「増える」または「減る」とは、そのアイコンで示される行動が参照する数値を、指定の値だけ増やすまたは減らすことを意味します。
- 7.28.2. ある処理により、何らかの処理の「次の」数値が増えるまたは減る場合、それは実際に次にその処理を実行する段階でその値を増やすまたは減らします。その処理を行うまでの間に他の処理が含まれるかどうかは関係ありません。

- 7.28.2.1. 同一の処理の「次の」数値を増やすまたは減らす処理が複数ある場合、それらは加算されます。

7.29. バインドする

- 7.29.1. 「バインドする」とは指定された領域からオーナーのバインドゾーンにカードを移動させるという特定行動です。

7.30. 呪縛する

- 7.30.1. 「呪縛する」とはカードの状態を変更する特定行動です。呪縛することによって、カードは呪縛状態になります。
 - 7.30.1.1. カードが呪縛状態になった時、裏向きにし、その後スタンド状態にします。このカードは元のカードと同じものとしては扱いません。
 - 7.30.1.2. 呪縛状態になったカードは「呪縛カード」になります。呪縛カードはカードの一種ですが、表面に書かれた/与えられた/得たすべての情報を持ちません。
 - 7.30.1.3. 呪縛カードがスタンド状態やレスト状態であるかを参照する場合、それはスタンド状態でもレスト状態でもなく、参照されません。
- 7.30.2. 呪縛されているカードをそうでない状態に変更する場合、それは表になります。同様に、呪縛されているカードが何らかの理由で表になった場合、それは呪縛状態ではなくなり、解呪(7.31)されたものとみなします。いずれの場合も、そのカードのある呪縛属性のサークルは元の属性のサークルに戻ります。
- 7.30.3. サークルは呪縛カードが置かれている間、呪縛属性です。
 - 7.30.3.1. サークルが呪縛属性でなくなった場合、明記が無ければそのサークルは元の属性に戻ります。
- 7.30.4. リアガードサークルの G ユニットの呪縛される場合、そのカードを裏向きにして呪縛状態にした直後に、そのカードをオーナーの G ゾーンに表向きに置きます。
- 7.30.5. 「呪縛カードとして置く」と指示されている場合、そのカードは置かれる時点でユニットではない裏向きの呪縛カードとして置かれます。
 - 7.30.5.1. 山札等、非公開領域から「呪縛カードとして置く」場合、効果などによって指示がされていないなら、そのカードのオーナーはカードの情報を確認したうえで置くサークルを決定します。
 - 7.30.5.2. ユニットのカードが置かれているリアガードサークルが「呪縛カードとして置く」等により呪縛サークルとなった場合、そこに置かれていたユニットとカードはチェックタイミングを待たず直ちにそれぞれオーナーのドロップゾーンに置かれます。
 - 7.30.5.3. 複数の呪縛カードを同時にサークルに置く場合、その条件に矛盾しないように置くサークルを選びます。その際、複数の呪縛カードを置くサークルとして同一のサークルを選ぶことはできません。それぞれを別々のサークルに置く必要があります。

7.30.6. 呪縛状態のカードは他のカードを参照しません。

7.31. 解呪する

7.31.1. ‘解呪する’とはカードの状態を変更する特定行動です。解呪することによって、それが呪縛状態であるなら、カードは呪縛状態から表になります。

7.31.1.1. 解呪されたカードは元のカードと同じものとしては扱いません。

7.31.2. 解呪される際、カードはスタンド状態です。それはレスト状態からスタンド状態になったものとみなされず、スタンド状態になったことを条件とする能力や効果の適用を受けません。

7.31.3. なんらかの理由で呪縛されているカードが表向きにする場合、それは解呪するものとして扱います。

7.31.4. カードが解呪されるのは登場ではありません。

7.32. デリートする

7.32.1. ユニットがデリート状態になった時、配置状態を維持したまま、裏向きにします。このユニットは元のユニットと同じものとして扱います。

7.32.2. デリート状態になったユニットは‘デリートされているユニット’になります。デリートされているユニットはユニットの一種ですが、パワーがカードに表記されたパワー分減り、表面に書かれたテキストのみを失います。スキルアイコン等、その他のカードの情報は維持されます。

例:「スターライト・ユニコーン」の能力でパワー+2000されたヴァンガードの‘騎士王アルフレッド’がデリートされた場合、パワーは2000です。また、テキストは無いのでブーストが行えます。

7.32.3. デリートされているユニットにはスタンド/レスト状態は存在し、そうでないユニットと同様にバトルが行えます。

7.32.4. デリートされているユニットをそうでない状態に変更する場合、それは表になります。同様に、デリートされているユニットが何らかの理由で表になった場合、それはデリート状態ではなくなります。

7.32.5. デリートされているユニットはすべてのファイターが表を参照することができます。

7.32.6. デリートされているユニットが能力を与えられた/得た場合、それは通常通り与えられ/得ます。同様に、デリートされているユニットがその後パワーを増減される場合、それは通常通り増減されます。

7.32.6.1. デリートされているユニットが何らかの継続効果によって情報を修正され、その継続効果の期間中にデリート状態ではなくなった場合、その修正は引き継がれます。

7.32.7. 双闘状態のユニットがデリートされた場合、その双闘状態は維持されます。

7.32.8. デリートされているユニットがライドされた場合、その時点でそのサークルのヴァンガードはすべて表向きでソウルに置かれます。

7.33. タイムリープ(する)

7.33.1. タイムリープとは、以下の処理を実行する特定行動です。

7.33.1.1. タイムリープする際、リアガードを選ぶ場合は選んだリアガード、そのユニット自身の場合はそのユニット自身をバインドします。バインドしたら、山札からバインドしたカードのグレード

+1のグレードのカードをバインドしたカードと同じ枚数までコールし、山札をシャッフルします。そのターンの終了時、そのコールしたユニットをオーナーの山札の下に置きます。置いたら、タイムリープによってバインドしたカードをそのカードのオーナーがコールします。

7.34. 移動する/(ユニットを)置く

7.34.1. テキスト上で‘移動する’または‘(すでにユニットであるカードを特定のサークルに)置く’とある場合、フィールド内に置かれているユニットが、フィールド内の別のサークルへ置かれることを指します。

7.34.1.1. インターセプトや、サークルに置かれているカードの位置の交換を行った場合も、それらのカードはテキストにおける移動を行っています。

7.34.2. ライドやコールはユニットのテキストにおける移動ではありません。

7.35. ダメージを与える

7.35.1. ルールやテキストにより、あるヴァンガードに指定数の‘ダメージを与える’とある場合、そのヴァンガードのヴァンガードダメージをその指定数だけ増やします。

7.35.2. テキストに、あるヴァンガードに対し‘(数値)ダメージ。’と書かれている場合、それはそのヴァンガードに‘(数値)ダメージを与える。’ことを意味します。

7.35.2.1. 特にヴァンガードの数を指定せずにヴァンガードにダメージを与えることが指示されている場合に、ヴァンガードが複数いるなら、それぞれのヴァンガードに指定のダメージが与えられます。

7.35.2.2. これにより与えられたダメージに対する実際のダメージの解決はルール処理内で実行されます(13.6)。

7.36. アタックする

7.36.1. テキスト中、‘(ユニットA)は(ユニットB)にアタックする’指示がある場合、現在実行している効果の終了後に、ルールにより指定されたチェックタイミングを実行した後、以下の処理を行います。

7.36.1.1. ユニットAで指定されているユニットのうち、効果により攻撃が禁止されていないスタンド状態のユニット1体を指定アタックユニットとし、ユニットBで指定されているユニットのうち、効果によりこの指定アタックユニットによる攻撃が禁止されていないユニット1体を指定被アタックユニットとします。この組み合わせが指定できない場合、アタックする特定行動を終了します。

7.36.1.2. アタック処理(10.2)を実行します。このアタック処理ではブーストを指定すること(10.4.1.11)はできません。その後、7.36.1.1に戻ります。

7.36.2. バトルが開始された後、そのバトル中にテキストによって‘アタックする’指示があった場合、進行中のバトルが終了した後、‘アタックする’の処理を行ないます。

7.36.3. 複数のユニットによるアタックする指示がある場合、その中にターンファイターがマスターであるユニットがいるならターンファイターは自身がマスターであるそれらのユニットのうち1体を選択し、そうでないなら非ターンファイターは自身がマスターであるそれらユニットのうち1体を選択し、そのユニットによるアタックする指示を実行し、これをアタックする指示があるユニットが無くなるまで繰り返します。

7.36.4. アタックする指示に続いて‘そのアタック’を参照する処理がある場合、それはそのアタックする指示により実行されるアタック処理によるバトルを参照します。

7.37. バトルする

7.37.1. ‘バトルする’とは、アタックされるユニットを変更する処理(10.4.1.8.3)を示す特定行動です。

7.38. (アタック先を)変更する

7.38.1. あるアタックしているユニットの‘アタック先を(特定のユニット)に変更する’指示がある場合、そのアタックしているユニットの指定被アタックユニット(10.2.2)をその特定のユニットにします。

7.38.1.1. なんらかの効果により複数のユニットに対しアタックしているユニットのアタック先を特定のユニットに変更した場合、そのアタックしているユニットの指定被アタックユニットはその特定のユニットのみになります。

7.39. 支配する

7.39.1. テキストにより、あるユニットを‘支配する’とある場合、そのテキストを持つ効果のマスターが、一時的にそのユニットのマスターであるかのようにそのユニットを扱うことができるようになります。

7.39.1.1. これによりマスターが変更されているように扱われている間、そのユニットはその効果のマスターによる‘支配状態’であり、そのマスターはそのユニットの‘支配ファイター’として扱います。支配状態になる前のそのユニットのマスターは‘元のマスター’と表記します。

7.39.1.1.1. 支配状態である間、元のマスターは、支配状態のユニットを自身がマスターであるユニットとして参照しません。

7.39.1.1.2. 支配状態であるユニットがさらに支配状態になることはありません。

7.39.1.2. 特に支配する期間が示されていない場合、その‘支配する’行動を含む効果を解決している間のみ、そのカードは支配状態になります。

7.39.1.2.1. 特定のカードを支配してガーディアンサークルに置く場合、そのバトル中、そのカードは支配状態になります。

7.39.1.3. 支配状態のユニットが、そのマスターの現在以降の特定の時点参照する場合、そのユニットは継続して自身のマスターがその時点を迎えたかを確認し、参照します。その結果、支配ファイターと異なるファイターがその時点でマスターとして参照されることがあります。

例: 支配状態のリアガードに‘あなたの次のスタンドフェイズにスタンドしない’効果が適用され、その後そのターン中にそれが支配状態でなくなった場合、そのリアガードは元のマスターの次のスタンドフェイズにスタンド

しません。

7.39.1.4. 双闘状態のレギオンリーダーかレギオンメイトのいずれかが支配状態である場合、それに関連づけられているユニットも支配状態になります。

7.39.2. 支配ファイターがマスターであるユニットを参照する場合、支配状態のユニットを含みます。同様に、支配状態のユニットがそのマスターであるファイターやその情報を参照する場合、支配ファイターやその情報を参照します。

7.39.2.1. 支配ファイターがマスターであるユニットの数を参照する場合、支配状態のユニットを含みます。

7.39.2.2. 支配ファイターがマスターであるユニットに適用される効果は、支配状態のユニットに適用されます。

7.39.2.3. 支配ファイターは、支配状態のユニットの持つ能力を、自身がマスターであるかのようにプレイできます。

7.39.2.3.1. 支配状態のユニットが時限誘発の自動能力を作成した場合(11.7.13)、その誘発条件を満たしたら、その自動能力を作成した時点での支配ファイターがその能力をプレイします。

7.39.2.4. 支配状態のユニットが呪縛された場合、それは支配状態ではなくなります。

7.39.2.5. ある効果により支配ファイターがマスターであるユニットがその支配ファイターの山札と異なる山札に移動した後に、その効果の中で支配ファイターの山札をシャッフルするよう指示がある場合、すべてのファイターは自分の山札をシャッフルします。

7.39.3. 支配状態のユニットの位置は、支配ファイターを基準とします。

7.39.3.1. 相手の右列のリアガードを支配した場合、それは支配ファイターにとって左列のリアガードとなり、その支配ファイターの左列の他のリアガードと同じ列にいるものとみなされます。相手の左列も同様です。

7.39.3.2. マスターの異なるサークル同士では、同じ列のサークルであっても、互いにもう一方の前列や後列にあるものとはみなしません。

7.39.4. 支配状態のユニットがルールや効果により他の領域に移動する場合、以下のルールに従います。

7.39.4.1. それがサークルでない領域に移動する場合、それはそのカードのオーナーの指定された領域に移動します。

7.39.4.2. それが他のリアガードサークルやヴァンガードサークルに移動する場合、そのサークルのマスターがそのユニットのオーナーと異なるなら、その移動は実行されません。

7.39.4.3. 上記以外の条件の場合、その移動は通常のルールに従って処理されます。

7.39.5. 支配状態のユニットのいるサークルのマスターは変更されません。

7.39.5.1. 支配状態のユニットのいるサークルに、そのサークルのマスターと異なるオーナーのリア

ガードをコールやライドする場合、それは実行しません。

- 7.39.6. 支配状態のリアガードは、ブーストすることもインターセプトすることもできません。
- 7.39.7. 支配状態のヴァンガードがアタックしている場合、ドライブステップでのドライブチェックは支配ファイターの山札のカードを支配ファイターのトリガーゾーンに置くことによって実行します。
- 7.39.8. 支配状態のユニットのいるサークルがいずれかのイマジナリーギフト処理で指定されたものである場合、そのサークルに適用される修正は適用されません。

7.40. 裏返す

- 7.40.1. テキストにより、あるギーゼカード(17.3)を‘裏返す’とある場合、そのギーゼカードの適用面(17.3.3)を、現在の適用面でない側の面にします。
 - 7.40.1.1. 裏返す行動は裏にする行動(7.3)とは異なります。
- 7.40.2. 何らかの理由でギーゼカードでないカードを裏返すよう指示される場合、その指示は何も行いません。

7.41. ゲージとして置く/ゲージを移動する

- 7.41.1. テキストによりあるカードを‘ゲージとして置く’とある場合、そのカードをオーナーのゲージゾーン(4.15)に移動します。
- 7.41.2. カード A をカード B の‘ゲージとして置く’とある場合、カード A をゲージとして置いた上で、そのカードをカード B に関連付けます(4.15.3)。
 - 7.41.2.1. カード A とカード B のオーナーまたはマスターが互いに異なる場合、その‘ゲージとして置く’行動は実行されません。
- 7.41.3. テキストによりあるカードを‘(名称)ゲージとして置く’とある場合、そのカードをゲージとして置いた上で、そのカードの名称として(名称)を与えます(4.15.4)。
- 7.41.4. 一つの処理で複数枚のゲージを置く場合、枚数選択がある場合は何枚置くかを選択したのち、指定された枚数または選択した枚数のカードをゲージゾーンに移動します。

例:一つの処理で‘山札を上から3枚までゲージとして置く’効果を‘2枚’で解決する際、‘2枚’を決定してから2枚のカードを山札から移動します。1枚目の内容を見てから2枚目を置くかどうかの決定はできません。

- 7.41.5. あるゲージであるカードに対して‘ゲージを移動する’とある場合、そのカードが現在関連付けられているカードとの関連付けを取り消し、移動先として指示されたカードに対して関連付けを行います。
 - 7.41.5.1. ゲージを移動する処理により、ゲージであるカードの領域が変わる事はありません。
 - 7.41.5.2. 移動先として指示されたカードと移動するゲージであるカードのオーナーまたはマスターが互いに異なる場合、その‘ゲージを移動する’行動は実行されません。

7.42. ステージにする

- 7.42.1. テキストによりあるサークルを‘ステージにする’指示がある場合、以下を実行します。

7.42.1.1. そのサークルが‘ステージ’属性を持たない場合、それは追加で‘ステージ’属性を持ちます。

7.42.1.2. そのサークル以外のサークルにクランタイプが‘アクセル’であるギフトマーカがある場合、それらをすべてそのサークルに移動します。

7.42.1.2.1. これにより移動するギフトマーカが置かれていたサークルは消滅します(16.3.1.5.2.1)。

7.42.2. ‘ステージ’であるサークルが存在する状態で、クランタイプが‘アクセル’であるイマジナリーギフト処理が行われる場合、新しいサークルは作成されず、その処理によるギフトマーカは‘ステージ’であるサークルに置かれます(16.3.1.5.2)。

第8章 ゲームの準備

8.1. デッキの準備

- 8.1.1. 各ファイターは、ゲームの開始前に自身のカードによるデッキを用意します。
- 8.1.2. 各ファイターは、ゲームの開始前に自身のカードによるメインデッキ1つとGデッキ1つまでを用意します。
- 8.1.3. メインデッキとGデッキの構築条件に関する永続能力は、下記のメインデッキとGデッキの構築条件を置換する置換効果として適用されます。ゲームの開始以降はその能力は無効(11.3.2)になります。
- 8.1.4. メインデッキは、50枚ちょうど、Gデッキは0枚から16枚までのカードで構成されている必要があります。
- 8.1.5. メインデッキはサブタイプが‘G’でないカードで、Gデッキはサブタイプが‘G’であるカードで構成されている必要があります。
- 8.1.6. 同一のカード名のカードは、メインデッキとGデッキのそれぞれ4枚以下である必要があります。
 - 8.1.6.1. メインデッキとGデッキそれぞれに対して、4枚まで入れることができます。
 - 8.1.6.2. カード名以外の情報が異なるカードであっても、カード名が同一であれば同一のカード名のカードとみなされ、合計4枚までしかメインデッキ内に入れることはできません。
- 8.1.7. トリガーを持つカードは、メインデッキ内のあらゆるカード名のカードを合計して16枚ちょうどである必要があります。さらに、上記‘同一カード名のカードは4枚以下’のルールに従う必要があります。
 - 8.1.7.1. ヒールトリガー(2.8.2.5)を持つカードは、メインデッキ内のあらゆるカード名のカードを合計して4枚以下である必要があります。
- 8.1.8. 守護者(14.9)を持つカードは、メインデッキ内のあらゆるカード名のカードを合計して4枚以下である必要があります。
- 8.1.9. デッキの構築条件を置換する効果が‘このカード’を参照する場合、それはそのカードのコレクション番号と同一のコレクション番号を持つカードを参照します。

8.2. ゲーム前の手順

- 8.2.1. ゲームの開始前に、各ファイターは以下の手順を実行します。
 - 8.2.1.1. このゲームで使用する自身の各デッキを提示します。
 - 8.2.1.2. 自分のメインデッキから、グレード 0 のユニットを 1 枚選び、裏向きで自分のヴァンガードサークルに置きます。このカードの内容は、実際にゲームを開始する直前まで公開されません。このユニットをファーストヴァンガードと呼びます。
 - 8.2.1.3. 各ファイターは自身のデッキを自身の山札に置き、それをシャッフルします。その後、各ファイターは相手の山札をシャッフルすることができます。
 - 8.2.1.4. 各ファイターは、自分の G デッキがある場合、それを裏向きのまますべて G ゾーンに重ねて置きます。
 - 8.2.1.5. 各ファイターは、無作為にどちらのファイターが先攻ファイターであるかを決定します。
 - 8.2.1.5.1. 先攻ファイターの決定に、なんらかの意思が介在することは認められません。無作為を含むなんらかの方法で決定した一方のファイターが先攻か後攻かを選択することは認められません。
 - 8.2.1.6. 各ヴァンガードのヴァンガードダメージを 0 にします。
 - 8.2.1.7. 各ファイターは、自身の山札からカードを 5 枚引き、それを最初の手札とします。その後、先攻ファイターから順に各ファイターともに一度ずつ、自身の手札から任意の枚数のカードを山札の一番下に置き、置いた枚数に等しい枚数のカードを引き、これにより 1 枚以上のカードを置いたファイターは山札をシャッフルします。
 - 8.2.1.8. 各ファイターは、自分のファーストヴァンガードを表向きにし、先攻ファイターをターンファイターとしてゲームを開始します。

第9章 ゲームの進行

9.1. 概要

- 9.1.1. ゲームは‘ターン’と呼ばれる手順を繰り返すことで進められます。あるターン中は、いずれかのファイターがターンファイターとなり、そうでないファイターは非ターンファイターとなります。
- 9.1.2. ターンファイターは、9.2 から 9.11 で示された順に従って各フェイズを実行します。

9.2. スタンドフェイズ

- 9.2.1. ‘ターン開始時’及び‘スタンドフェイズ開始時’で示されている誘発条件を持つ有効な自動能力が待機状態になります。その後にチェックタイミングが発生します。
- 9.2.2. ターンファイターは、自分のフィールドにあるすべてのユニットをスタンド状態にします。
- 9.2.3. チェックタイミングが発生します。このチェックタイミングで行うべき処理がすべて終了したら、次のフェイズに進みます。

9.3. ドローフェイズ

- 9.3.1. ドローフェイズでは、ドローステップと G アシストステップをこの順で実行します。

9.4. ドローステップ

- 9.4.1. ‘ドローフェイズ開始時’で示されている誘発条件を持つ有効な自動能力が待機状態になります。その後にチェックタイミングが発生します。
- 9.4.2. ターンファイターはカードを 1 枚引きます。
- 9.4.3. チェックタイミングが発生します。このチェックタイミングで行うべき処理がすべて終了したら、G アシストステップに進みます。

9.5. G アシストステップ

- 9.5.1. ‘G アシストステップ開始時’で示されている誘発条件を持つ有効な自動能力が待機状態になります。その後にチェックタイミングが発生します。
- 9.5.2. ターンファイターは、自身のヴァンガードがグレード 3 以上でなく、自分の手札に自分のヴァンガードのグレードより 1 大きい、メインタイプがユニットであるカードがない場合、自分の山札からカードを探することができます。これを G アシストと呼び、以下の手順に従います。
 - 9.5.2.1. ターンファイターは、自分の手札を公開します。
 - 9.5.2.2. ターンファイターは、自分の山札の上から 5 枚見て、自分のヴァンガードのグレードより 1 大きい、メインタイプがユニットであるカードを 1 枚まで選び、相手に見せてから、手札に加えます。手札に加えた場合、自分の手札から 2 枚選び、除外します。手札に加えた場合も加えなかった場合も山札をシャッフルします。
- 9.5.3. チェックタイミングが発生します。このチェックタイミングで行うべき処理がすべて終了したら、次のフェイズに進みます。

9.6. ライドフェイズ

- 9.6.1. ライドフェイズでは、ライドステップとストライドステップをこの順で実行します。

9.7. ライドステップ

- 9.7.1. ‘ライドフェイズ開始時’で示されている誘発条件を持つ有効な自動能力が待機状態になります。その後にチェックタイミングが発生します。
- 9.7.2. ターンファイターは、自分がマスターであるレギオンメイトでないいずれかのヴァンガードに、そのヴァンガードとグレードが同じか 1 大きい手札のユニットカードを 1 枚ライドすることができます。
 - 9.7.2.1. このライドは、効果により追加のコスト等の変更が発生していないかぎりノーマルライドです。
- 9.7.3. チェックタイミングが発生します。このチェックタイミングで行うべき処理がすべて終了したら、ストライドステップに進みます。

9.8. ストライドステップ

- 9.8.1. ‘ストライドステップ開始時’で示されている誘発条件を持つ有効な自動能力が待機状態になります。その後にチェックタイミングが発生します。
- 9.8.2. ターンファイターは、自分がマスターであるヴァンガード(双闘しているものも含む)にストライド条件が

‘ストライドステップ’のGユニットの超越スキルをプレイすることができます(6.6)。

- 9.8.3. チェックタイミングが発生します。このチェックタイミングで行うべき処理がすべて終了したら、次のフェイズに進みます。

9.9. メインフェイズ

- 9.9.1. ‘メインフェイズ開始時’で示されている誘発条件を持つ有効な自動能力が待機状態になります。
- 9.9.2. ターンファイターにプレイタイミングが与えられます。このプレイタイミングでは以下に示すメインフェイズでの選択可能な行動のいずれかを、好きな順番で好きな回数実行可能です。
- 9.9.2.1. ターンファイターは、自分のいずれかのリアガードサークル1つに、自身のレギオンメイトでないいずれかのヴァンガードとグレードが同じかそれ以下のユニットカードを1枚コールすることができます(6.2)。
- 9.9.2.1.1. このコールは、効果により追加のコスト等の変更が発生していないかぎりノーマルコールです。
- 9.9.2.1.2. 何らかの状況によって自身のヴァンガードがいないまたは参照できない状態になっているファイターは、この行動を実行できません。
- 9.9.2.2. ターンファイターは、自身のある縦列の前後のサークルがリアガードサークルである場合、それらのサークルに置かれているカードを交換することができます。
- 9.9.2.2.1. 両方のサークルにカードが置かれている場合、それぞれに置かれているカードをもう一方のサークルに同時に置きます。
- 9.9.2.2.2. 一方のサークルにカードが置かれていない場合、もう一方のサークルに置かれているカードをそのサークルに置きます。
- 9.9.2.2.3. 両方のサークルにカードが置かれていない場合、何も起こりません。
- 9.9.2.2.4. ターンファイターは、このターン中に自身がプレイしたオーダーカードの枚数が自身のオーダー上限未満の場合、自身のヴァンガードのグレード以下のグレードの手札のノーマルオーダーを1枚プレイすることができます。
- 9.9.2.2.5. 特に指定がないかぎり、各プレイヤーのオーダー上限は1です。
- 9.9.2.3. ターンファイターは、自身がマスターである有効な起動能力を1つプレイすることができます。
- 9.9.3. ターンファイターが、自分のプレイタイミングで何もプレイしないことを選択した場合、次のフェイズに進みます。

9.10. バトルフェイズ

- 9.10.1. ターンファイターは、自分がマスターであるユニットで、相手のユニットを攻撃することができます。このフェイズに関する詳細は、‘アタックとバトル’(第10章)を参照してください。

9.11. エンドフェイズ

- 9.11.1. ヴァンガードサークルやリアガードサークルに存在するハーツ状態でないすべてのGユニットをGゾーンに表向きに置きます。
- 9.11.1.1. この処理は、ヴァンガードサークルやリアガードサークルにGユニットが存在するかぎり繰り返します。
- 9.11.2. なんらかの理由でこの時点でハーツ状態のGユニットがある場合、そのすべてをGゾーンに表向きに置きます。
- 9.11.3. 自分のフィールドにあるすべての呪縛状態やデリート状態のカードを、それぞれ呪縛状態でない状態やデリート状態でない状態にし、表向きにします。
- 9.11.4. いずれかのサークルに楽曲オーダー(17.7)がある場合、そのカードをドロップゾーンに置きます。
- 9.11.5. 属性が星域であるサークルにユニットがいる場合、そのユニットをオーナーの山札の一番下に置きます。
- 9.11.6. ‘解呪した時’と‘表にした時’、‘Gゾーンに置かれた時’で示される誘発条件を持つ自動能力が待機状態になります。その後、チェックタイミングが発生します。
- 9.11.7. このエンドフェイズ中に待機状態になったことがない、‘エンドフェイズ開始時’及び‘ターンの終了時’で示されている誘発条件を持つ自動能力が待機状態になります。
- 9.11.8. チェックタイミングが発生します。このチェックタイミングで行うべき処理がすべて終了したら、すべての‘そのターン中’を期限とする効果が消滅します。
- 9.11.9. この時点で、待機状態の自動能力が存在せず、実行する必要のあるルール処理(第13章)も存在せず、このエンドフェイズ中に待機状態になったことがない、公開領域、または双方のファイターが内容を確認できる状態にある非公開領域のカードが持つ‘エンドフェイズ開始時’及び‘ターン終了時’で示されている誘発条件を持つ有効な自動能力が無い場合、現在のターンファイターの対戦相手がターンファイターとなり、次のターンのスタンドフェイズに進みます。このターンは終了します。そうでない場合、9.11.7 から処理を実行しなおします。

第10章 アタックとバトル

10.1. 基本

- 10.1.1. バトルフェイズにおいて、ターンファイターは自身の前列のサークルにいるスタンド状態のユニットで、相手ユニットに対しアタックを行うことができます。バトルフェイズは、スタートステップから始まる一連のステップを実行することで進めていきます。
- 10.1.2. スタートステップからクローズステップまでを1回ずつ実行させる一連のステップを、まとめてアタックサブフェイズと呼びます。10.4.1.1 から 10.8.1.4 までの間の一連の手順をバトルと呼びます。
- 10.1.3. バトルは、バトルが開始した時点で1回行ったものとして数え、以降に処理が途中で中断し、クローズステップに進行しても、1回のバトルとして数えます。

- 10.1.4. バトルは、指定被アタックユニットにヴァンガードが含まれる場合、クローズステップが終了するまで、ヴァンガードにアタックしたことになります。同様に、指定被アタックユニットにリアガードが含まれる場合、クローズステップが終了するまで、リアガードにアタックしたことになります。
- 10.1.5. 10.4.1.8 以降に何らかの効果でユニットのアタックがヴァンガードからリアガードに、あるいはリアガードからヴァンガードに変更された場合、それまでのユニットにアタックしている事象は、新たなユニットにアタックしている事象に変更されます。
- 10.2. アタック処理
- 10.2.1. アタックステップからクローズステップまでの一連の処理を行うことをアタック処理といい、特定行動‘アタックする’ (7.36)によって参照されます。
- 10.2.2. アタックにおいては、指定アタックユニットと指定被アタックユニットがあり、これらは特定のユニットであるか、未指定であるかのいずれかです。
- 10.2.3. 何らかの効果により指定被アタックユニットに指定できないユニットがある場合、そのユニットはバトルできません。逆も同様です。
- 10.3. スタートステップ
- 10.3.1. ターンファイターがアタックを行うかどうかを選択するステップです。このステップは以下の手順に従って進行します。
- 10.3.1.1. このステップがこのバトルフェイズにおいて最初のスタートステップであった場合、‘スタートステップ開始時’および‘バトルフェイズ開始時’で示されている誘発条件を持つ有効な自動能力が待機状態になります。その後にチェックタイミングが発生します。
- 10.3.1.2. ターンファイターはアタックするかしないかを選びます。
- 10.3.1.3. アタックすることを選んだ場合、チェックタイミングが発生します。このチェックタイミングで行うべき処理がすべて終了したら、指定アタックユニットと指定被アタックユニットを未指定にし、アタックステップに進みます。
- 10.3.1.4. アタックしないことを選んだ場合、次のフェイズに進みます。
- 10.3.2. 先攻の第1ターン、またはアタックできないユニットやアタックされないユニットがある、もしくはそれらの組み合わせにより結果としてアタックがまったく行えない場合、アタックすることができません。自動的にアタックしないことが選ばれます。
- 10.4. アタックステップ
- 10.4.1. ターンファイターがどのユニットでアタックを行うかを選択するステップです。このステップは以下の手順に従って進行します。
- 10.4.1.1. バトルが開始します。
- 10.4.1.2. ‘アタックステップ開始時’で示されている誘発条件を持つ有効な自動能力が待機状態になります。その後にチェックタイミングが発生します。
- 10.4.1.3. 指定アタックユニットが未指定の場合、ターンファイターは、自身の前列のヴァンガードサークルまたはリアガードサークルにいる、ルールまたは効果によりアタックが禁止されていないスタンド状態のユニットを1体(または双闘している(6.4.2)ヴァンガードの場合はその両方)を選択し、指定アタックユニットをそのユニットにします。
- 10.4.1.3.1. なんらかの理由で、この時点で適正に指定アタックユニットとして選択できるユニットが存在しない場合、バトルを終了し、このアタックステップを終了し、次のフェイズに進みます。
- 10.4.1.4. 指定アタックユニットが適正であるかを確認します。
- 10.4.1.4.1. 指定アタックユニットが未指定である、または指定アタックユニットがレスト状態である、または指定アタックユニットが何らかの効果によりアタックできない場合、ただちにクローズステップに進みます。
- 10.4.1.5. 指定アタックユニットをレストし、アタックを行います。
- 10.4.1.5.1. これ以降クローズステップ終了までの間、指定アタックユニットが現在のサークルにいかぎり、指定アタックユニットはアタックを行っている状態になります。
- 10.4.1.5.2. これ以降、バトル終了までの間に、そのユニットがアタックできなくなった場合でも、そのバトルは中断することなく続行されます。
- 10.4.1.6. 指定被アタックユニットが未指定の場合、ターンファイターは今回のバトルでアタックされるユニットとして、相手の前列のヴァンガードサークルのレギオンメイトでないユニット、またはリアガードサークルにいる、ルールまたは効果により指定アタックユニットからのアタックが禁止されていないユニットを1体選択し、指定被アタックユニットをそのユニットにします。
- 10.4.1.7. 指定被アタックユニットが適正であるかを確認します。
- 10.4.1.7.1. 指定被アタックユニットが未指定である、または指定アタックユニットが何らかのルールまたは効果により指定被アタックユニットをアタックできない場合、ただちにクローズステップに進みます。
- 10.4.1.8. これ以降クローズステップ終了までの間、指定被アタックユニットが現在のサークルにいかぎり、指定被アタックユニットはアタックしているユニットにアタックされている状態になります。
- 10.4.1.8.1. バトルの途中でアタックされているユニットが変更されたり、フィールドに存在しなくなったりした場合、そのバトルは中断することなく続行されます。
- 10.4.1.8.2. ‘アタックしているユニット’と‘アタックされているユニット’は互いに‘バトル相手のユニット’です。
- 10.4.1.8.3. ‘バトルする’等の効果によってアタックされるユニットの、指定数の増加や指定

方法の変更効果がある場合、それが適用されます。

- 10.4.1.8.4. アタックされるユニットが複数の場合、それらのユニットはすべて‘アタックされているユニット’としてそのアタックサブフェイズを進行し、処理が行われます。
- 10.4.1.9. これ以降、ガーディアンサークルに非ターンファイターのユニットが置かれる場合、アタックされているユニットを1体選択します。そのガーディアンはその選択したユニットをガードします。
- 10.4.1.9.1. アタックされているユニットが1体しか存在しない場合、そのユニットは自動的にその1体のユニットをガードします。
- 10.4.1.10. 10.4.1.8 からクローズステップまでの間にアタックしているユニットがあるサークルに他のユニットが置かれた場合、そのユニットは、アタックしているユニットではありません。
- 10.4.1.11. ターンファイターはアタックしているユニットと同じ縦列の後列にいるブーストを持つ自分のリアガード1枚を選択し、アタックしているユニット(ヴァンガードが双闘している場合はそのどちらか)をブーストすることができます。ブーストした場合、そのブーストを持つユニットをレストします。
- 10.4.1.11.1. 選択されて以降クローズステップ終了までの間、アタックしているユニットと選択されたユニットが現在のサークルにいるかぎり、そのユニットはアタックしているユニットをブーストしている状態になります。
- 10.4.1.11.2. クローズステップ終了までの間、選択されたユニットがブーストしているかぎり、ブーストしているユニットのパワー分だけブーストされているユニットのパワーが増え続けます。同時に、双闘しているヴァンガードがアタックしているかぎり、レギオンメイトのパワー分だけレギオンリーダーのパワーが増え続けます。
- 10.4.1.12. チェックタイミングが発生します。‘アタックした時’や‘ブーストした時’の能力はここで解決されます。
- 10.4.1.13. チェックタイミングが発生します。このチェックタイミングで行うべき処理がすべて終了したら、ガードステップに進みます。

10.5. ガードステップ

- 10.5.1. 非ターンファイターがガーディアンを置くことで相手の攻撃を防ぐことができるステップです。このステップは以下の手順に従って進行します。
- 10.5.1.1. ‘ガードステップ開始時’で示されている誘発条件を持つ有効な自動能力が待機状態になります。
- 10.5.1.2. 非ターンファイターにプレイタイミングが与えられます。このプレイタイミングでは以下のいずれかが実行可能です。
- 10.5.1.2.1. 非ターンファイターはパスを選択することができます。パスを選択した場合、ドライブチェックを行うユニットがアタックしてい

る場合はドライブステップに、リアガードがアタックしている場合はダメージステップに進みます。

- 10.5.1.2.1.1. コールすることも、インターセプトすることも禁止されている場合、またはアタックされているユニットが存在しない場合、非ターンファイターは自動的にパスを選択したことになります。
 - 10.5.1.2.2. 非ターンファイターは手札のユニットカードを1枚以上選び、ガーディアンサークルにコールすることができます。
 - 10.5.1.2.2.1. このコールは、効果により追加のコスト等の変更が発生していないかぎりノーマルコールです。
 - 10.5.1.2.2.2. このコールでは、自身のヴァンガードのグレードは参照されません。
 - 10.5.1.2.3. 非ターンファイターは、お互いのヴァンガードがグレード3以上で、かつ自分のGゾーンにある表向きのGガーディアン(14.15)を持つカードが3枚以下で、かつ自分のGゾーンに裏向きに置かれているカードの中にGガーディアンを持つカードがある場合、その裏向きのカードの中から1枚以上を選んで表向きにし、そのGガーディアン能力で指定されたコストを支払って、それを表向きにしてガーディアンサークルにスペリオルコールすることができます。
 - 10.5.1.2.4. 非ターンファイターは自分の前列にいるインターセプト(14.3)を持つ、このバトルでアタックされているものでないリアガードを1枚以上選び、レスト状態でガーディアンサークルに置くことを選択することができます。
 - 10.5.1.2.4.1. ユニットが‘インターセプトした時’を条件とする自動能力は、そのユニットがインターセプトを行うことを選択した時点で待機状態になりますが、そのユニットが何らかの理由でガーディアンサークルに移動しなかった場合は待機状態が取り消されます。
 - 10.5.1.2.4.2. 非ターンファイターは、このターン中に自身がプレイしたオーダーカードの枚数が自身のオーダー上限未満の場合、自身のヴァンガードのグレード以下のグレードの手札のブリッツオーダーを1枚プレイすることができます。
 - 10.5.1.2.4.3. 特に特に指定がないかぎり、各プレイヤーのオーダー上限は1です。
 - 10.5.2. チェックタイミングが発生します。このチェックタイミングで行うべき処理がすべて終了したら、10.5.1.2に戻ります。
- ## 10.6. ドライブステップ
- 10.6.1. アタックしているユニットのアタックにおける追加効果をチェックするステップです。このステップは以下の手順に従って進行します。
 - 10.6.1.1. ‘ドライブステップ開始時’で示されている誘発条件を持つ有効な自動能力が待機状態に

なります。その後にチェックタイミングが発生します。

10.6.1.2. ターンファイターは、アタックしているヴァンガードがいる場合、または何らかの効果によりドライブチェックを行うリアガードがいる場合、攻撃による追加効果を判定します。この

10.6.1.2.1 から 10.6.1.3 で示される一連の手順をドライブチェックと呼びます。

10.6.1.2.1. アタックしているヴァンガード、またはそれが双闘しているならレギオンリーダー、または効果によりこのステップでドライブチェックを行うユニットを、このステップ中はドライブユニットと呼びます。

10.6.1.2.2. ドライブユニットのドライブが 0 以下である場合、10.6.1.4 へ進みます。そうでない場合、10.6.1.2.3 へ進みます。

10.6.1.2.3. ターンファイターは、自身の山札の一番上のカードを、表向きに自身のトリガーゾーンに置きます。

10.6.1.2.4. ターンファイターの、ヴァンガードサークルかリアガードサークルに、トリガーゾーンにあるユニットと同じクランのユニットがいるならば、トリガーアイコンの示す行動を実行します。

10.6.1.2.5. チェックタイミングが発生します。

10.6.1.2.6. 今回のドライブチェックによりトリガーゾーンに置いたカードがまだトリガーゾーンに置かれている場合、それを自身の手札に加えます。

10.6.1.3. チェックタイミングが発生します。このバトルのドライブステップ中に行ったドライブチェックの回数が、ドライブユニットのドライブ未満の場合は 10.6.1.2 に進み、それ以上の場合は 10.6.1.4 へ進みます。

10.6.1.4. チェックタイミングが発生します。このチェックタイミングで行うべき処理がすべて終了したら、ダメージステップに進みます。

10.7. ダメージステップ

10.7.1. アタックされているユニットへのダメージを解決するステップです。このステップは以下の手順に従って進行します。

10.7.1.1. ‘ダメージステップ開始時’で示されている誘発条件を持つ有効な自動能力が待機状態になります。その後にチェックタイミングが発生します。

10.7.1.2. アタックしているユニット(双闘している(6.4.1.3.1)ヴァンガードの場合それらのパワーの合計)とアタックされているユニットのパワーを比較します。アタックしているユニットのパワー以下のパワーを持つアタックされているユニットは、すべてヒットされます。

10.7.1.2.1. なんらかの理由で、アタックしているユニットかアタックされているユニットがフィールドに存在しなくなったり、いずれかのユニットのマスターが変更になったり、いずれかのユニットが別のサークルに移動したり

した場合、パワーの比較は行われず、ヒットしません。

10.7.1.3. チェックタイミングが発生します。この時点では‘ヒットした時’‘ヒットしなかった時’事象は発生しません。それらの能力は 10.7.1.6 以降で発生します。

10.7.1.4. ヒットしたユニットは、アタックされているユニットがヴァンガードである場合、自身(双闘している(6.4.1.3.1)場合はレギオンリーダー)のクリティカルに等しい値のダメージを与えます。

10.7.1.4.1. なんらかの理由でアタックしているユニット(双闘している(6.4.1.3.1)場合はレギオンリーダー)のクリティカルが 0 以下になっている場合、そのアタックしているユニットはダメージを与えません。

10.7.1.4.2. なんらかの理由で、アタックしているユニットがフィールドに存在しなくなったり、ユニットのマスターが変更になったり、ユニットが別のサークルに移動したりした場合、そのアタックしているユニットはダメージを与えません。

10.7.1.5. チェックタイミングが発生します。

10.7.1.6. アタックしているユニットが‘ヒットしている’事象は、この時点で発生します。

10.7.1.6.1. アタックしているユニットが‘(特定のユニット)にアタックしてヒットしている’事象は、この時点で 10.4.1.8 での指定被アタックユニットがその特定のユニットで、なおかつこのアタックがヒットしている場合に発生します。

10.7.1.7. アタックしているユニットがヒットしなかった場合、そのユニットの‘ヒットしていない’事象が発生します。これには、アタックしたユニットが何らかの理由でバトル中にアタックしたユニットでなくなった場合を含みます。

10.7.1.8. このバトルにおいて‘『ヒットした時』の効果’を、ヒットしていなくても発動する’効果が存在する場合、この時点で、現在のバトルでアタックしたユニットがヒットしている事象(10.7.1.6)の発生を誘発条件とする自動能力が有効であるなら、その自動能力が 1 回待機状態になります。

10.7.1.9. チェックタイミングが発生します。

10.7.1.10. すべての G ガーディアンが退却し、その後すべてのガーディアンが退却し、その後ヒットされたリアガードが退却します。

10.7.1.11. チェックタイミングが発生します。このチェックタイミングで行うべき処理がすべて終了したら、クローズステップに進みます。

10.8. クローズステップ

10.8.1. アタック終了時の処理を実行するためのステップです。このステップは、以下の手順に従って進行します。

10.8.1.1. このクローズステップ中に待機状態になったことがない、‘クローズステップ開始時’及び‘バトルの終了時’で示されている誘発条件を持つ有効な自動能力が待機状態になります。

- 10.8.1.2. チェックタイミングが発生します。このチェックタイミングで行うべき処理がすべて終了したら、バトルが終了し、すべての‘バトル中’および‘そのバトル中’を期限とする効果が消滅します。同時に、アタックおよびブーストしているユニットはアタックおよびブーストしているユニットでなくなり、アタックされているユニットはアタックされているユニットでなくなります。
- 10.8.1.3. この時点で、待機状態の自動能力が存在せず、実行する必要のあるルール処理(第13章)も存在せず、このクローズステップ中に待機状態になったことがない、公開領域、または双方のファイターが内容を確認できる状態にある非公開領域のカードが持つ‘クローズステップ開始時’及び‘バトル終了時’で示されている誘発条件を持つ有効な自動能力が無い場合、10.8.1.4に進みます。そうでない場合、10.8.1.1から処理を実行しなおします。
- 10.8.1.4. これが‘アタックする’特定行動の実行中である場合、このアタック処理が終了します。そうでない場合、その後、スタートステップに戻ります。

第11章 カードや能力のプレイと解決

11.1. 能力の種別

- 11.1.1. 能力は、起動能力、自動能力、永続能力、オーダー能力の4種類に分けられます。
- 11.1.1.1. 起動能力とは、プレイタイミングが与えられたファイターが、コストを支払うことによって自動的に実行する能力を指します。
- 11.1.1.1.1. 起動能力は、カード上では‘【(領域)】:(条件)【(コスト)】(効果)’またはと表記されています。【】で囲まれた内側がその起動能力をプレイできる領域、(条件)はその起動能力をプレイするために必要な条件、(コスト)がその起動能力をプレイするためのコスト、それに続くテキストが、その起動能力を解決することで発生する効果を指します。
- 11.1.1.1.2. 起動能力の中には‘(要件)なら、’で示される効果に要件を持つカードが存在します。
- 11.1.1.1.2.1. ‘そのターン中、この能力は使えなくなる。’‘そのゲーム中、この能力は使えなくなる。’という効果は、その効果のコストを支払うか、その効果の解決後にゲームの状態が変化していた場合、要件が満たされなくとも解決されます。
- 11.1.1.1.2.1.1 コストがない、もしくは何らかの効果によってコストが本来そのコストの支払いによって領域移動させるべきカードまたは状態を変化させるべきカードがないコストに変更されている場合には、‘そのターン中、この能力は使えなくなる。’‘そのゲーム中、この能力は使えなくなる。’と

いう効果は、要件が満たされなくとも解決されます。

- 11.1.1.1.2.2. 要件を持つ文章において、その要件の判定が成立したことによって実行されるのは、直後の‘。’までで区切られる一文内の処理のみです。
- 11.1.1.1.2.3. ‘～なら、’や‘～たら、’で示される要件を判定する基準として以前の文章が参照されることがあります。
- 11.1.1.1.2.4. ‘～なら、’や‘～たら、’等の要件を表す文章を区切っている‘。’の直後の文章が‘～なら、’や‘～たら、’で始まる文章があります。それらの文章の要件が前文の結果を参照する場合、前文が要件を満たさない限り、解決されません。
- 11.1.1.1.2.5. ‘さらに、’で始まる文章があります。その文章は必ず前文が存在します。その前文に要件が存在する場合、前文が要件を満たさない限り、‘さらに、’で始まる文章は解決されません。
- 11.1.1.1.2.6. コストのない起動能力はプレイすることを宣言するだけでプレイされます。
- 11.1.1.1.2.6.1 コストのない起動能力は自動的にプレイされるわけではありません。
- 11.1.1.2. 自動能力とは、その能力に示された事象がゲーム中で発生することにより、自動的にプレイされる能力を指します。
- 11.1.1.2.1. 自動能力は、カード上では‘【(領域)】:(条件)時、(効果)’または‘【(領域)】:(フェイズやステップ)開始時、(効果)’と表記されるか、自身が領域を移動する自動能力の場合は‘:(条件)時、(効果)’と表記されます。(条件)や(フェイズやステップ)の時点で示された事象を‘誘発条件’と言い、自動能力の誘発条件が満たされていることを、‘(その自動能力が)誘発している’と言います。
- 11.1.1.2.1.1. 非公開領域で誘発した非公開状態のカードが持つ自動能力は、そのマスターがそれを明示することで待機状態となります。明示しない場合、待機状態にはなりません。
- 11.1.1.2.2. 自動能力の中には‘ (テキスト)’のかわりに‘ [コスト] (テキスト)’と書かれているものがあります。この場合の[コスト]は、この自動能力を解決する際に、その解決中に‘コスト’という表記で参照され支払われるコストを意味します。
- 11.1.1.2.3. 自動能力の中には‘【(領域)】:(条件)時、(要件)なら、’で示される効果に要件を持つカードが存在します。これらのカードは(条件)を満たしていれば、(要件)が満たされなくとも、能力が誘発します。
- 11.1.1.2.3.1. ‘そのターン中、この能力は使えなくなる。’‘そのゲーム中、この能力

は使えなくなる。’という効果および
ターン1回は、その効果の解決後にゲームの状態が変化していた場合、要件が満たされなくとも解決されます。

11.1.1.2.3.1.1 これらの記述がある自動能力が待機状態である場合、その能力のマスターは自動能力のプレイ時にこの自動能力を選び、それをプレイせず待機状態を1回減らすことができます。

11.1.1.2.3.2. 要件を持つ文章において、その要件の判定が成立したことによって実行されるのは、直後の‘。’までで区切られる一文内の処理のみです。

11.1.1.2.3.3. ‘～なら、’や‘～たら、’で示される要件を判定する基準として以前の文章が参照されることがあります。

11.1.1.2.3.4. ‘～なら、’や‘～たら、’等の要件を表す文章を区切っている‘。’の直後の文章が‘～なら、’や‘～たら、’で始まる文章があります。それらの文章の要件が前文の結果を参照する場合、前文が要件を満たさない限り、解決されません。

11.1.1.2.3.5. ‘さらに’で始まる文章があります。その文章は必ず前文が存在します。その前文に要件が存在する場合、前文が要件を満たさない限り、‘さらに’で始まる文章は解決されません。

11.1.1.2.3.5.1 前文がコストの支払いを含む場合、そのコストを支払うことが前文の要件となります。

11.1.1.3. 永続能力とは、その能力が有効な期間、常になんらかの効果を発生している能力を指します。

11.1.1.3.1. 永続能力は、カード上では**永**【(領域)】:(効果)’と表記されるか、すべての領域で発動する永続能力の場合は**永**:(効果)’と表記されています。

11.1.1.4. オーダー能力とは、オーダーカードのテキストに書かれている、**起自永**のアイコンを持たない能力です。

11.2. 効果の種類

11.2.1. 効果は‘単発効果’‘継続効果’‘置換効果’の3種類に分けられます。

11.2.1.1. ‘単発効果’とは、解決中にその指示を実行し、それで効果が終了するものを指します。‘1枚引く’‘相手のグレード1以下のリアガードを1枚選び、退却させる。’等の能力がある場合、その能力により発生する効果は単発効果です。

11.2.1.2. ‘継続効果’とは、一定の期限の間(期間が特に指定されていない、すなわち‘このゲーム中’である物を含みます)、その効果が有効であるものを指します。‘そのバトル中、このユニットの**HP**+2000’‘そのターン中、このユニッ

トの**HP**+1’等の能力がある場合、その能力により発生する効果は継続効果です。

11.2.1.2.1. ある期限の継続効果が作成されるとき、その期限が現在のゲームの状況と矛盾する場合、その継続効果は作成されません。

例:メインフェイズ中に‘そのバトル中’を期限とする継続効果が作成された場合、現在はバトル中ではないため、その効果は作成されません。

11.2.1.3. ‘置換効果’とは、ゲーム中にある事象が発生する場合、それを実行するのではなく別な事象を実行するものを指します。

11.2.1.3.1. 能力に‘[行動 A]する際、かわりに[行動 B]する’と書かれている場合、その能力により発生する効果は置換効果です。

11.2.1.3.2. 能力に‘[行動 A]する際、かわりに[選択]してよい。そうしたら、[行動 B]する’と書かれている場合、その能力により発生する効果は選択型置換効果です。

11.2.1.3.3. ある情報を修正する効果の修正内容を変更する効果は置換効果です。

11.2.1.3.4. 現在以降に発生する処理の内容を変更する効果は置換効果です。

11.3. 有効な能力と無効な能力

11.3.1. なんらかの効果により、特定の効果が“有効”であったり“無効”であったりすることがあります。この場合、以下に従った処理を行います。

11.3.2. なんらかの効果の一部あるいは全部が特定の条件下で無効であると表記されている場合、その条件下で、その部分は能力としては存在しますが、効果を発生することはありません。その効果が本来なんらかの選択を求める場合、その選択は行いません。

11.3.3. なんらかの効果の一部あるいは全部が特定の条件下で有効であると表記されている場合、その条件が満たされていない状態では、その部分は無効です。

11.3.4. 【】(隅付き括弧)の中に領域が書かれている能力は、【】の中に記載されている領域でのみ有効です。

11.3.4.1. 領域が指定されていない能力は、原則としてそのカードがどの領域にあっても有効です。

11.3.4.2. 能力の中には【**HP**/**HP**】のような形で書かれている場合もあります。これは書かれているどちらかの領域にある時に有効であることを意味します。

11.4. 発生源

11.4.1. なんらかの効果により、ある効果が何により発生したかを求めることがあります。これを効果の発生源と呼び、以下のように定義されます。

11.4.1.1. あるカードの能力により効果が発生している場合、その能力を持つカードが効果の発生源です。

11.4.1.2. ルール処理(第13章)は効果ではなく、発生源を持ちません。

11.4.2. なんらかの効果が、ダメージが何からユニットに与えられたかを求めることがあります。これをダメージの発生源と呼び、以下のように定義されます。

11.4.2.1. ダメージステップ中に、ルールの手順でユニットがユニットに与えるダメージのことをバトルダメージと呼びます。バトルダメージにおいては、そのカードが発生源となります。

11.4.2.2. カードの能力によって発生する効果が与えるダメージをスキルダメージと呼びます。スキルダメージを与える場合、特にその効果に発生源が定義されていない限り、その効果の発生源がダメージの発生源です。

11.4.2.2.1. このとき、ダメージの発生源がファイターであるように読める場合でも、そのダメージの発生源はカード自身となります。

11.4.3. 何らかの処理により、効果がどのユニットにより発生しているかを求めることがあります。これを効果の発生源と呼び、以下のように定義されます。

11.4.3.1. ユニットが持つ能力により発生した効果は、そのユニットを効果の発生源とします。

11.4.3.2. あるユニットを発生源とした効果が時限誘発(11.7.13)を作成する場合、その時限誘発による効果はその時限誘発を作成した効果の発生源を発生源とします。

11.5. チェックタイミングとプレイタイミング

11.5.1. チェックタイミングとは、ゲーム中で発生したルール処理(第13章)や自動能力(11.1.1.2)のプレイを行う時点を指します。チェックタイミングが発生した場合、ゲームは以下の手順で進行します。

11.5.1.1. 現在処理を行うべきルール処理(第13章)すべてを同時に実行します。その結果新たに実行すべきルール処理が発生している場合、この手順を行うべきルール処理が残っている間繰り返します。

11.5.1.2. ターンファイターがいずれかのイマジナリーギフトを獲得する場合、ターンファイターはそのうち1つを選び、そのイマジナリーギフト処理(16.3)を実行し、その後前述11.5.1.1に戻ります。

11.5.1.3. 非ターンファイターがいずれかのイマジナリーギフトを獲得する場合、非ターンファイターはそのうち1つを選び、そのイマジナリーギフト処理(16.3)を実行し、その後前述11.5.1.1に戻ります。

11.5.1.4. ターンファイターがマスターであるいずれかの自動能力が待機状態になっている場合、ターンファイターはそのうち1つを選び、プレイと解決を行い、その後前述11.5.1.1に戻ります。

11.5.1.5. 非ターンファイターがマスターであるいずれかの自動能力が待機状態になっている場合、非ターンファイターはそのうち1つを選び、プレイと解決を行い、その後前述11.5.1.1に戻ります。

11.5.1.6. チェックタイミングを終了します。

11.5.2. プレイタイミングとは、指定されたファイターが能動的に行動を行うことのできる時点を指します。いずれかのファイターにプレイタイミングが与えられる場合、以下の処理を実行します。

11.5.2.1. 実際に行動の選択を行う前に必ずチェックタイミングが発生します。そのチェックタイミングに解決すべきルール処理や自動能力が存在しなくなった後に、実際にそのファイターにプレイタイミングが与えられます。

11.5.2.2. プレイタイミングが与えられたファイターは、その時点で可能な行動を1つ選択して実行するか、何もしないことを選択します。

11.5.2.2.1. 何かを行った場合、その解決を終えた後に、特に指定が無い限りそのファイターに再びプレイタイミングが与えられます。

11.5.2.3. 何もしないことを選択し、その間に新たなルール処理(第13章)や自動能力(11.1.1.2)のプレイが行われていない場合、ゲームが進行します。

11.6. コストの支払い

11.6.1. カードや起動能力のプレイ時または効果の解決中にコストの支払いを求められる場合、そのコストは、すべてを同時に、かつその能力のマスターが、自身がマスターであるものでコストを支払う必要があります。

11.6.1.1. この場合のコストには、テキスト上で[]によって明示されているコスト、あるいは‘(特定の行動)でもコールできる’というコールの代替コストが含まれます。

11.6.2. 何らかの効果によってコストがなくなった、または事実上なくなっている場合は、宣言のみで支払うことができます。

11.6.3. コストで‘すべて’と指定されている場合、その‘すべて’が事実上0の状態であってもコストを支払えます。

例: ‘手札をすべて捨てる’というコストは、手札が0枚の時も支払うことができます。

11.7. カードや能力のプレイ及び解決

11.7.1. 起動能力や自動能力や手札のカードは、プレイすることによって解決され、効果が発生します。永続能力はプレイされることはなく、常に効果が発生し続けています。

11.7.2. カードや能力をプレイする場合は、以下の手順に従います。

11.7.2.1. プレイする能力や手札のカードを指定します。

11.7.2.1.1. プレイするのがオーダーカードであり、このターン中に自身がプレイしたオーダーカードの枚数が、自身のオーダー上限未満の場合、そのカードをオーダー領域に移動します。このターン中に自身がプレイしたオーダーカードの枚数が、自身のオーダー上限以上の場合、そのカードのプレイは取り消され、そのカードは元の領域に残ります。

11.7.2.1.1.1. 特に指定がない限り、各ファイターのオーダー上限は1です。

11.7.2.2. プレイするのがカードや起動能力である場合、プレイするためのコストがあるなら、それらのコストをすべて決定し、すべてのコストを同時に支払います。コストのうち一部、または全

部を支払うことが不可能である場合、このプレイのためのコストはまったく支払うことはできず、カードや起動能力のプレイは取り消されます。

11.7.2.2.1. プレイする起動能力の発生源が非公開領域からであり、かつそのコストにその能力を持つカード自体の公開を含んでいない場合、その起動能力の発生源が該当する非公開領域にあることを明示しなければなりません。この場合、そのカードを公開することで明示できます。

11.7.2.3. プレイするのが起動能力かオーダーカードである場合、そのコストを支払います。

11.7.3. カードや能力の解決を行います。

11.7.3.1. プレイしたのが起動能力や自動能力である場合、その能力に示された効果を実行します。プレイしたのがオーダーカードである場合、そのオーダーカードのオーダー能力に示された効果を実行します。

11.7.3.1.1. 効果は常に表記順に実行します。

11.7.3.1.2. 効果の一部が箇条書きになっている場合、そのうち効果内の条件を満たす内容を上から順番に実行します。

11.7.3.1.2.1. 箇条書きになっている項目のいずれを実行するかを決定する場合、その条件が箇条書きの部分よりも前に規定されているなら、その規定を解決する時点でその箇条書きの部分を実行するかが固定されます。箇条書き部分の実行中にその条件が変わっても、それによりどの箇条書きの部分を実行するかは変更されません。

11.7.3.1.3. 効果中のいくつかの処理が‘/’で区切られている場合、その前後をすべて実行することを意味します。

11.7.3.2. プレイしたのがオーダーカードである場合、そのオーダー能力の効果をすべて処理した後、そのオーダーカードをドロップゾーンに置きます。

11.7.4. カードや能力によりなんらかのカードやファイターを選択する必要がある場合、解決の際に、その指示があった段階でそこで示された選ぶべきカードやファイター等（以下“目標”と表記）を選択します。

11.7.4.1. 選択する数が指定されている場合、それが可能な限りその数になるまで目標を選択する義務があります。選択することのできる状況で選択しないことはできません。

11.7.4.1.1. 選択する数が‘(数値)～まで’と書かれている場合、0 から指定された数までの間で任意の数の目標を選択することができます。0 を選択した場合、目標はまったく選択されません。

11.7.4.1.2. 選択する数が指定されている場合に、指定された数のうち一部を選択することが不可能である場合、可能な限りの目標を選択し、それらに対して指定された効果を与えます。

11.7.4.1.3. 選択する数が指定されている場合に、目標を1つも選べない場合、その目標は選択されません。その目標のかかわる効果はすべて無視されます。

11.7.4.1.4. 選択するものが公開されていない非公開領域のカードであり、かつ選択するための条件としてカードの情報を必要としている場合、非公開領域のカードがその情報を持つことは保障されません。選択するファイターは、その領域に条件を満たすカードがあったとしても、そのカードを選ばないことができます。

11.7.5. 能力や効果の一部で、ファイターやユニットが省略されることがあります。

11.7.5.1. 効果は何らかの行動を実行することを求めている、その行動を実行するファイターが明示的に指定されていない場合、その効果のマスターがその行動を実行します。

例：ファイターを指定せず‘1枚引く’という効果がある場合、この効果のマスターがカードを1枚引きます。

11.7.5.2. 効果があるカードを指定の領域に移動することを求めている、その領域がどのファイターに属するかが明示的に指定されていない場合、そのカードのオーナーに属する領域に移動します。

例：領域を指定せず‘このユニットをドロップゾーンに置く’という効果がある場合、そのユニットをそのオーナーのドロップゾーンに置きます。

11.7.5.3. 能力や効果がなんらかのユニットの情報や状態、あるいはそのユニットに対する処理や行動を求めている、そのユニットが明示的に指定されていない場合、その能力またはその効果が発生した能力を持つユニット自身の情報や状態を参照し、あるいはそのユニットに対し処理や行動を実行します。

例：‘選ぶ’などのユニット指定をせず‘登場時、パワー+10000’という処理を行う指示がある場合、これは‘このユニットが登場した時、このユニットのパワー+10000’を意味します。

11.7.6. ある効果の特定の条件を持つカードの情報を参照する処理において、その条件を持つカードが複数ある場合、その効果のマスターはそのそれぞれのカードに対し、任意の順番でその情報を参照してその処理を実行します。

例：‘このユニットはあなたのリアガードのカード名を得る’という処理において、あなたのリアガードが複数存在する場合、あなたはそのリアガードの順番を決め、このユニットはその順番でそのそれぞれのリアガードのカード名を得ます。

例：あなたのヴァンガードがパワー10000のユニットAとパワー20000のユニットBの2体いる状況で、あるリアガードの‘このユニットのパワーはあなたのヴァンガードのパワーと同じになるまで増減する’という効果を解決する場合、あなたはユニットAとユニットBの処理順を決め、そのそれぞれの値を参照してこのユニットのパワーをそのヴァンガードのパワーと同じ値になるまで増減する。その結果、後から処理したヴァンガードのパワーに等しい値までこのユニットの現在のパワーが増減する。

11.7.7. 自動能力とは、特定の誘発条件が発生したときに、その後に発生したチェックタイミングでプレイされる能力を指します。

- 11.7.8. なんらかの自動能力の誘発条件が満たされた場合、その自動能力は待機状態になります。
- 11.7.9. 自動能力の誘発条件が複数回満たされた場合、その自動能力はその回数分待機状態になります。
- 11.7.10. チェックタイミングが発生した段階で、自動能力のプレイを求められているファイターは、自身がマスターである自動能力のうち待機状態のものを1つ選び、‘使えない’ (12.2) 状態でない限り、それをプレイし、解決します。その後、選ばれた自動能力の待機状態が1回取り消されます。
- 11.7.10.1. 待機状態の自動能力のプレイは強制で、プレイしないことを選択することはできません。ただし、自身がマスターである自動能力が複数待機している場合、そのうちのどれを先にプレイするかを選ぶことは可能です。
- 11.7.10.2. 待機状態の自動能力を持つカードが、その自動能力のプレイの時点でマスターが変わっている場合、その自動能力はそれが待機状態になった時点でのマスターの自動能力としてプレイされます。
- 11.7.11. 自動能力の解決時にコストを支払うことを求められる場合、[コスト]で示されているコストを元に、決定されたすべてのコストを同時に支払います。コストのうち一部、または全部を支払うことが不可能である場合、このコストはまったく支払うことはできません。
- 11.7.11.1. コストが含まれる自動能力は、その解決中にコストで示される行動をしない場合、‘コストを払ってよい。払ったら～’または‘[コスト]することで、’以降の行動は、コスト支払い以前の条件による分岐および11.1.1.2.3.1で示されている使用制限を除き、その自動能力は見た目上何も起こしません。
- 11.7.11.1.1. 何らかの選択肢を持つ自動能力において、その選択肢が‘同じ効果は発動できない’という処理で選択することを禁止されている場合、その選択肢の内容を実行していなかったとしても、その選択肢を再び選択することはできません。
- 11.7.11.2. ‘[コスト]することで、’という表記によってコストを支払うことを求められている場合、このコストは支払わないことを選択できます。
- 11.7.12. あるカードが領域を移動することを誘発条件とする自動能力が存在します。これを領域移動誘発と呼びます。
- 11.7.12.1. 領域移動誘発による自動能力が、その能力を誘発させたカードの情報や、その能力が有効であるか否かを求める場合があります。その場合、以下に従ってその情報や能力を調べます。
- 11.7.12.1.1. カードが公開領域から非公開領域、あるいは非公開領域から公開領域に移動することによって誘発する自動能力がカードの情報を求める場合、そのカードが公開領域にある状態での情報を用います。
- 11.7.12.1.2. カードがフィールドからそれ以外の領域に移動することによって誘発する自動能力がカードの情報を求める場合、そのカードがフィールドにある状態での情報を用います。
- 11.7.12.1.3. 上記11.7.12.1.2.に示された以外の、公開領域から公開領域へ移動することによって誘発する自動能力がカードの情報を求める場合、そのカードが移動後の領域にある状態での情報を用います。
- 11.7.12.1.4. 他のユニットがライドしたことによって、ソウルへ移動することを誘発条件とする自動能力は、その自動能力の終了時まで、ソウルにある状態でユニットとしてのテキストを持つものとして扱います。
- 11.7.12.1.5. 他のユニットが超越したことを誘発条件とする自動能力と、自身がハーツ状態になることを誘発条件とする自動能力は、その自動能力の終了時まで、ハーツ状態であってもユニットとしてのテキストを持つものとして扱います。
- 11.7.13. なんらかの効果により、以降の特定の時点で誘発条件が発生する自動能力が作成されることがあります。これを時限誘発と呼びます。
- 11.7.13.1. 時限誘発は、特に期限が示されていない限り、一度だけ誘発条件を満たします。
- 11.7.14. 自動能力が、特定の事項が発生したことではなく、特定の条件が満たされていることを誘発条件としている場合があります(‘あなたの手札にカードがない時、～’等)。これを状態誘発と呼びます。
- 11.7.14.1. 状態誘発は、その状態が発生していて自身が待機状態でない場合に一度だけ待機状態になります。この自動能力が解決された後、再びその自動能力の誘発条件が満たされた場合、その能力は再度待機状態になります。
- 11.7.15. 待機状態の自動能力のプレイ時に、その自動能力を有していたカードの領域が変わっていたり、その自動能力が無効または存在しなくなったりしている場合でも、その自動能力はプレイしなければいけません。
- 11.8. 継続効果の処理
- 11.8.1. なんらかの継続効果やルールによる情報の修正が存在する状態でカードの情報が求められる場合、以下の順でその情報に対する継続効果を適用します。
- 11.8.1.1. カード自身に表記されている情報が、常に基準の値となります。
- 11.8.1.2. 次に、効果によらない、ブースト(10.4.1.11.1)とガーディアン(6.2.4.1)を除く、ルールによる情報の修正をすべて適用します。
- 11.8.1.3. 次に、能力を得るまたは失うものをすべて適用します。
- 11.8.1.4. 次に、情報の数値を変更するものでないものをすべて適用します。
- 11.8.1.5. 次に、情報の数値を特定の値だけ増減するものをすべて適用します。
- 11.8.1.6. ブースト(10.4.1.11.1)とガーディアン(6.2.4.1)によるパワーの修正を行います。

11.8.1.7. 次に、情報の数値を常に特定の値にするものをすべて適用します。

11.8.2. 以上で適用順の前後が決定されない複数の継続効果があり、そのいずれかが何らかの情報を‘常に(情報)にする’効果を持つ場合、それはもう一方よりも後に適用されます。

11.8.3. この時点でも適用順が決定されない継続効果 A と継続効果 B が存在している状態で、効果 A を先に適用するか否かによって効果 B が何に対して適用されるか、またどのように適用されるかが変わる場合、効果 B は効果 A に依存しているものとします。いずれかの効果に依存していて、その逆は依存していない場合、依存している効果は依存されている効果よりも常に後に処理されます。

11.8.3.1. 以上の 11.8.1.1-11.8.1.5 で適用順の前後が決定されない複数の継続効果が存在する場合、それらの継続効果は、効果が発生した順に従って順番に適用します。

11.8.3.1.1. 継続効果の発生源が永続能力である場合は、その能力を持つカードが現在の領域に置かれた時点を順番の基準とします。ただし、フィールドに置かれているユニットの永続能力の継続効果は、そのユニットがフィールド以外の領域からフィールドに置かれた時点を順番の基準とします。

11.8.3.1.1.1. それ以外の能力の場合は、その継続効果が発生した時点を順番の基準とします。

11.8.3.1.1.2. なんらかの理由で複数の継続効果が同時に発生する場合、それらのマスターが異なる場合はターンプレイヤーの効果が先に発生したものと見なし、それらのマスターが同一の場合はそのマスターがそれらの発生した順番を発生時点で決定します。

11.8.4. 永続能力以外で発生しているカードの情報を変更する継続効果は、その継続効果が発生した時点でどのカードやファイターに対して適用されるかが決定され、それ以降は変更されません。同様に、その継続効果が特定の何かの数や値を参照する場合、その数や値は解決時点で決定され、それ以降は変化しません。

例: 起動能力により‘このターン、あなたの前列のリアガードすべてのパワーに+5000。’という継続効果が発生した場合、その能力の解決時点で前列にいたリアガードのパワーが修正されます。そのターン中にそのリアガードが後列に移動しても修正は適用され、この能力の解決後に前列に登場したリアガードには適用されません。

例: 自動能力により‘このターン、あなたのヴァンガードのパワーは、あなたのリアガード 1 体につき+1000。’という継続効果が発生した場合、そのリアガードの数は効果の解決時に決定し、それ以降にリアガードの数が変わっても変化しません。

11.8.4.1. 特定の情報を‘(数値情報)まで増減する’効果は、その解決の時点での現在の情報との差分により増減値が決定され、それ以降は変化しません。

例: ユニット A のパワーが 10000 で、相手のヴァンガードのパワーが 15000 である状況で、‘このユニットのパワーを、相手のヴァンガード 1 枚のパワーと同じにする

まで増減する’という処理が解決された場合、差分であるパワーを+5000 する継続効果が作成されます。この値はその降下の期限内、変更されません。

11.8.4.1.1. 特定の情報が‘2 倍になる’効果は、その解決時点でのその情報の値を増加分とする効果として処理します。

11.8.5. 永続能力以外で発生している 11.8.4 以外の継続効果は、ゲームのルールを変更する継続効果です。それらの継続効果は、その能力がプレイされた時点よりも後にフィールドからフィールドへの移動以外の領域移動を行ったカードに対しても適用されます。

11.8.6. 特定の領域におけるカードの情報を変更する継続効果は、該当するカードがその領域に入ると同時にその情報に適用されます。

11.8.7. 特定の情報を持つカードが領域に入ることを条件とする自動能力は、その領域に適用されている継続効果を適用した後の情報を参照します。

11.8.8. 自動能力により既に発生した継続効果を‘無効にする’効果が存在します。‘無効にする’効果により、無効にされた継続効果の期間がその時点で終了します。

11.8.8.1. 継続効果を‘無効にする’効果が実行された場合、その無効にされた継続効果すべてが終了します。無効にされた効果の一部が終了することはありません。

11.9. 置換効果の処理

11.9.1. 置換効果が発生している場合、その置換効果の適用対象である事象が発生する場合、それを発生させず、置換効果で示された別の事象に置き換えます。

11.9.1.1. これにより、置換された元の事象はまったく発生しなかったことになります。

11.9.2. 同一の事象に対し複数の置換効果が発生している場合、どの置換効果を先に適用するかは、それにより影響を受けるプレイヤーが決定します。

11.9.2.1. 影響を受ける事象がカードや能力である場合、そのマスターが決定します。

11.9.2.2. 影響を受ける事象がゲーム中の行動である場合、その行動を実行するプレイヤー、またはその行動が適用されるカードのマスターが決定します。

11.9.2.3. 同一の事象に対しては、各置換効果は最大 1 回しか適用できません。

11.9.3. 置換効果が選択型置換効果(‘～する時、かわりに～してよい。そうしたら、～する’)である場合、その選択を実行できないのであれば、この置換効果は適用できません。

11.10. 最終情報

11.10.1. ある効果が特定のカードの情報や配置状態やそのカードが存在しているサークルやそのカードに関連付けられているものに関する情報や値を参照している場合、その効果の実行時にそのカードがその領域から、サークルからサークル以外の移動を行っていた場合、その効果は、そのカードが最後にその領域にあったときの状況を参照します。

第12章 効果の処理に関する用語

12.1. 基本

- 12.1.1. 能力のプレイや効果の処理における一部用語には、その用語に付随する特別なルールが存在することがあります。

12.2. 使えない

- 12.2.1. ある能力が‘使えない’状態にある場合、以下の制限や処理が行われます。
 - 12.2.1.1. 起動能力が‘使えない’状態にある場合、該当する起動能力をプレイできません。
 - 12.2.1.2. 自動能力が‘使えない’状態にある場合、以下の処理が適用されます。
 - 12.2.1.2.1. 該当する自動能力は、条件を満たしても、誘発しません。
 - 12.2.1.2.2. すでに誘発し、待機状態にある自動能力が‘使えない’状態になった場合、該当する待機状態の自動能力は取り消されます。

12.3. 制限アイコン

- 12.3.1. 制限アイコンは能力の使える回数など能力使用に関する制限を指定するためのアイコンです。
 - 12.3.1.1.  は使用制限アイコンです。
 - 12.3.1.1.1. このアイコンが、各能力の先頭にある  や  の直後、または【(領域)】の直後にあり、その効果の解決後にゲームの状態が変化していた場合、‘そのターン中、この能力は使えなくなる。’を実行します。
 - 12.3.1.1.2. このアイコンがある自動能力が待機状態である場合、その能力のマスターは自動能力のプレイ時にこの自動能力を選び、それをプレイせずに待機状態を1回減らすことができます。

12.4. ランダム

- 12.4.1. ランダムとは、複数の事項に対して無作為かつ、各出現確率が均等である状態を意味します。
- 12.4.2. ‘ランダムに選ぶ’と指示がある場合、該当する一連のカードや能力の中から、無作為に指定数を選びます。

12.5. 影響を受けない

- 12.5.1. あるカードに特定の条件の‘影響を受けない’効果が適用されている場合、その条件の効果を適用する際、そのカードに対してその条件の効果は適用されません。その条件の効果によりそのカードは選ばれず、そのカードの情報の修正は行われず、その条件の効果がそのカードの領域や状態を変更しようとする場合、それは実行されません。また、その条件の能力や効果のコストとすることもできません。
- 12.5.2. あるユニットを発生源とする効果があり、そのユニットがいくつかの条件の影響を受けない場合、その効果もその条件の影響を受けません。

12.6. 同名/別名のカード

- 12.6.1. 同名のカードとは、比較される複数のカードにおいて、それらが同一のカード名を持っていることを指します。同様に、別名のカードとは、比較される複数の

カードにおいて、それらが同一のカード名を持っていないことを指します。

- 12.6.2. カードは超越や‘同名のカードとしても扱う’等の効果により、複数のカード名を持つことがあります。

- 12.6.2.1. カード名 A であり、カード名 B と同名のカードとしても扱う場合、そのカードのカード名は A と B の 2 つを並列して持ちます。カード名 A に B が繋がるなど、カード名が変更される訳ではありません。

- 12.6.2.2. あるカードが複数のカード名を持つ場合、それを他のカードと比較する際、互いに共通するカード名を 1 つでも持つ場合、それらは同名のカードです。互いに共通するカードがまったく無い場合、それらは別名のカードです。

- 12.6.2.2.1. ‘それぞれ別名’とは、比較されるカードの中に他とカード名が一致するカードが 1 枚もないことを指します。

12.7. XにつきYする

- 12.7.1. XにつきYするとある場合、YをX回実行します。
- 12.7.2. Xの値は、Yの実行を開始する前に決定され、その後すべてのYが解決されるまで変動することがありません。
- 12.7.3. YをX回実行している間に、Yの中に何かを選ぶ指示がある場合、X回全ての指示が終わるまで、同一の物を選ぶことはできません。

第13章 ルール処理

13.1. ルール処理の基本

- 13.1.1. ルール処理とは、ゲームにおいて特定の事象が発生した、あるいは発生している場合に、ルールにより自動的に実行される処理の総称です。
- 13.1.2. ルール処理は、チェックタイミングにおいてのみ条件を満たしているかを確認し、満たされている場合に実行されます。他の行動の実行中に条件を満たしていても、チェックタイミングの段階でその条件が満たされていない場合、そのルール処理は行われません。
- 13.1.3. ルール処理が複数同時に実行を求められる場合、それらをすべて同時に実行します。

13.2. 敗北処理

- 13.2.1. いずれかのファイターがゲーム中に特定の条件を 1 つ以上満たしている場合、そのファイターは 1 回ゲームに敗北します。
- 13.2.2. いずれかのファイターのダメージゾーンに 6 枚以上のカードがある場合、そのファイターはゲームの敗北条件を満たしています。
- 13.2.3. いずれかのファイターの山札にカードが 1 枚も存在しない場合、そのファイターはゲームの敗北条件を満たしています。
- 13.2.4. いずれかのファイターのヴァンガードサークルにヴァンガードが 1 枚も存在せず、そのファイターのソウルにもカードが 1 枚も存在しない場合、そのファイターは敗北条件を満たしています。

13.3. ユニットの重複処理

13.3.1. いずれかの  に関連付けられているレギオンリーダーがいなくなったレギオンメイトがいる場合、そのユニットをソウルに置きます。

13.3.2. なんらかの理由で、 に双闘しているユニットと双闘していないハーツ状態でないユニットが置かれている場合、最も後で置かれたもの 1 枚選び、選んだものを除きそのサークルのすべてのユニットをソウルに置きます。

13.3.2.1. なんらかの理由で、 に最も後で置かれた双闘しているのではないハーツ状態でないユニットが複数ある場合、そのサークルにあるユニットの中から 1 枚を選択し、それを除くすべてをソウルに置きます。

13.3.3. 13.3.1-13.3.2 の処理が行われていない状況で、いずれかの  に双闘しているのではないハーツ状態でない複数のユニットが置かれている場合、最も後で置かれたものを除くそのサークルのすべてのユニットをソウルに置きます。

13.3.4. いずれかの  に複数のレギオンメイトが置かれている場合、最も後で置かれたものを除くそのサークルのすべてのレギオンメイトをソウルに置きます。

13.3.4.1. なんらかの理由で、 に最も後で置かれたレギオンメイトが複数ある場合、そのサークルにあるレギオンメイトの中から 1 枚を選択し、それを除くすべてをソウルに置きます。

13.3.5. いずれかの  に合計で 2 枚以上のカードが置かれている場合、最も後で置かれたものを除くそのサークルのすべてのカードをドロップゾーンに置きます。

13.3.5.1. 最も後で置かれたカードが複数ある場合、そのうちの任意の 1 枚を選択し、それ以外のすべてのカードをドロップゾーンに置きます。

13.4. 不正ガーディアン処理

13.4.1. なんらかの理由で  に、アタックされているユニットがいらない状態でユニットが置かれている、またはアタックしているユニットとマスターが同一であるユニットが置かれている場合、そのユニットをオーナーのドロップゾーンに置きます。

13.5. ヴァンガードがいなくなった時の処理

13.5.1. なんらかの理由で、ヴァンガードサークルにヴァンガードが 1 枚も置かれていない状態となった場合、そのファイターは自身のソウルに置かれているカードの中から 1 枚を選択し、それにライドします。

13.5.1.1. ヴァンガードが 1 枚も置かれておらず、ソウルにライド可能なカードが 1 枚もないファイターは、ルール処理により敗北します。

13.5.1.2. ハーツ状態のカードがある場合には、それをハーツ状態でなくし、その中から 1 枚をヴァンガードとします。

13.6. ダメージ適用処理

13.6.1. いずれかのヴァンガードのヴァンガードダメージが 1 以上で、いずれのトリガーゾーンにもカードが存在せず、現在他に処理すべきルール処理がない場

合、そのヴァンガードに対するダメージ適用処理を実行します。

13.6.1.1. 複数のヴァンガードのヴァンガードダメージが 1 以上である場合、ターンファイターのヴァンガードに対するダメージ適用処理のみを実行します。

13.6.2. そのヴァンガードのヴァンガードダメージを 1 減らします。

13.6.3. そのヴァンガードのマスターは、自身の山札の一番上のカードを、表向きに自身のトリガーゾーン (4.13) に移動します。

13.6.4. そのヴァンガードのマスターの、ヴァンガードサークルかリアガードサークルに、これによりトリガーゾーンに置かれたカードと同じクランのユニットがいるならば、そのトリガーゾーンに置かれたカードのトリガーアイコンの示す行動 (2.8.2) を実行します。これを「ダメージチェック」と言います。

13.7. ダメージ解決処理

13.7.1. ダメージ適用処理によりトリガーゾーンに置かれたカードがそのトリガーゾーンに存在し、現在他に処理すべきルール処理がなく、現在待機中の自動能力も存在しない場合、ダメージ解決処理を実行します。

13.7.2. そのトリガーゾーンのカードを、そのトリガーゾーンのマスターのダメージゾーンに置きます。

13.8. 疑似カードの消去処理

13.8.1. ある疑似カード (15.1.2.4) が、何らかの理由で自身の消去領域 (15.2.4.2) にある場合、その疑似カードを消去します (15.2.3)。

13.9. 不正ゲージ処理

13.9.1. ゲージゾーンにカード A があり、それがいずれかのカード B に関連付けられていて (7.41.1)、そのカード B が存在しないかカード B がユニットでかつ呪縛状態である状態で、不正ゲージ処理やダメージ処理以外の処理すべきルール処理がなく、待機中の自動能力 (11.7.8) もない場合、カード A をオーナーのドロップゾーンに置きます。

13.9.2. ゲージゾーンにあるカードが複数のカードに関連付けられている場合、そのうち最後に関連付けられたカードを 1 体選び、それ以外のユニットとの関連付けを取り消します。

13.10. 不正トリガー処理

13.10.1. ドライブチェック (10.6.1.3) やダメージチェック (13.6.3) の処理中を除き、トリガーゾーンにカードが残っている場合、そのカードをオーナーのドロップゾーンに置きます。

13.11. 不正星域ユニット処理

13.11.1. サークルの属性が星域であるサークルに種族が〈星神〉でないユニットがいる場合、そのユニットはルール処理で退却します。

13.11.2. サークルの属性が聖域であるサークルに呪縛カードがある場合、その呪縛カードはルール処理でドロップゾーンに置かれます。

- 13.12. 不正オーダー処理
- 13.12.1. プレイ中または解決中でないオーダーカードがオーダー領域にある場合、そのオーダーカードはルール処理でドロップゾーンに置かれます。
- 13.12.2. オーダー領域にオーダーでないカードがある場合、そのカードはルール処理でドロップゾーンに置かれます。
- 13.12.3. 表向きのオーダーカードがいずれかのサークルにある場合、そのカードはルール処理でドロップゾーンに置かれます。

第14章 キーワードとキーワード能力

14.1. 概要

- 14.1.1. キーワードとは、特定の処理を行う能力を簡略表記する際に使用する語を指します。特定のキーワードで示される能力をキーワード能力と呼びます。
- 14.1.2. 特定のキーワード能力を有効にする/有効になるとある場合、その有効になるべき能力が複数のキーワード能力を持っている場合、該当するキーワード能力部分のみが有効になります。

14.2. ドライブ能力

- 14.2.1. スキルアイコンで示されるユニットのドライブを増加する永続能力の総称です。
- 14.2.2. ユニットがドライブ能力を複数持つ場合、所有するドライブ能力の中で最も修正値が大きいドライブ能力だけが有効になります。最も修正値が大きいドライブ能力が複数ある場合、その中で最後に得たドライブ能力だけが有効になります。
- 14.2.3. ツインドライブ!! (🔗)
- 14.2.3.1. ツインドライブ!!はドライブ能力です。ツインドライブ!!はこの能力を持つユニットのドライブを+1 修正する能力です。
- 14.2.4. トリプルドライブ!!! (🔗)
- 14.2.4.1. トリプルドライブ!!!はドライブ能力です。トリプルドライブ!!!はこの能力を持つユニットのドライブを+2 修正する能力です。

14.3. インターセプト(🛡️)

- 14.3.1. インターセプトは、この能力を持つユニットがインターセプトを行うことができることを示す永続能力です。
- 14.3.2. インターセプトを持つユニットがあなたの前列のリアガードサークルにいる場合、相手のバトルフェイズのガードステップに、自身がアタックされておらず、他のあなたのユニットがアタックされているなら、あなたはインターセプトを持つユニットをリアガードサークルからガーディアンサークルに移動できます。インターセプトは、それを持つユニットがレストしていても有効です。

14.4. ブースト(👤)

- 14.4.1. ブーストは、この能力を持つユニットがブーストを行うことができることを示す永続能力です。
- 14.4.2. あなたのユニットがバトルフェイズでアタックする場合、あなたはそのユニットと同じ縦列の後列にいる、ブーストを持ち、スタンド状態のユニット 1 枚選択し、アタックしているユニットをブーストすることができます。

す。ブーストしたユニットはレストされ、ブーストされたユニットのパワーは、そのバトル中、ブーストしているユニットのパワーに等しい値だけ増加します。

14.5. 拘束

- 14.5.1. 拘束は永続能力です。
- 14.5.2. 拘束を持つユニットはアタックステップでアタックするユニットに選ぶことができません。

14.6. リミットブレイク

- 14.6.1. リミットブレイクは、各能力の先頭にある、、、の直後、制限アイコンの直後、または、【(領域)】の直後に、リミットブレイクアイコンを含む能力の総称です。リミットブレイクアイコンはカード上では、、などの形で表されています。ダメージゾーンのカードの数を参照し、指定された枚数以上になると、リミットブレイクで示される能力が有効になります。
- 14.6.2. 14.6.1 で定義されるリミットブレイクアイコンを含む能力を持つユニットは、を持つ'または' を持つ'とされます。
- 14.6.3. リミットブレイクは能力の種類によって、以下の3つに分類されます。
- 14.6.3.1. 表記が  リミットブレイクアイコン(数字):' である場合、 あなたのダメージゾーンが(数字)枚以上なら、~。'を表します。
- 14.6.3.1.1. 永続能力のリミットブレイクは、常にダメージゾーンのカードの枚数をチェックします。
- 14.6.3.2. 表記が  リミットブレイクアイコン(数字):' である場合、 ~。この能力はあなたのダメージゾーンが(数字)枚以上なら、発動する。'を表します。
- 14.6.3.2.1. 誘発条件が満たされる時にダメージゾーンのカードの枚数が規定値になっていない場合には、誘発しません。一度誘発したならば、解決までにダメージの枚数が変わったとしても、自動能力はそのまま解決されます。
- 14.6.3.3. 表記が  リミットブレイクアイコン(数字):' である場合、 ~。あなたのダメージゾーンが(数字)枚以上なら、発動できる。'を表します。
- 14.6.3.3.1. プレイ時にダメージゾーンのカードの枚数をチェックします。解決までにダメージの枚数が変わったとしても、起動能力はそのまま解決されます。

14.7. 先駆

- 14.7.1. 先駆は自動能力です。
- 14.7.2. '先駆'は'このユニットが自身と同じクランのユニットにライドされた時、このカードをリアガードサークルにコールしてよい。'を意味します。

14.8. 盟主

- 14.8.1. 盟主は永続能力です。
- 14.8.2. 盟主を持つユニットとマスターが同じである共通するクランがないユニットがフィールドに存在している場合、盟主を持つユニットはアタックステップでアタックするユニットに選ぶことができません。

14.9. 守護者(センチネル)

- 14.9.1. 守護者は永続能力です。
- 14.9.2. 守護者を持つカードは、デッキ内のあらゆるカード名のカードを合計して 4 枚以下である必要があります。
- 14.9.3. 守護者を持つカードは「守護者」と参照されます。

14.10. シークメイト

- 14.10.1. シークメイトは各能力の「:」の直後にシークメイトアイコンを含む起動能力の総称です。シークメイトアイコンはカード上では、、などのように「双闘」の文字と数字の組み合わせの形で表され、その直後に[カードの情報]が単数、もしくは複数記載されています。シークメイトアイコンは種類がありますが、本総合ルール内ではすべて  で表記しています。

14.10.1.1. シークメイトアイコンの直後に書かれている[カードの情報]は、そのシークメイトアイコンを持つユニットと双闘できるカードのカード名、および、そのシークメイトで探せるカードを限定しています。

- 14.10.2. [カードの情報]は、「このユニットが双闘状態になったことがなく、相手のグレード 3 以上のヴァンガードがいるなら、『起【心】: [あなたのドロップゾーンから 4 枚選び、山札の上に好きな順番で置く]あなたの山札から[カードの情報]に合致するカードを 1 枚まで探し、このユニットをレギオンリーダー、その探したカードをレギオンメイトとして双闘し、あなたの山札をシャッフルする。そのゲーム中、この能力は使えなくなる。』」を意味します。

14.10.2.1. シークメイトアイコンの直後に「[カードの情報]が[カードの情報]」のように、[カードの情報]が「か」を用いて複数記載されている場合があります。記載されている[カードの情報]のうち、一つ以上合致するカード 1 枚とのみ、双闘でき、シークメイトで探す事ができます。

例: 「プラスター・ブレード」か「プラスター・ブレード・探索者」とある場合、「プラスター・ブレード」もしくは「プラスター・ブレード・探索者」のいずれか 1 枚をシークメイトで探せ、双闘できます。

14.11. 超越スキル

- 14.11.1. 超越スキルは  が文頭にある永続能力の総称です。この能力は、そのカードのノーマル超越のタイミングとコストとを示すとともに、超越の挙動を簡易に説明しています。
- 14.11.2. 超越スキルはテキスト上では「 (お互いのヴァンガードがグレード 3 以上で解放！) - タイミング - [コスト]裏のこのカードを  に  する。」と書かれます。
- 14.11.3. ノーマル超越を実行可能な「タイミング」とその際に支払う「コスト」を示し、テキストと注釈文で超越を簡易的に説明しています。

14.11.3.1. 超越スキルに「タイミング」と「コスト」が示されていない場合、「タイミング」は「ストライドステップ」、「コスト」は「あなたの手札からグレードの合計が 3 以上になるように 1 枚以上選び、捨てる」です。

14.12. 究極超越スキル

- 14.12.1. 究極超越スキルは  が文頭にある能力の総称です。
- 14.12.2. 究極超越スキルの表記は、通常のカードとギーズカード(17.3)で異なります。
 - 14.12.2.1. 通常のカードの究極超越スキルは、テキスト上では「 (タイミング) - [(コスト)]裏のこのカードを  に  する。」と書かれます。
 - 14.12.2.2. ギーズカードの究極超越スキルは、テキスト上では「 (このカードの破壊の竜神 ギーズ面のカード名) - (タイミング) - [(コスト)]他の G ゾーンとサークルとソウルのカードすべてを除外し、このカードを裏返し、 に  する。」と書かれます。
 - 14.12.2.2.1. ギーズカードの究極超越スキルを解決する際は、テキストの表記に従い、まず G ゾーンとサークルとソウルのカードすべてを除外した後に、超越を実行します。

14.13. ジェネレーションブレイク

- 14.13.1. ジェネレーションブレイクは、各能力の先頭にある、、、 の直後、制限アイコンの直後、または、[(領域)]の直後に、ジェネレーションブレイクアイコンを含む能力の総称です。ジェネレーションブレイクアイコンはカード上では、、などの形で表されています。 と G ゾーンに表向きで置かれている G ユニットの数を参照し、指定された枚数以上になると、ジェネレーションブレイクで示される能力が有効になります。
- 14.13.2. 14.13.1 で定義されるジェネレーションブレイクアイコンを含む能力を持つユニットは「」を持つ'または「」を持つ」とされます。
- 14.13.3. ジェネレーションブレイクは能力の種類によって、以下の 3 つに分類されます。
 - 14.13.3.1. 表記が「 ジェネレーションブレイクアイコン(数字):」である場合、「 あなたの  と G ゾーンの表の G ユニットの枚数が(数字)枚以上なら、～。」を表します。
 - 14.13.3.1.1. 永続能力のジェネレーションブレイクは、常に  と G ゾーンの表の G ユニットの枚数をチェックします。
 - 14.13.3.2. 表記が「 ジェネレーションブレイクアイコン(数字):」である場合、「 ～。この能力はあなたの  と G ゾーンの表の G ユニットの枚数が(数字)枚以上なら、発動する。」を表します。
 - 14.13.3.2.1. 誘発条件が満たされる時に  と G ゾーンの表の G ユニットの枚数が規定値になっていない場合には、誘発しません。一度誘発したならば、解決までに  と G ゾーンの表の G ユニットの枚数が変わったとしても、自動能力はそのまま解決されます。
 - 14.13.3.3. 表記が「 ジェネレーションブレイクアイコン(数字):」である場合、「 ～。あなたの  と G ゾーンの表の G ユニットの枚数が(数字)枚以上なら、発動できる。」を表します。

14.13.3.3.1. プレイ時に  と G ゾーン の表の G ユニットの枚数をチェックします。解決までに  と G ゾーン の表の G ユニットの枚数が変わったとしても、起動能力はそのまま解決されます。

14.14. 抵抗(レジスト)

14.14.1. 抵抗は能力です。抵抗を持つカードは、相手のカードの‘選ぶ’とある効果によって選ぶことはできません。

14.15. G ガーディアン

14.15.1. G ガーディアンは、この能力を持つカードを一定の条件下でガーディアンサークルにコールすることを可能にする永続能力です。この能力は‘ ガーディアン-相手ターンのガードステップ-[(コスト)]裏のこのカードを  にコールする。’と表記されます。

14.15.2. 非ターンファイターは、ガードステップ中、10.5.1.2.3 で示される条件を満たしている場合、G ゾーンにある裏向きの  を持つカードを、[(コスト)]で示されるその能力のコストを支払ってガーディアンサークルにコールすることができます。

14.16. 勇敢(ブレイブ)

14.16.1. 勇敢は能力です。勇敢を持つ能力はそのマスターの手札のカードの数を参照し、3 枚以下になると勇敢で示される能力の種類に応じた処理を行います。勇敢は能力の種類によって、以下の 3 つに分類されます。

14.16.2. 表記が‘ 勇敢:’である場合、‘ あなたの手札が 3 枚以下なら、～。’を表します。

14.16.2.1. 永続能力の勇敢は、常に手札の枚数をチェックします。

14.16.3. 表記が‘ 勇敢:’である場合、‘ ～。この能力はあなたの手札が 3 枚以下なら、発動する。’を表します。

14.16.3.1. 誘発条件が満たされる時に手札の枚数が規定値になっていない場合には、誘発しません。一度誘発したならば、解決までに手札の枚数が変わったとしても、自動能力はそのまま解決されます。

14.16.4. 表記が‘ 勇敢:’である場合、‘ ～。あなたの手札の枚数が 3 枚以下なら、発動できる。’を表します。

14.16.4.1. プレイ時に手札の枚数をチェックします。解決までに手札の枚数が変わったとしても、起動能力はそのまま解決されます。

14.17. 神託(しんたく)

14.17.1. 神託は能力です。神託を持つ能力はそのマスターの手札のカードの数を参照し、5 枚以上になると神託で示される能力の種類に応じた処理を行います。神託は能力の種類によって、以下の 3 つに分類されます。

14.17.2. 表記が‘ 神託:’である場合、‘ あなたの手札が 5 枚以上なら、～。’を表します。

14.17.2.1. 永続能力の神託は、常に手札の枚数をチェックします。

14.17.3. 表記が‘ 神託:’である場合、‘ ～。この能力はあなたの手札が 5 枚以上なら、発動する。’を表します。

14.17.3.1. 誘発条件が満たされる時に手札の枚数が規定値になっていない場合には、誘発しません。一度誘発したならば、解決までに手札の枚数が変わったとしても、自動能力はそのまま解決されます。

14.17.4. 表記が‘ 神託:’である場合、‘ ～。あなたの手札の枚数が 5 枚以上なら、発動できる。’を表します。

14.17.4.1. プレイ時に手札の枚数をチェックします。解決までに手札の枚数が変わったとしても、起動能力はそのまま解決されます。

14.18. 救援(レスキュー)

14.18.1. 救援は、‘あなたのダメージを回復し、あなたのヴァンガードにダメージを与える’という効果を持つ一部の能力を示すキーワードです。

14.18.1.1. ‘救援(数値)’をキーワードとして持つ能力は、その効果の一部に‘あなたのダメージゾーンからカードを(数値)枚選び、それを回復し、あなたのヴァンガードを 1 枚選び、(数値)ダメージ’という効果を持ちます。

14.18.1.2. ‘救援(数値)’というキーワードを持つ能力は、‘救援’をキーワードとして持つものとみなします。

14.19. 儀式(リチュアル)

14.19.1. 儀式は能力です。儀式を持つ能力は、自分のドロップゾーンのグレード 1 のカードの枚数を参照し、儀式で示される能力の種類に応じた処理を行います。儀式は能力の種類によって、以下の 3 つに分類されます。

14.19.2. 表記が‘ 儀式(数値):～’である場合、‘ あなたのドロップゾーンにあるグレード 1 のカードの枚数が(数値)枚以上であるなら、～。’を表します。

14.19.3. 表記が‘ 儀式:～’である場合、‘ ～。あなたのドロップゾーンにあるグレード 1 のカードの枚数が(数値)枚以上であるなら、発動する。’を表します。

14.19.4. 儀式の自動能力がフィールドからあなたのドロップゾーンにカードが置かれることを誘発条件とする場合に、その儀式能力はドロップゾーンに置かれたカードの枚数も儀式の数値に加えます。

14.19.5. この能力の解決時にドロップゾーンのグレード 1 のカードの枚数が指定枚数に達していない状態になった場合でも、その能力は解決され実行されます。

14.19.6. 表記が‘ 儀式:～’である場合、‘ ～。あなたのドロップゾーンにあるグレード 1 のカードの枚数が(数値)枚以上であるなら、発動できる。’を表します。

14.19.7. この能力の解決時にドロップゾーンのグレード 1 のカードの枚数が指定枚数に達していない状態になった場合でも、その能力は解決され実行されます。

14.20. 結束(ユナイト)

14.20.1. 結束は能力です。この能力はこのターン中にこの能力を持つカードのマスターがリアガードサークルかガーディアンサークルにコールしたカードの枚数を参照し、その能力の種類によって、以下の3つに分類されます。

14.20.1.1. 表記が「永 結束:～」である場合、「永」このターン中、あなたがリアガードサークルかガーディアンサークルにカードを合計2枚以上コールしているなら、～'を表します。

14.20.1.1.1. 永続能力の結束は、常にコールされたカードの枚数をチェックします。

14.20.1.2. 表記が「自 結束:～」である場合、「自」～。この能力は、このターン中、あなたがリアガードサークルかガーディアンサークルにカードを2枚以上コールしているなら、発動する。'を表します。

14.20.1.3. 表記が「起 結束:～」である場合、「起」～。このターン中、あなたがリアガードサークルかガーディアンサークルにカードを2枚以上コールしているなら、発動できる。'を表します。

14.21. 天啓(てんけい)

14.21.1. 天啓は、ユニットが登場した時に誘発する自動能力です。

14.21.2. '天啓-(サークル)'は'このユニットが(サークル)に登場した時、山札の一番上のカードを見る。そのカードをあなたのソウルに置いてよい。置いた場合、あなたのスタンド状態のリアガードを1枚選び、レストする。'を意味します。

14.21.2.1. 何らかの理由で、天啓の解決時点ですべてのリアガードがレスト状態である場合、天啓能力のリアガードをレストする部分の処理は単に行われません。

14.21.3. 天啓能力の解決中に、その処理によって山札の一番上からソウルに置かれたカードは'天啓の効果で置かれた'カードです。

14.22. 竜炎(ブレイズ)

14.22.1. 竜炎は'あなたの各アタックステップの開始時に、あなたがマスターであるリアガードの数が相手がマスターであるリアガードの数より多い場合、そのターン中、あなたのヴァンガードを竜炎状態にする'という自動能力です。

14.22.1.1. あなたのヴァンガードが双闘状態である場合に竜炎能力が解決された場合、あなたのレギオンリーダーとレギオンメイトの両方が竜炎状態になります。

14.23. 残影(ザンエイ)

14.23.1. 残影は'バインドゾーンのカードが相手の手札に加えられた時、あなたの手札が6枚以下なら、このユニットを手札に戻してよい。'という自動能力です。

14.24. 支配(しはい)

14.24.1. 支配は能力語です。カードテキスト上で参照される場合があります。

14.25. 暴喰(ぼうしょく)

14.25.1. 暴喰は'このユニットがアタックした時、他のあなたのリアガードを1枚以上選び、退却させてよい。'

1枚以上退却させたら、そのターン中、このユニットは暴喰状態になる。'という自動能力です。

14.25.2. 暴喰による退却は効果です。コストの支払いを変更する能力等は、暴喰による退却に影響を与えません。

14.26. 影縫(カゲヌイ)

14.26.1. 影縫は'ヴァンガードへのアタックがヒットしなかった'事象に関する誘発条件を持つおよび解決の条件を持つ一連の能力を示すキーワードです。

14.27. 雷激(らいげき)

14.27.1. 雷激は、能力です。雷激は'雷激(数字)'の形で示されます。雷激を持つ能力はその対戦相手のバインドゾーンに置かれているカードの数を参照し、指定された枚数以上になると雷激で示される能力の種類に応じた処理を行います。雷激は能力の種類によって、以下の3つに分類されます。

14.27.1.1. 表記が「永 雷激:」である場合、「永」相手のバインドゾーンのカードが(数字)枚以上なら、～'を表します。

14.27.1.1.1. 永続能力の雷激は、常にバインドゾーンの枚数をチェックします。

14.27.1.2. 表記が「自 雷激:」である場合、「自」～。この能力は相手のバインドゾーンのカードが(数字)枚以上なら、発動する。'を表します。

14.27.1.2.1. 誘発条件が満たされる時にバインドゾーンの枚数が規定値になっていない場合には、誘発しません。一度誘発したならば、解決までにバインドゾーンの枚数が変わったとしても、自動能力はそのまま解決されます。

14.27.1.3. 表記が「起 雷激:」である場合、「起」～。相手のバインドゾーンのカードが(数字)枚以上なら、発動できる。'を表します。

14.27.2. プレイ時にバインドゾーンの枚数をチェックします。解決までにバインドゾーンの枚数が変わったとしても、起動能力はそのまま解決されます。

14.28. 闘魂(ラッシュ)

14.28.1. 闘魂は'あなたのカードの効果で、このユニットがスタンドした時'に誘発する自動能力です。

14.29. 超爆(バースト)

14.29.1. 超爆は、特定のユニットのパワーが一定以上あるかを参照する効果を持つ一部の能力を示すキーワードです。

14.30. 突撃(チャージ!!)

14.30.1. 突撃は'このユニットが効果で  に登場した時、そのターン中、このユニットを突撃状態にしてよい。'という自動能力です。

14.30.2. 突撃状態のユニットは、そのユニットが参加したバトルの終了時、山札の下に置かれます。

14.31. 深闇(ダークネス)

14.31.1. 深闇は能力です。深闇を持つ能力はこのターンにそのマスターのソウルにライド以外でカードが置かれていたかを参照し、置かれていた場合に深闇で示される能力の種類に応じた処理を行います。深闇

は能力の種類によって、以下の3つに分類されます。

14.31.2. 表記が「永 深間:～」である場合、「永 このターンにあなたのソウルにライド以外でカードが置かれていたなら、～」を表します。

14.31.3. 表記が「自 深間:～」である場合、「自 ～.この能力はこのターンにあなたのソウルにライド以外でカードが置かれていたなら、発動する。」を表します。

14.31.4. 表記が「起 深間:～」である場合、「起 ～.このターンにあなたのソウルにライド以外でカードが置かれていたなら、発動できる。」を表します。

14.31.5. 深間能力における「ライド以外でソウルにカードが置かれていた」とは、ソウルにカードが置かれたことのうち、「ライドによりそのサークルに置かれていたユニットがソウルに置かれた(6.3.3.5)」場合、および「ライド時にハーツカードが存在したために、そのハーツカードがソウルに置かれた(6.3.3.5.1)」場合を除いたものです。

14.32. 奇術(マジック)

14.32.1. 奇術は「ソウルからユニットをコールし、そのターンの終了時、この効果でコールされたユニットをソウルに置く」ことを含む一連の能力を示すキーワードです。

14.33. 時翔(タイムリープ)

14.33.1. 時翔はその能力の中で特定行動であるタイムリープすることを含む能力であることを示すキーワードです。タイムリープの挙動については、特定行動「タイムリープ」(7.33)を参照してください。

14.34. 亡霊(ホロウ)

14.34.1. 亡霊は「このユニットが  に登場した時、このユニットを亡霊状態にしてよい。」という自動能力です。

14.34.2. ターンの終了時に、亡霊状態のユニットがいる場合、それらをオーナーのドロップゾーンに移動します。この移動を行った場合、それは退却を行ったものとみなします。

14.35. ♪♪(ハーモニー)

14.35.1. ♪♪は「他のあなたのユニットが同じ縦列に登場した時、そのターン中、このユニットとその登場したユニットが同一のマスターでフィールドにいる限り、それらを関連付けられた♪♪状態にする」という自動能力です。

14.35.1.1. 上記 14.35.1 の解決前に関連付けられるべきユニットの片方がフィールドからいなくなってしまう場合、♪♪状態にはなりません。

14.35.1.2. 関連付けられた♪♪状態であるユニットの片方が他の縦列に移動した場合でも、それらのユニットは関連付けられた♪♪状態のユニットであり続けます。

14.35.1.2.1. ♪♪状態であるユニットAが他の縦列に移動し、その後その♪♪を持つユニットAと同じ縦列に別のユニットが登場した場合などにより、複数の関連付けが行なわれる事があります。その場合、♪♪を持つユニットAは関連ユニットすべてがフィール

ドから離れない限り♪♪状態は維持されます。

14.35.1.3. 「♪♪状態になった時」で示される待機状態の自動能力の解決前に関連付けられた♪♪状態になったユニットがいなくなっていた場合でも、その自動能力は解決されます。

14.35.1.3.1. すでに♪♪状態であるユニットがさらに別のユニットと関連付けられても、「♪♪状態になった時」で示される能力は誘発しません。

14.36. 連波(ウェーブ)

14.36.1. 連波は「各ターンの指定されたバトルでのみ有効になる」自動能力です。

14.36.2. 連波が有効になるバトルは「・N回目・n回のみ・n回目以降・n～m回目」のいずれかまたは組み合わせで指定されます。

14.37. 暗躍(あんやく)

14.37.1. 暗躍は能力です。暗躍を持つ能力は、その能力を持つカードと同じ縦列にいる相手のユニットの状態を参照し、暗躍で示される能力の種類に応じた処理を行います。暗躍は能力の種類によって、以下の3つに分類されます。

14.37.2. 表記が「永 暗躍:～」である場合、「永 このユニットと同じ縦列にスタンドしている相手のユニットがいなければ、～」を表します。

14.37.3. 表記が「自 暗躍:～」である場合、「自 ～.このユニットと同じ縦列にスタンドしている相手のユニットがいなければ、発動する。」を表します。

14.37.4. 表記が「起 暗躍:～」である場合、「起 ～.このユニットと同じ縦列にスタンドしている相手のユニットがいなければ、発動できる。」を表します。

14.38. 達成(サクセス)

14.38.1. 達成は、あなたのリアガードのパワーを参照して誘発する自動能力です。

14.38.2. 「達成(数値)」は「あなたのターン中、このユニットが達成状態でなく、あなたがマスターであるいずれかのリアガードのパワーが(数値)以上である時、この能力の解決時にそのリアガードのパワーが(数値)以上であるなら、そのターン中、このユニットは達成状態になる。」を表わします。

14.38.3. 達成は状態誘発(11.7.14)であり、そのルールに従います。

14.38.4. 達成が誘発し、その解決時にこの能力が誘発する理由となったリアガードのパワーが指定の数値を下回っている場合、そのユニットは達成状態になりません。

14.39. 開花(ブルーム)

14.39.1. 開花は「他のあなたの特定のユニットが指定した領域に登場した時」に誘発する自動能力です。

14.40. 真剣必殺(しんけんひっさつ)

14.40.1. 真剣必殺は能力です。この能力はダメージゾーンのカードの数を参照し、その能力の種類によって、以下の3つに分類されます。

14.40.1.1. 表記が「永 真剣必殺:」である場合、「永 あなたのダメージゾーンが3枚以上なら、～」を表します。

- 14.40.1.1.1. 永続能力の真剣必殺は、常にダメージゾーンのカードの枚数をチェックします。
- 14.40.1.2. 表記が「 真剣必殺:」である場合、「 ~。この能力はあなたのダメージゾーンが3枚以上なら、発動する。」を表します。
- 14.40.1.2.1. 誘発条件が満たされる時にダメージゾーンのカードの枚数が3枚になっていない場合には、誘発しません。一度誘発したならば、解決までにダメージの枚数が変わったとしても、自動能力はそのまま解決されます。
- 14.40.1.3. 表記が「 真剣必殺:」である場合、「 ~。あなたのダメージゾーンが3枚以上なら、発動できる。」を表します。
- 14.40.1.3.1. プレイ時にダメージゾーンのカードの枚数をチェックします。解決までにダメージの枚数が変わったとしても、起動能力はそのまま解決されます。
- 14.40.2. 真剣必殺能力を持つカードは「真剣必殺の能力を持つ」と参照されます。

14.41. 誉(ほまれ)

- 14.41.1. 誉は、誉を持つ能力全体において、そのコストを払う回数が制限されている能力です。各ターン、そのファイターがマスターであるいずれかの誉のコストを払った場合、同一ターンにはもうそのファイターは誉のコストを払うことはできません。
- 14.41.2. 誉能力を持つカードは「誉の能力を持つ」と参照されます。

14.42. 二刀開眼(にとうかいがん)

- 14.42.1. 二刀開眼は「このユニットが特定のユニットをブーストした時」と「このユニットが特定のユニットにブーストされた時」を誘発条件とする、一連の自動能力を持つキーワードです。
- 14.42.1.1. 二刀開眼能力を持つカードは「二刀開眼の能力を持つ」と参照されます。

14.43. 旋律(メロディ)

- 14.43.1. 旋律は、能力を共有する永続能力です。
- 14.43.1.1. 旋律能力は「 - (指定能力) これは  を持つあなたのユニットすべてが共有する。」と表記されます。
- 14.43.2. 1つ以上の旋律を持つユニットは、そのユニットとマスターが同一である(自身を含む)各ユニットの旋律能力で示された指定能力を得ます。

第15章 マーカーと疑似カード

15.1. マーカー

- 15.1.1. ゲーム中、いずれかの領域にマーカーと呼ばれる事物が置かれることがあります。
- 15.1.2. マーカーは「疑似カード」と「記録型」に分類されます。
- 15.1.2.1. マーカーは名称を持ちます。
- 15.1.2.1.1. 「(名称)マーカー」や「(名称)・マーカー」は、その名称を名称として持つマーカーを意味します。
- 15.1.2.1.2. マーカーはその名称により情報が規定されます。

- 15.1.2.2. テキストが単に「マーカー」を参照する場合、それはトークンでもチケットでもないすべての疑似カードマーカーと記録型マーカーを参照します。

- 15.1.2.3. マーカーのうち疑似カードに分類されるものは、巻末付録の「疑似カードマーカーの情報」に表記されます。

- 15.1.2.4. マーカーは、通常カードが持つ情報を持たない、あるいは通常カードが持たない特殊な情報を持つことがあります。

- 15.1.2.4.1. マーカーはルールや効果によりそれを持つことを明記されている情報以外の情報は持ちません。

例:疑似カード「プロテクト」は、カード名を持つことがルールや効果により明記されていないため、カード名を持ちません。

- 15.1.2.4.2. マーカーが持たない情報を参照する場合、それが本来数値である場合は0として扱い、それが本来数値でない場合は存在しないものとして扱います。

15.2. 疑似カード

- 15.2.1. ゲーム中、いずれかの領域にカードと同様の扱いをする「疑似カード」であるマーカーが作成されることがあります。

- 15.2.1.1. 疑似カードはマーカーですが、テキストが「マーカー」を参照する状況では、特にそのマーカーの名称を参照して指定する場合を除き、疑似カードを参照しません。

- 15.2.1.2. 疑似カードはカードではありませんが、カードと同様に扱い、それが存在する領域でのカードの枚数に数え、カードに適用される効果の適用を受けます。

- 15.2.1.2.1. 疑似カードはカードではないため、それが存在する領域にある他のカードと明確に区別できる必要があります。

- 15.2.1.2.1.1. 疑似カードが非公開領域(4.1.2)にある場合、その疑似カードは他の公開されていないカードと区別され、いずれのファイターもそれがどのような情報を持つ疑似カードであるかを知ることができます。

- 15.2.2. ある領域に疑似カードを「作成する」とは、その領域に指定の疑似カードが存在する状態にすることを意味します。

- 15.2.2.1. 作成された疑似カードのオーナーやマスターは、その疑似カードが作成された領域が属するファイターです。

- 15.2.2.2. 疑似カードをある領域に作成した場合、その疑似カードはその領域に置かれたものとみなされます。その領域がサークルである場合は、そのサークルに登場(7.17)したものとみなされます。

- 15.2.3. ある疑似カードを「消去する」とは、その疑似カードを現在ある領域から取り除き、そこに存在しない状態にすることを意味します。

- 15.2.3.1. 疑似カードがある領域で消去された場合、その領域を離れたものとみなされます。

- 15.2.3.2. 疑似カードが除外される場合、その疑似カードは自身が現在ある領域で消去されます。
- 15.2.4. 疑似カードは存在できる領域が制限されることがあります。
- 15.2.4.1. ある疑似カードの‘有効領域’とは、その疑似カードが存在できる領域です。
- 15.2.4.1.1. ある疑似カードが自身の有効領域である領域に移動する場合、その疑似カードは通常のカードと同様にその領域に移動します。
- 15.2.4.2. ある疑似カードの‘消去領域’とは、その疑似カードがその領域に移動した後、その領域でその疑似カードを消去することが強制される領域です。
- 15.2.4.2.1. ある疑似カードが自身の消去領域に移動する場合、その移動を行った直後に、その移動先の領域で消去されます。この処理はチェックタイミングを待たず、何らかの効果の途中で移動を行った場合は、その移動の続きを行うよりも前に実行されます。
例：‘疑似カード A を消去領域 X に移動し、その後カードを 1 枚引く’という効果を実行する場合、疑似カード A を X に移動した後、カードを引く前に、領域 X にあるその疑似カード A を消去します。
- 15.2.4.2.2. ある疑似カードが自身の消去領域に作成される場合、その作成は実行されません。
- 15.2.5. ゲーム中で疑似カードを使用する場合、両ファイターの合意の上で、両ファイターが明示的に理解でき、他の通常のカードとは区別できるカード状のものを使用してください。
- 15.3. 疑似カード‘プロテクト’
- 15.3.1. 疑似カード‘プロテクト’は、特殊タイプ‘プロテクト’を持ち、タイプを持ちません。
- 15.3.2. 疑似カード‘プロテクト’は、グレード‘プロテクト’を持ちます。
- 15.3.2.1. グレード‘プロテクト’は数値として増減しません。
- 15.3.3. 疑似カード‘プロテクト’は、‘守護者’と‘自己’
【】：登場時、[手札を 1 枚捨てる]ことで、そのバトル中、あなたのユニット 1 枚はヒットされない。’の能力を持ちます。
- 15.3.4. 疑似カード‘プロテクト’は、自身のマスターに属する、手札とガーディアン属性のサークルが有効領域で、それ以外の領域が消去領域です。
- 15.3.4.1. この疑似カードは、ガーディアンサークルにある間はユニットとして扱います。
- 15.3.5. 疑似カード‘プロテクト’はユニットではありませんが、ユニットであるかのようにガーディアンサークルにコールができます。
- 15.3.6. なんらかの理由で疑似カード‘プロテクト’をリアガードサークルやヴァンガードサークルに移動しようとする場合、その移動を行うのではなく、ドロップゾーンに置かれ、消去されます。
- 15.3.7. 手札を呪縛する効果により疑似カード‘プロテクト’を呪縛する場合、サークルに置いた上で、そのサークルから消去します。
- 15.3.8. カードの効果が‘手札のイマジナリーギフト・プロテクト’を参照する場合、手札の疑似カード‘プロテクト’を参照します。
- 15.3.9. その他の事項では、疑似カード‘プロテクト’は手札にある間は手札のカードのルールに従います。
- 15.4. 疑似カード‘トークン’
- 15.4.1. 疑似カード‘トークン’は、タイプ、グレード、パワー、クリティカル、カード名、種族、スキルアイコン、テキストの各情報を持ち、それ以外の情報を持ちません。
- 15.4.1.1. 疑似カード‘トークン’のメインタイプはユニット、サブタイプはトークンです。
- 15.4.1.2. 疑似カード‘トークン’のカード名と種族は、そのトークンをコールする際に指定されます（15.4.36.2.3.3）。
- 15.4.1.3. 疑似カード‘トークン’の持つその他の情報は、その疑似カードが作成された際のカード名により規定され、その疑似カードが作成される時点からその情報を持ちます。各疑似カード‘トークン’が持つ実際の情報は付録‘トークン情報’を参照してください。
- 15.4.2. 疑似カード‘トークン’は、フィールドが有効領域で、それ以外の領域が消去領域です。
- 15.4.2.1. ソウルはフィールドではないため、疑似カード‘トークン’がソウルに移動した場合、移動後に消去されます。
- 15.4.3. 能力や効果が‘[名称]・トークン’を参照する場合、それはカード名が[名称]であるトークンユニットを参照します。
- 15.4.3.1. ‘[名称]・トークンを[サークル]にコールする’という処理によるコールを行う場合、ユニットをサークルに置く時点（6.2.3.3）で、そのカード名により規定される疑似カード‘トークン’を[サークル]に作成します。
- 15.4.4. 疑似カード‘トークン’が呪縛される場合、そのユニットを呪縛した後、ただちにそのサークルから消去します。
- 15.4.5. その他の事項では、疑似カード‘トークン’はユニットのルールに従います。
- 15.5. 疑似カード‘チケッ’
- 15.5.1. 疑似カード‘チケッ’は、タイプ、グレード、カード名、テキストの各情報を持ち、それ以外の情報を持ちません。
- 15.5.1.1. 疑似カード‘チケッ’のメインタイプはオーダーで、特殊タイプ‘チケッ’を持ちます。
- 15.5.1.2. 疑似カード‘チケッ’のカード名は、そのチケッを作成する際に指定されます。
- 15.5.1.3. 疑似カード‘チケッ’の持つその他の情報は、その疑似カードが作成された際のカード名により規定され、その疑似カードが作成される時点からその情報を持ちます。各疑似カード‘チケッ’が持つ実際の情報は付録‘トークンとチケッの情報’を参照してください。
- 15.5.2. 疑似カード‘チケッ’は、手札とオーダー領域が有効領域で、それ以外の領域が消去領域です。

- 15.5.3. 能力や効果が「[名称]・チケット」を参照する場合、それはカード名が[名称]である疑似カード「チケット」を参照します。
- 15.5.4. その他の事項では、疑似カード「チケット」はオーダーカードのルールに従います。
- 15.6. 疑似カード「メアの贈り物」
- 15.6.1. なんらかの理由で疑似カード「メアの贈り物」をいずれかのサークルに移動しようとする場合、それはその移動を行うのではなくドロップゾーンに置かれ、消去されます。
- 15.6.2. その他の事項では、疑似カード「メアの贈り物」はマーカー(15.1)と疑似カード(15.2)のルールに従います。
- 15.7. 記録型マーカー
- 15.7.1. サークルに記録型マーカーと呼ばれる物体が置かれることがあります。
- 15.7.1.1. 巻末付録の「疑似カードマーカーの情報」に記載が無いマーカーは記録型マーカーです。
- 15.7.1.2. 記録型マーカーはカードや疑似カードではなく、カードやユニットに対する効果を適用されません。
- 15.8. 記録型マーカーのルール詳細
- 15.8.1. 記録型マーカーには存在位置があります。
- 15.8.1.1. サークルを指定して置かれる記録型マーカーは、任意のサークルを存在位置とします。
- 15.8.1.2. ユニートを指定して置かれる記録型マーカーは、そのユニットを存在位置とします。
- 15.8.1.3. 「(特定位置)にあるマーカー」や「(特定位置)に置かれているマーカー」は、その特定位置を存在位置として置かれている記録型マーカーを含みます。
- 15.8.1.3.1. ユニートを存在位置として置かれる記録型マーカーが存在する領域を参照する場合、それが置かれているユニットが現在あるサークルを参照します。
- 15.8.2. 記録型マーカーを置く指示がある場合、それをそのマーカーの存在位置として適正な場所に置きます。
- 15.8.2.1. その記録型マーカーの存在位置として適正な場所に置くことが不可能な場合、そのマーカーは置かれません。
- 15.8.3. 記録型マーカーは、ルールや効果により消去されたり他の領域に移動したりすることがあります。
- 15.8.3.1. 記録型マーカーが消去される場合、そのマーカーをサークルから取り除き、ゲームに存在しない状態にします。
- 15.8.3.2. サークルを存在位置とする記録型マーカーがサークル以外の領域に移動する場合、そのマーカーは消去されます。
- 15.8.3.3. ユニートを存在位置とする記録型マーカーは常時そのユニット上に置かれ、そのユニットが他のサークルに移動した場合もそのユニット上に置かれたままになります。
- 15.8.3.4. ユニートを存在位置とする記録型マーカーは、そのユニットがサークル以外の領域に移

動した場合や呪縛された場合、その直後に消去されます。

- 15.8.4. 記録型マーカーのオーナーやマスターを参照する場合、それはそのマーカーを作成した効果のオーナーやマスターを参照します。
- 15.8.5. 記録型マーカーにはその名称により、追加の情報を持ったり、特別なルールが定義されたりすることがあります。
- 15.8.5.1. ユニートを存在位置とする記録型マーカーが自身の能力により「このユニット」を参照する場合、それはそのマーカーが置かれているユニットを参照します。
- 15.8.5.2. ユニートを存在位置とする記録型マーカーの能力は、そのマーカーが存在する間有効です。

第16章 イマジナリーギフトと処理

- 16.1. 概要
- 16.1.1. ゲーム中に、プレイヤーに対しイマジナリーギフト処理を実行するよう指示される場合があります。その場合、この章で解説される手順に従ってその処理を実行します。
- 16.2. イマジナリーギフト
- 16.2.1. イマジナリーギフトには、クランタイプとギフト種別が存在します。
- 16.2.1.1. イマジナリーギフトのクランタイプとは、イマジナリーギフトのアイコンや効果により指定される種類で、「フォース」「アクセル」「プロテクト」のいずれか1つを持ちます。
- 16.2.1.2. イマジナリーギフトのギフト種別とは、各クランタイプに置けるイマジナリーギフト処理の内容で、1または2の数値を持ちます。
- 16.2.1.2.1. このルールやテキストの表記において、この数値がローマ数字(IまたはII)で表記されます。
- 16.2.1.3. イマジナリーギフトの解決時に、一部の処理を除き、名称が「ギフト」であるマーカーが作成されます。
- 16.2.1.3.1. 各ギフトマーカーは情報としてクランタイプとギフト種別とテキストを持ちます。
- 16.2.1.3.1.1. ギフトマーカーのテキストはルールによる修正として適用します(11.8.1.2)。これは能力による効果ではありません。
- 16.3. イマジナリーギフト処理
- 16.3.1. ライドまたは効果によりイマジナリーギフト処理を行う場合、以下を実行します。
- 16.3.1.1. このイマジナリーギフト処理がユニットのライドによるイマジナリーギフトアイコンを要因として実行される場合、この時点より前にそのユニットのマスターがライドによるイマジナリーギフト処理が行ったことがあり、かつその処理が今回行う処理とクランタイプが異なる場合、そのイマジナリーギフト処理は実行されません。
- 例:「イマジナリーギフト:フォース」を持つカードにライドしその処理を行った後に、「イマジナリーギフト:アクセル」を持つユニットにライドしても、「イマジナリーギフト:

アクセル'の処理は行われません。またその際、
'フォース'のギフトマーカーが失われることもありませ
ん。

- 16.3.1.2. **イマジナリーギフト処理において、名称が
'ギフト'である記録型マーカーが置かれること
があります。**

- 16.3.1.2.1. **ギフトマーカーは'ギフト種別'と'クラ
ンタイプ'の情報を持ちます。**

- 16.3.1.3. このイマジナリーギフト処理でギフト種別が
指定されている場合、そのギフト種別を選択し
たものとして扱います。

- 16.3.1.3.1. ギフト種別が指定されておらず、すで
にこのゲーム中にそのプレイヤーの当該ク
ランタイプのイマジナリーギフト処理におい
て単一のギフト種別が指定または選択され
ている場合、そのギフト種別を選択します。

- 16.3.1.3.2. ギフト種別が指定されておらず、この
ゲーム中にそのプレイヤーの当該クラン
タイプのイマジナリーギフト処理において単
一のギフト種別が指定または選択されてい
ない場合、そのクランタイプで採用するギ
フト種別を1つ選択します。

- 16.3.1.4. クランタイプが'フォース'である場合、以下
の処理を行います。

- 16.3.1.4.1. 自分のヴァンガードサークルまたはリ
アガードサークル1つを指定し、そこにク
ランタイプ'フォース'と選択したギフト種別
を持つギフトマーカーを置きます。

- 16.3.1.4.1.1. すでに他のクランタイプ'フォ
ース'のギフトマーカーが置かれている
サークルを指定することもできます。そ
の場合、効果は累積します。

- 16.3.1.4.2. ギフト種別がIである場合、これによ
り置くギフトマーカーは'あなたのターン中、
このサークルにいるユニットはパワー
+10000。'のテキストを持ちます。

- 16.3.1.4.3. ギフト種別がIIである場合、これによ
り置くギフトマーカーは'このサークルにい
るユニットの元々のクリティカルは2にな
る。'のテキストを持ちます。

- 16.3.1.5. クランタイプが'アクセル'である場合、以下
の処理を行います。

- 16.3.1.5.1. このイマジナリーギフト処理を行うプ
レイヤーに属する属性が'ステージ'であ
るサークルが無い場合、リアガード属性を
持つサークル(4.9)が1つ増えます。

- 16.3.1.5.1.1. そのサークルは前列であるもの
とみなされます。

- 16.3.1.5.1.2. そのサークルは最初の1つは
前列もっとも左のサークルの左側に隣
接させる形で増えます。2つ目は前列
もっとも右のサークルの右側に隣接さ
せる形で増えます。それ以降、同様に左、
右の順に増えていきます。

- 16.3.1.5.1.2.1 両方のファイターが'イマジ
ナリーギフト:アクセル'によりサー
クルを増やす場合、一方のファイター
の1つ目の追加サークルともう一方

のファイターの2つ目の追加サー
クルは同じ縦列にあり、3つ目と4つ
目、5つ目と6つ目、以降同様の
サークルも同じ縦列にあります。



- 16.3.1.5.2. このイマジナリーギフト処理を行うプ
レイヤーに属する属性が'ステージ'である
サークルがある場合はそのサークルに、無
い場合はその増えたサークルに、クラン
タイプ'アクセル'と選択したギフト種別を持
つギフトマーカーを置きます。

- 16.3.1.5.2.1. なんらかの理由でクランタイプ
'アクセル'を持つマーカーがサークル
から他の領域に移動し、そのサークル
にクランタイプ'アクセル'のマーカーが
存在しない状態になった場合、その直
後にルール処理を待たずに、そこに置
かれているユニットは退却し、そのサー
クルに置かれていたクランタイプ'アクセ
ル'でないギフトマーカーは消去され、そ
の後そのサークルは消滅します。

- 16.3.1.5.3. ギフト種別がIである場合、これによ
り置くギフトマーカーは'あなたのターン中、
このサークルにいるユニットはパワー
+10000。'のテキストを持ちます。

- 16.3.1.5.4. ギフト種別がIIである場合、サークル
を作製した直後にそのイマジナリーギ
フト処理を行うファイターはカードを1枚引きま
す。これにより置くギフトマーカーは'あなた
のターン中、このサークルにいるユニットは
パワー+5000。'のテキストを持ちます。

- 16.3.1.6. クランタイプが'プロテクト'である場合、以
下の処理を行います。

- 16.3.1.6.1. ギフト種別がIである場合、このイ
マジナリーギフト処理を行ったカードまたは能
力のマスターの手札に疑似カード'プロテク
ト'(15.3)を作成します。

- 16.3.1.6.2. ギフト種別がIIである場合、自分のリ
アガードサークル1つを指定し、そこにク
ランタイプ'プロテクト'とギフト種別IIと'この
サークルにいるユニットはパワー+5000さ
れ、『【目】:このユニットがインターセプトし
た時、このユニットのシールド+10000。』を
持つ'のテキストを持つギフトマーカーを置
きます。

- 16.3.2. 効果によるイマジナリーギフトにおいて複数のイマジナリーギフト処理を行う場合、その効果の表記順に従って 16.3.116.3.1 の処理を実行します。

第17章 その他

17.1. 永久循環

- 17.1.1. なんらかの処理を行う際に、ある行動を永久に実行し続けることができる、あるいは永久に実行せざるを得なくなることがあります。これを永久循環と呼び、永久循環の開始時点から元に戻るまでの一連の行動を循環行動と呼びます。この場合は、以下に従います。
- 17.1.1.1. その行動の中で、どちらのファイターにもその永久循環を止める方法がない場合、ゲームは引き分けで終了します。
- 17.1.1.2. その行動の中に、一方のファイターにのみ永久循環を停止する選択肢が与えられている場合、この循環行動を何回繰り返すかを決定し、その回数だけ循環行動を実行し、そのファイターがその循環行動を止めることのできるいずれかの選択を行った状態で循環行動を止めます。その後、この永久循環が開始された状態とまったく同一の状態(すべての領域のカードが同一)である状況下では、自動能力などにより強制される場合を除き、この循環行動を再び選択することはできません。
- 17.1.1.3. その行動の中に、両方のファイターに永久循環を停止する選択肢が与えられている場合、まずターンファイターがこの循環行動を何回繰り返すかを決定し、その後ターンファイターの対戦相手がこの循環行動を何回繰り返すかを決定します。その後、両者の回数のうち、より小さい方の回数だけ循環行動を実行し、そのファイターがその循環行動を止めることのできるいずれかの選択を行った状態で循環行動を止めます。その後、この永久循環が開始された状態とまったく同一の状態(すべての領域のカードが同一)である状況下では、自動能力などにより強制される場合を除き、より大きい方の回数を選んだファイターはこの循環行動を再び選択することはできません。
- 17.1.1.4. 循環行動及び、それによって発生する処理は、一つ一つの行動を行うのではなく、すべてを行ったことによる処理を一度に適用し、各々の手順を省略します。ただし、手順の省略を行った場合でも省略された行動は行われているものとして扱います。
- 例: ‘パワー+1000’という効果を繰り返す永久循環が発生しており、それを 200 回で止めた場合、その効果のマスターはパワーを+1000 する行動を 200 回実際に実行するのではなく処理され、最終的にパワーを +200000 されます。
- 17.1.1.5. 永久循環の認定、運用には大きな裁量の範囲が存在します。両方ファイターの同意、もしくはジャッジの判断で認定されます。

17.2. 追加のターン

- 17.2.1. ファイターが‘追加のターン’を得た場合、現在のターンの直後にそのファイターがターンファイターのターンを追加します。
- 17.2.2. 同一に 2 つ以上ターンが追加された場合、最も後に解決されたテキストによって追加されたターンから先に行われます。

例: ターンファイター→非ターンファイター→ターンファイターの順に、‘あなたは追加の 1 ターンを得る。’というテキストを解決しました。この場合、‘現在のターン→ターンファイターの追加のターン→非ターンファイターの追加のターン→ターンファイターの追加のターン→非ターンファイターのターン’の順番でターンが進行されます。

17.3. ギーゼカード

- 17.3.1. 一部カードに、‘ギーゼカード’と呼ばれる、カードの表裏の両面に情報が書かれている物があります。
- 17.3.1.1. ギーゼカードをデッキ内のカードとして使用する際は、不透明スリーブを使用して他のカードと区別がつかないようにする必要があります。
- 17.3.2. ギーゼカードの両面はそれぞれ、ノーマルユニットである側を‘ネオンギーゼ面’、G ユニットである側を‘破壊の竜神 ギーゼ面’と呼びます。
- 17.3.3. ギーゼカードはすべての領域において、‘適用面’と呼ばれる状態を有します。この状態は‘ネオンギーゼ面’か‘破壊の竜神 ギーゼ面’かのいずれかになります。
- 17.3.3.1. ゲーム中、ルールや能力や効果が特定のギーゼカードの情報を参照する場合、それはそのギーゼカードの適用面に対応する面の情報を参照します。
- 17.3.3.1.1. 適用面でない面の情報は、それを特に指定して参照する場合を除き、常に存在しないものとして扱います。
- 17.3.3.2. ゲーム開始の時点では、すべてのギーゼカードの適用面はネオンギーゼ面です。
- 17.3.3.3. 何らかの理由でギーゼカードがサークルでも G ゾーンでもない領域に移動する場合、その適用面はネオンギーゼ面になります。サークルや G ゾーンに移動する場合、カードの適用面は効果による指示がないかぎり維持されます。
- 17.3.3.4. 適用面が変更されても、それは同一のカードです。そのカードに適用されている効果や状態はそのまま維持されます。
- 17.3.3.5. カードの適用面は、ゲーム中ではスリーブ内でその適用面に対応する面が見えるようにすることで示します。
- 17.3.4. ギーゼカードは他のカードと同様に、表向き状態や裏向き状態の配置状態を持ちます。
- 17.3.5. 通常のカードとは異なり、ギーゼ状態の表向き状態や裏向き状態は、それぞれ‘適用面に対応する面が見えるようにする’/‘スリーブにより情報が隠されている側の面が見えるようにする’ことでそれを示します。

17.4. カードの種類数

17.4.1. カードの種類数を数える場合、特にどの情報の種類数であるかの指定がなければ、カード名の種類数を数えます。

17.4.1.1. カード名の種類数を数える場合、カードの枚数は参照しません。

例:あるファイターがマスターであるユニットが1体あり、それがカード名「ブラスター・ブレード」と「ブラスター・アロー」の両方を持つ場合、そのファイターの「ブラスター」を含むユニットは2種類です。

17.4.1.2. グレードなど、指定がある場合は指定されたもので決定します。

17.5. ターンを終了する処理

17.5.1. ゲーム中、何らかの理由でターンが終了する指示が行われた場合、以下の処理を実行します。

17.5.1.1. 現在発生している、'このターン中' や次のターン以降を期限とするものを除く、継続効果の期限が終了します。

17.5.1.2. 現在がエンドフェイズでない場合、その効果の処理がすべて終了した後、チェックタイミングを実行せずに、ゲームがエンドフェイズに移行します。

17.5.2. ターンを終了する処理の後に1点以上のヴァンガードダメージが残っている場合、エンドフェイズのルール処理でダメージ処理(13.6)を実行します。

17.5.3. ターンを終了する処理の時点で待機状態の自動能力のプレイ(11.7.10)は、エンドフェイズのチェックタイミングで実行されます。

17.6. 星域属性のサークル

17.6.1. カードの効果により、特定のサークルが星域属性を追加で持つことがあります。星域属性を持つサークルには、以下のルールが適用されます。

17.6.1.1. 種族が〈星神〉でないユニットは、属性が星域であるサークルを指定してノーマルコールすることができません(9.9.2.1)。

17.6.1.2. このサークルを指定して種族が〈星神〉であるユニットをノーマルコールする場合、そのユニットはヴァンガードのグレードに関係なくコールできます(9.9.2.1)。

17.6.1.3. このサークルにいるユニットは、このサークルが後列であってもアタックすることができます。

17.6.1.4. このサークルにいるユニットがアタックを行う場合、このユニットはドライブチェックを行います。

17.6.1.4.1. このサークルのユニットが行うドライブチェックで、ルールによりトリガーゾーンのカードが手札に入る際、手札ではなくソウルに置かれます。これは置換効果ではなく、置換効果が適用される前に適用されます。

17.6.1.5. エンドフェイズの処理として、このサークルにいるユニットはオーナーの山札の一番下に置かれます(9.11.5)。

17.6.1.6. なんらかの理由でこのサークルに種族が〈星神〉でないユニットが存在する場合、そのユニットはルール処理で退却します(13.11.1)。

17.6.1.7. このサークルが呪縛属性になった場合、その呪縛カードはルール処理でドロップゾーンに置かれます(13.11.2)。

17.7. 楽曲オーダー

17.7.1. オーダーカードのうち、サブタイプが「楽曲」であるものは、以下に示す特殊な処理を行います。

17.7.2. 楽曲オーダーをプレイし解決した場合、そのカードをドロップゾーンに置くのではなく、中央後列のサークルに置きます。

17.7.2.1. 楽曲オーダーはサークルには横向きに置かれます。このカードは向きを表わす状態(4.3.2)を持たず、スタンド状態やレスト状態であるとはみなされません。

17.7.2.2. 楽曲オーダーをサークルに置く際、そのサークルにユニットがいた場合、そのユニットを退却した後に楽曲オーダーをサークルに置きます。

17.7.2.2.1. 楽曲オーダーを置くサークルが呪縛状態である場合、その呪縛カードをドロップゾーンに置き、その後に楽曲オーダーをサークルに置きます。

17.7.2.3. 楽曲オーダーを置いたサークルが星域属性(17.6)である場合、その楽曲オーダーをそのサークルに置いた後、チェックタイミングを待たずにただちにドロップゾーンに置きます。

17.7.3. 楽曲オーダーはサークルに置かれますが、ユニットではなく、リアガードとして扱われません。

17.7.4. 楽曲オーダーのあるサークルにユニットが置かれる場合、そのユニットをそのサークルに置いた後、チェックタイミングを待たずにただちにその楽曲オーダーをドロップゾーンに置きます。

17.7.5. サークルに置かれている楽曲オーダーは、エンドフェイズ中にドロップゾーンに置かれます(9.11.4)。

付録A1:疑似カードマーカの情報

トークン「プラント」



グレード:0
パワー:5000
クリティカル:1
スキルアイコン:ブースト
テキスト:なし

トークン「幻焰」



グレード:3
パワー:13000
クリティカル:1
スキルアイコン:ツインドライブ!!
テキスト:【永】【(R)】:アタックしたバトルでは、ドライブチェックを行う。

トークン「妖魔変幻」



グレード:0
パワー:0
クリティカル:1
シールド:5000
スキルアイコン:インターセプト
テキスト:【永】【(R)】:アタックできず、後列からインターセプトできる。

チケット

「クイックシールド」



グレード:0
タイプ:ブリッツオーダー
テキスト:このバトル中、アタックされたあなたのユニット1体のパワー+5000。

トークン「支配の仮面」



グレード:0
パワー:0
クリティカル:0
スキルアイコン:なし
テキスト:なし

マーカ

「メアの贈り物」



(テキスト無し)
有効領域:手札
消去領域:それ以外の領域

付録 A2:記録型マーカの情報

マーカ「暗黒繭」



【永】このマーカが置かれたユニットは、元々の能力を失い、パワーが元々のパワー分減り、インターセプトとブーストができない。
【自】このマーカが置かれたユニットが退却した時、あなたの山札からそのユニットと同じグレードを1枚まで探し、公開して手札に加え、山札をシャッフルする。(暗黒繭マーカを置いたファイターが探す)

付録B:能力が無効なカード

以下のカードのテキストに書かれた能力は無効であり、効果は発生しません。

- MB/010 「“男”」
- MB/011 「“操れない男” 田中終一」
- MB/012 雲井叶絵

更新記録

2020 年 12 月 21 日

マーカと疑似カードに関する定義を統一しました。

「メアの贈り物」マーカを定義しました。